DSP AV アンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX757

取扱説明書

ヤマハ DSP AV アンプ DSP-AX757 をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

もくじ

はじめに

安全上のご注意 4
本機の特長 9
付属品を確認する 9
各部の名称とはたらき 10
　フロントパネル（前面）. 10
　リモコン 12
　ディスプレイ 14
リモコンを準備する. 16

接続する

スピーカーを接続する 17
　スピーカーを設置する 17
　スピーカーを接続する 18
外部機器と接続する. 21
　接続の前に. 21
　映像機器を接続する 23
　オーディオ機器を接続する 29
その他の機器を接続する 32
　外部パワーアンプを接続する 32
　アンテナを接続する 33
　電源コードを接続する 34
　電源を入れる 34

再生前の基本設定

操作内容をテレビに表示する
　（オンスクリーン表示）. 35
　表示の種類. 35
　表示の切り替え 35
最適な視聴空間を自動的に設定する
　（AUTO SETUP） 36
　設定の流れ. 36
　オプティマイザーマイクを設置する 36
　測定を開始する 37

基本的な再生のしかた

基本的な再生のしかた 42
　DVD を再生する 42
FM ／ AM 放送を聴く 45
音場プログラムガイド
　ーなにを再生しますか？ 48
こんな操作をしたいときには… 49

いろいろな再生のしかた

サラウンド再生を楽しむ 50
　ドルビーデジタル／ DTS ソフトを再生する 50
　マルチチャンネル入力の音声を聴く 51
　２チャンネルソースをマルチチャンネルで
　　楽しむ. 51
　ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ
　　（サイレントシネマ） 52
　サラウンド L ／ R スピーカーなしで音場プログラム
　　を楽しむ（バーチャルシネマ DSP） 53
ステレオ再生を楽しむ 54
　ステレオ再生する（2ch ステレオ） 54
　高音質でステレオ再生する
　　（ピュアダイレクト） 54
その他の再生のしかた 55
　夜間に小音量で音声を楽しむ
　　（ナイトリスニングモード） 55
　音場効果をかけずに再生する
　　（ストレートデコードモード). 56
　音楽と映像で異なる入力ソースを楽しむ
　　（バックグラウンドビデオ機能） 56
FM ／ AM 放送局を登録する 57
　FM 放送局を自動登録する（オートプリセット） . . 57
　手動で登録する（マニュアルプリセット). 58
　登録した放送局を選んで聴く
　　（プリセット選局） 59
　登録した放送局を入れ替える 60

視聴空間をより細かく設定する（セットメニュー）

セットメニュー一覧. 62
　AUTO SETUP. 62
　MANUAL SETUP 62
セットメニューの操作手順. 63
音声出力の設定を変更する
　（SOUND MENU). 64
　スピーカーのサイズを設定する
　　（SPEAKER SET） 64
　スピーカーの音量を調節する
　　（SPEAKER LEVEL） 67
　各スピーカーからリスニングポジション
　　までの距離を設定する（SP DISTANCE). 68
　センタースピーカーの音色を調節する
　　（EQUALIZER） 69
　低域効果音の音量を調節する（LFE LEVEL). . . . 69
　ダイナミックレンジを設定する
　　（DYNAMIC RANGE） 70
　その他の音声出力を設定する（AUDIO SET） . . . 70

入出力の設定を変更する
（INPUT MENU） 71
入出力端子の割り当てを変更する
（I/O ASSIGNMENT） 71
電源を入れたときに適用する入力モード
を設定する（INPUT MODE） 72
入力に名前をつける（INPUT RENAME） 72
各端子の出力レベルを調節する 73
その他の設定を変更する
（OPTION MENU） 74
表示の設定を変更する（DISPLAY SET） 74
変更した設定値を保護する
（MEMORY GUARD） 75
音場プログラムパラメーターを初期化する
（PARAM. INI） 76
スピーカー B の設置場所を設定する
（MULTI ZONE SET） 76

リモコンを使いこなす

リモコンのはたらき 77
本機を操作する 77
他の機器を操作する 77
本機のリモコンで他の機器を操作する . . . 78
リモコンで操作する機器を設定する 78
メーカーコード一覧 80
設定した機器を操作する 82
本機のライブラリーコードを変更する 83
他の機器のリモコン機能を記憶させる 83
リモコンに表示される機器の名前を変更する 85
リモコンを初期化する 86

便利な機能

デジタル信号／アナログ信号を切り替える
（入力モード切り替え） 88
スピーカーの音量を調節する 89
一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする
（スリープタイマー） 90
スリープタイマーを設定する 90
スリープタイマーを解除する 90
入力信号情報を表示する 91
外部機器で録音／録画する 92

オリジナルのリスニング環境をつくる

音場とは？ 93
音場を構成する要素 93
音場の種類 93
音場プログラムパラメーターを変更
する 94
パラメーターを初期設定に戻す 94
音場プログラムパラメーターガイド 95

その他の情報

音場プログラムについて 99
HiFi DSP 音場プログラム .99
CINEMA DSP 音場プログラム 100
ストレートデコードプログラム 102
入力信号別音場プログラム名一覧 103
入力信号と再生スピーカー対応表 104
故障かな？と思ったら 107
全般 107
FM ／ AM 放送の受信 111
リモコン 111
本機の設定を変更する
（ADVANCED SETUP） 112
ADVANCED SETUP の操作手順 112
ADVANCED SETUP のメニューと項目 112
全ての設定を初期設定に戻す 113
用語／技術解説 .114
音声フォーマット編 114
音場プログラム編 115
音声編 116
映像編 116
主な仕様 117
索引 118
ヤマハホットラインサービスネットワーク
. 119

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば⚠は「感電注意」を示しています。

してはいけない行為を表しています。
たとえばⓍは「分解禁止」を示しています。

必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。 • 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。 • ステープルで止めない。 • 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。 • 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺 • 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水滴の混入により火災や感電の原因となります。

接触禁止

雷がなりはじめたらアンテナや電源プラグには触れない。

感電の原因となります。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。 • じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- あおむけや横倒しには設置しない。 • 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因となります。

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

必ず行う

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

禁止

本機にものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

必ず行う

再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

移動をするときには、本機(または接続機器)の電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。

- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴力障害の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

必ず行う

電池は極性表示（プラス⊕とマイナス⊖）に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。

注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

必ず行う

電源プラグは確実にコンセントに根もとまで差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

必ず行う

屋外アンテナ工事には、技術と経験が必要です。販売店にご依頼ください。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

必ず行う

重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行う。

けがの原因となることがあります。

本機の電源を切っても(電源コードをコンセントから抜いた状態)、選んだ入力ソース、音量、セットメニューの設定、プリセットされた放送局などは本機に記憶されています。ただし、電源を切った状態が1週間以上続くと、記憶内容が消去されることがあります。

音楽を楽しむエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

DOLBY DIGITAL・EX PRO LOGIC IIx

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts 96/24 ES NEO:6

DTS、DTS-ES Extended Surround、NEO:6およびDTS 96/24はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

SILENT CINEMA ™

「サイレントシネマ　SILENT CINEMA」はヤマハ株式会社の登録商標です。

AACロゴマークはドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

本機の特長

高音質ハイパワー７チャンネルアンプを搭載

◆ 定格出力(6Ω、20Hz～20kHz、歪率0.09%)
　フロントL／Rチャンネル：　100W＋100W
　センターチャンネル：　100W
　サラウンドL／Rチャンネル：100W＋100W
　サラウンドバックL／R
　チャンネル：　100W＋100W

最新の音響技術に対応

◆ ドルビープロロジックデコーダー
　ドルビープロロジックIIデコーダー
　ドルビープロロジックIIxデコーダー
◆ ドルビーデジタルデコーダー
　ドルビーデジタルEXデコーダー
◆ DTSデコーダー
　DTS／DTS-ESマトリクス6.1デコーダー
　ディスクリート6.1デコーダー
　DTS Neo:6デコーダー
　DTS 96／24デコーダー
◆ AACデコーダー

高機能FM／AMステレオチューナー

◆ 40局まで登録可能なプリセット選局
◆ オートプリセット選局
◆ プリセットされた放送局のエディット機能内蔵

高音質設計

◆ 192kHz､24ビットのD／Aコンバーターを採用

「シネマDSPエンジン」内蔵のマルチモードDSP

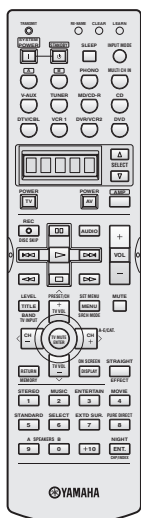
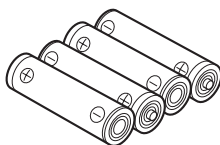
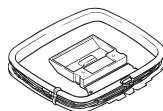
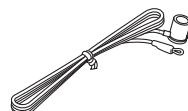
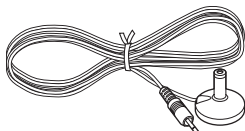
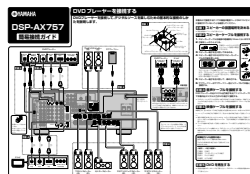
◆ シネマDSP：ヤマハが誇るDSPと、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS（デジタルシアターシステムズ）、AAC（アドバンストオーディオコーディング）の融合
◆ ヘッドホン使用時でも音場効果を体感できる「サイレントシネマ」
◆ 少ないスピーカーでもマルチチャンネル再生を仮想的に再現できるバーチャルシネマDSP機能

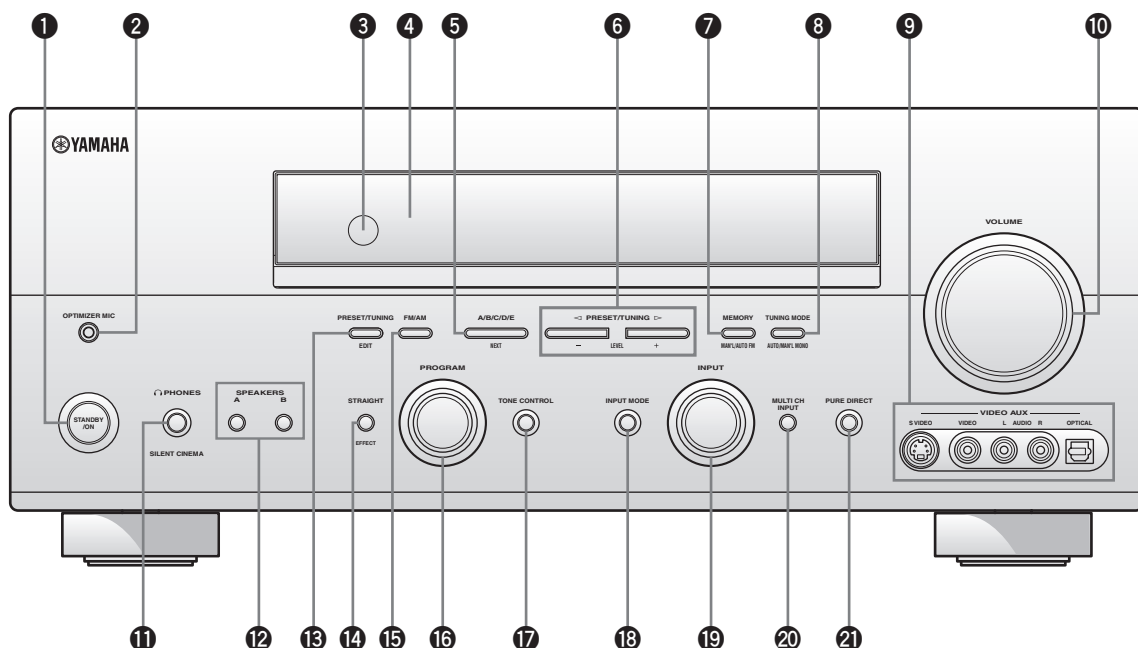
AVアンプにふさわしい多機能構成

◆ 視聴空間最適化システム「YPAO」(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)搭載
◆ 音場効果を最大限に引き出すための設定ができるセットメニュー
◆ DVDオーディオやスーパーオーディオCDにも対応できるMULTI CH IN（マルチチャンネル入力）端子
◆ アナログ／PCMソースを原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生するピュアダイレクト
◆ 操作内容を本機につないだテレビに表示するオンスクリーン表示機能
◆ Sビデオ入出力端子
◆ コンポーネントビデオ（D4ビデオ）入出力端子
◆ 光デジタル（OPTICAL）、同軸デジタル（COAXIAL）入出力端子
◆ ビデオコンバージョン機能：コンポジットビデオ信号⇔Sビデオ信号の相互変換、Sビデオ信号→コンポーネントビデオ信号へ上位変換
◆ スリープタイマー
◆ ナイトリスニングモード（映画用／音楽用）
◆ メーカーコード設定／ラーニング機能付リモコン

付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

リモコン

単４乾電池（４本）

AMループアンテナ

FM簡易アンテナ

オプティマイザーマイク

簡易接続ガイド

各部の名称とはたらき

フロントパネル（前面）

❶ STANDBY（スタンバイ）/ON（オン）スイッチ

本機の電源の入／待機（スタンバイ）を切り替えます。
なお、電源を入れてから数秒間は音が出ません。

ご注意

スタンバイ状態になっている間も、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量ながら電力を消費します。

❷ OPTIMIZER（オプティマイザー） MIC（マイク）端子

付属のオプティマイザーマイクを接続して最適な視聴空間を自動的に設定します（☞36 ページ）。

❸ リモコン受光窓

リモコンからの信号を受信します。

❹ ディスプレイ

プログラムの名称や、設定などを表示します（☞14 ページ）。

❺ A/B/C/D/E キー

FM ／ AM ラジオ放送を聴くときに、プリセットグループ（A、B、C、D、E）を選びます（☞57 〜 61 ページ）。

NEXT（ネクスト）キー

入力が TUNER 以外のとき、音量を調節するスピーカーを選びます。

❻ PRESET（プリセット）/TUNING（チューニング） ◁／▷ キー

聴く放送局を選びます。1 〜 8 の登録（プリセット）した局から選ぶか、周波数で選局します（☞46、59、60、61 ページ）。

LEVEL（レベル） −／＋キー

入力が TUNER 以外のとき、NEXT キー（❺）で選んだスピーカーの音量を調節します。

❼ MEMORY（メモリー）（MAN'L（マニュアル）/AUTO（オート） FM（エフエム)）キー

受信した放送局を登録（プリセット）します。3 秒以上押すと、オートプリセット機能になります（☞57、58、59 ページ）。

❽ TUNING MODE（AUTO/MAN'L MONO）キー

自動（オート）選局または手動（マニュアル）選局を選びます。自動選局する場合は、このキーを押してAUTOインジケーターを点灯させます。手動選局する場合は、AUTO インジケーターを消します（☞46、57 ページ）。

❾ VIDEO AUX端子

ゲーム機やビデオカメラなどの外部機器を接続する予備入力端子です。
この端子に入力された信号を再生するには、INPUTセレクターやリモコンの入力選択キーで、「V-AUX」を選んでください。

❿ VOLUMEコントロール

本機の音量を調節します。
録音用のOUT（REC）端子の音量には影響しません。

⓫ PHONES（SILENT CINEMA）端子

ヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると、すべてのスピーカーや本機につないだ外部機器から音が出ません。深夜に音声を楽しむ際は、ヘッドホンをお使いくださるようおすすめします。ヘッドホン接続時は、「サイレントシネマ」で音声を楽しめます（☞52 ページ）。

⓬ SPEAKERS A／Bスイッチ

FRONT A／B SPEAKERS端子に接続されたフロントL／Rスピーカーのうち、音声を出力するスピーカーを選びます（☞43 ページ）。

⓭ PRESET/TUNING（EDIT）キー

FM／AM放送を聴くときに、あらかじめ登録（プリセット）した局から選ぶか、または周波数から選局するかを切り替えます。また、登録した局の入れ替えもこのキーで行います（☞60、61 ページ）。

⓮ STRAIGHT／EFFECTキー

音場効果をかけない音声と、音場効果をかけた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号（2チャンネルまたはマルチチャンネル）を対応するデコーダーで忠実にデコードし、音場効果をかけずに再生します（☞56 ページ）。

⓯ FM/AM キー

ラジオ放送局のFM、AMを切り替えます。

⓰ PROGRAMセレクター

音場プログラムを選びます。また、TONE CONTROLキーを押したあとにスピーカーから出力される低音（BASS）／高音（TREBLE）の調節をするときに回します（☞44、49 ページ）。

⓱ TONE CONTROLキー

フロントL／Rスピーカー、センタースピーカー、プレゼンススピーカーおよびサブウーファーから出力される音声の音色を調節するときに押します（☞49 ページ）。

⓲ INPUT MODEキー

ひとつの外部機器を本機のふたつ以上の入力端子に接続している場合に、入力信号（AUTO、DTS、AAC、ANALOG）の優先順位を設定します（☞88 ページ）。

⓳ INPUTセレクター

再生する入力ソースを選びます（☞49 ページ）。

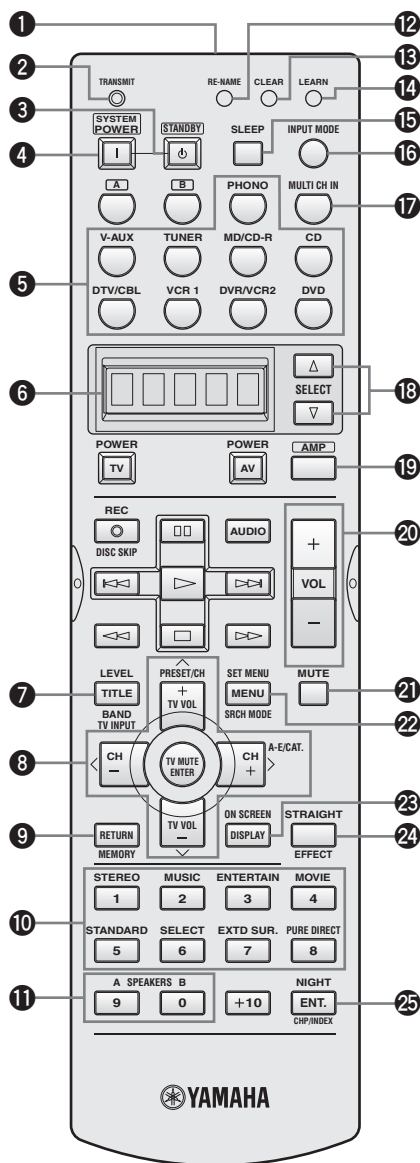
⓴ MULTI CH INPUTキー

本機背面のMULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます。この入力が選ばれているときは、INPUTセレクターやリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりもMULTI CH INPUT信号が優先されます（☞51 ページ）。

㉑ PURE DIRECTキー

アナログ／PCMソースを原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生するピュアダイレクトモードのオン／オフを切り替えます。

リモコン

本機の操作について説明します。
このリモコンを使って、他の機器も操作することができます。他の機器の操作について詳しくは、78ページの「本機のリモコンで他の機器を操作する」をご覧ください。

❶ 赤外線送信部

リモコン操作用の赤外線信号を送信します（☞16ページ）。送信部を操作したい機器に向けてください。

❷ TRANSMIT（トランスミット）インジケーター

リモコン操作の赤外線信号を送信しているときに点灯します。

❸ STANDBY（スタンバイ）キー

本機の電源をスタンバイ（待機状態）にします。

❹ SYSTEM（システム） POWER（パワー）キー

本機の電源を入れます。

❺ 入力選択キー

再生する入力ソースを選びます（☞49ページ）。入力ソースにあわせて、リモコンの機能も切り替わります。

❻ リモコンディスプレイ

操作できる機器の名前を表示します。

❼ LEVEL（レベル）キー

各スピーカー（フロントL／R、センター、サラウンドL／R、サラウンドバックL／R、プレゼンスL／R、サブウーファー）の音量調節モードに切り替えます。

BAND（バンド）キー

チューナーモードのとき、FM／AM局で最後に受信した局に切り替えます。

❽ カーソル（︿／﹀／〈／〉）キー

カーソルキーでセットメニューや音場プログラムパラメーターを選んだり、設定します。

ENTER（エンター） キー

選んだセットメニューや音場プログラムパラメーターを決定します。

A-E/CAT.（カテゴリー） 〈／〉キー

入力選択キーでTUNERを選んでいる場合、プリセットグループ（A、B、C、D、E）を選びます（☞59ページ）。

PRESET（プリセット） / CH（チャンネル） ︿／﹀キー

入力選択キーでTUNERを選んでいる場合、1～8の登録（プリセット）局番号を選びます（☞60ページ）。

❾ RETURN（リターン）キー

セットメニューを設定しているときにひとつ前のメニュー表示に戻ります（☞63ページ）。

⑩ 音場プログラムキー

音場プログラムを選びます（☞48 ページ）。

プリセット番号キー（1 〜 8）

入力選択キーでTUNERを選んでいる場合、1〜8の登録（プリセット）局番号を選びます。

SELECTキー

2チャンネルソースをマルチチャンネルで再生します（☞51 ページ）。

EXTD SUR. キー

ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソフトを6.1または7.1チャンネルで再生するときに押します（☞50 ページ）。

PURE DIRECTキー

アナログ／PCMソースを原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生するピュアダイレクトモードのオン／オフを切り替えます。

⑪ SPEAKERS A／Bキー

FRONT A／B SPEAKERS端子に接続されたフロントL／Rスピーカーのうち、音声を出力するスピーカーを選びます（☞43 ページ）。

⑫ RE-NAMEボタン

リモコンディスプレイに表示される入力ソース名を変更するときに押します（☞72 ページ）。

⑬ CLEARボタン

設定したメーカーコードや記憶（ラーニング）させた機能などを消去するときや、変更した機能名をもとに戻すときに押します（☞72 ページ）。

⑭ LEARNボタン

メーカーコードなどを設定するときや、他の機器のリモコン信号を記憶（ラーニング）させるときに押します（☞83 ページ）。

⑮ SLEEPキー

スリープタイマーを設定します（☞90 ページ）。

⑯ INPUT MODEキー

ひとつの機器をデジタル／アナログ両方の入力端子に接続している場合に、入力信号の優先順位を設定します（☞88 ページ）。

⑰ MULTI CH INキー

本機背面のMULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます。この入力が選ばれているときは、INPUTセレクターやリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりもMULTI CH INPUT信号が優先されます（☞51 ページ）。

⑱ SELECT ∆／∇キー

入力ソースを切り替えずに、リモコンで操作したい機器を切り替えたいときに押して、操作したい機器の名前をリモコンディスプレイに表示させます。

⑲ AMPキー

リモコンの機能を本機の操作用に切り替えます。

⑳ VOL ＋／－キー

本機の音量を調節します。
録音用のOUT(REC)端子の音量には影響しません（☞49 ページ）。

㉑ MUTEキー

消音します。消音している間は、ディスプレイのMUTEインジケーターが点滅します。
もう1度押すか本体のVOLUMEコントローラーを回すと、もとの音量に戻ります（☞49 ページ）。

㉒ SET MENUキー

セットメニューの設定に入るときに押します。

㉓ ON SCREENキー

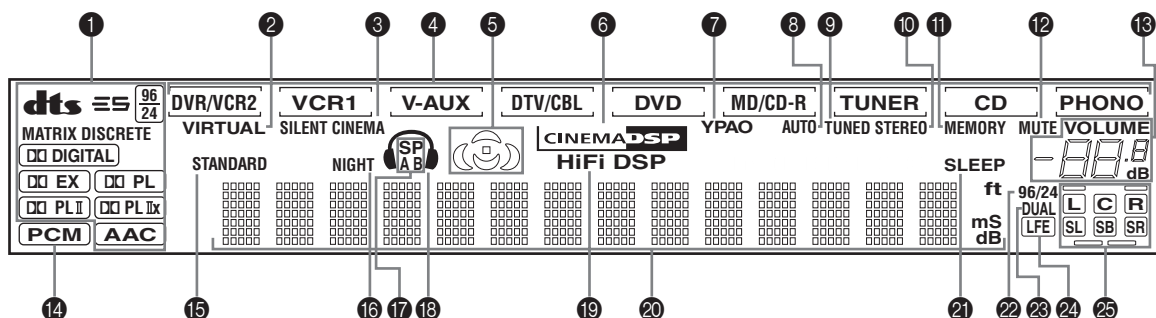
テレビ画面に本機の操作状態や音場プログラムの設定内容などを表示します。押すたびに表示モードが切り替わります。

㉔ STRAIGHT／EFFECTキー

音場効果を加えない音声と、音場効果を加えた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号（2チャンネルまたはマルチチャンネル）を対応するデコーダーで忠実にデコードし、音場効果をかけずに再生します（☞56 ページ）。

㉕ NIGHTキー

ナイトリスニングモードを切り替えます。ナイトリスニングモードを使うと、夜間など、小音量で音声を楽しむことができます（☞55 ページ）。

ディスプレイ

❶ デコーダーインジケーター

本機内蔵のデコーダーが作動しているときにそれぞれのインジケーターが点灯します。

❷ VIRTUALインジケーター

バーチャルシネマDSPモードで再生しているときに点灯します（☞53 ページ）。

❸ SILENT CINEMAインジケーター

ヘッドホンを接続して「サイレントシネマ」で再生しているときに点灯します（☞52 ページ）。

❹ 入力ソースインジケーター

現在選んでいる入力ソースの名前の上下に、「▭」が点灯します。

❺ 音場インジケーター

DSP音場プログラムを使っているときに、本機がどの音場を使って再生しているかを表示します。

❻ CINEMA DSPインジケーター

CINEMA DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します。

❼ YPAO インジケーター

AUTO SETUPの実行中およびAUTO SETUPでの設定が有効になっているときに点灯します。

❽ AUTOインジケーター

自動（オート）でFM／AM放送局を選ぶときに点灯します。

❾ TUNEDインジケーター

FM／AM放送局を受信したときに点灯します。

❿ STEREOインジケーター

自動（オート）でFM／AM放送局を選んでいるときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると点灯します。

⓫ MEMORYインジケーター

放送局を登録（プリセット）するときに点滅します。

⓬ MUTEインジケーター

MUTEキーを押して、消音しているあいだに点滅します（☞49 ページ）。

⓭ VOLUMEインジケーター

現在の音量を表示します。

⓮ PCM インジケーター

PCM信号を再生しているときに点灯します。
（PCM=Pulse Code Modulation）

⓯ STANDARDインジケーター

SUR. STANDARDまたはSUR. ENHANCEDが選択されているときに点灯します（☞51 ページ）。

⓰ NIGHTインジケーター

ナイトリスニングモードで再生しているときに点灯します（☞55 ページ）。

⑰ SP（スピーカー） A／Bインジケーター

選んでいるフロントL／Rスピーカー（A、B）を表示します（☞43 ページ）。A、Bとも選ばれている場合は、両方のインジケーターが点灯します。

⑱ ヘッドホンインジケーター

PHONES（SILENT CINEMA）端子にヘッドホンを接続しているときに点灯します。

⑲ HiFi（ハイファイ） DSPインジケーター

HiFi DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します。

⑳ マルチインフォメーションディスプレイ

音場プログラムの名前や設定値、放送局の周波数やプリセット番号を表示します。

㉑ SLEEP（スリープ）インジケーター

スリープタイマーが作動しているときに点灯します（☞90 ページ）。

㉒ 96／24インジケーター

DTS 96／24信号が入力されているときに点灯します。

㉓ DUAL（デュアル）インジケーター

ドルビーデジタル、DTS および AAC の DUAL MONO（☞70 ページ）またはMULTI MONOなど、音声多重モノラルのデジタル信号が入力されているときに点灯します。

㉔ LFE（エルエフイー） インジケーター

入力されているデジタル信号に、LFE（低域効果音）チャンネルが含まれているときに点灯します。

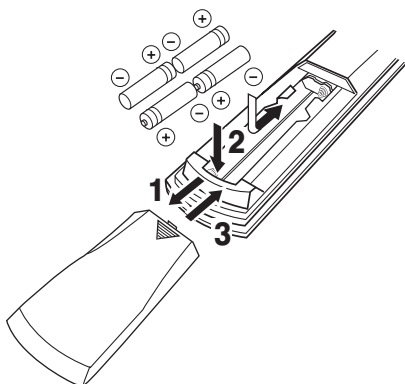
㉕ 入力信号チャンネルインジケーター

入力されているデジタル信号に含まれているチャンネル数に合わせて点灯します。

スピーカーインジケーター

セットメニューのSPEAKER LEVEL（☞67 ページ）を設定している際に、調節されているチャンネルが点滅します。

リモコンを準備する

■ リモコンに乾電池を入れる

1 **リモコンの電池カバーの▽マークを押しながら、カバーをリモコンから取りはずす。**

2 **付属の単４乾電池（４本）を、リモコンの電池ケースに入れる。**

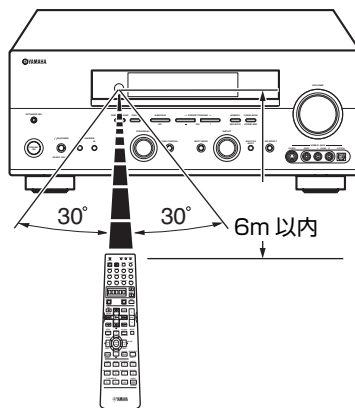
電池のプラス（＋）、マイナス（－）極性の向きを正しく入れてください。

3 **電池カバーをリモコンに装着する。**

ご注意

- リモコンで操作しにくくなった場合や、キーを押してもTRANSMITインジケーターが光らない、または光が弱い場合は、乾電池が消耗しています。このような場合は、すべての乾電池を新しいものに交換してください。
- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使用しないでください。新しい乾電池の寿命を縮めたり、古い乾電池から液が漏れることがあります。
- 種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものがありますのでご注意ください。
- 使い切った乾電池は、すぐに電池ケースから取り出してください。乾電池が破裂したり、乾電池から液が漏れることがあります。
- 使い切った乾電池は、自治体の条例または取り決めにしたがって破棄してください。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して破棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 乾電池を外したまましばらく（2分以上）放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておくと、リモコンに設定したメーカーコードが消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、メーカーコードを設定しなおしてください。

■ リモコンを使う

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

ヒント

リモコンでうまく操作できないときは、以下のことを確認してください。

－本体のリモコン受光窓が、布などで覆われていませんか？
⇒布などを取り除いてください。

－本体のリモコン受光窓に、直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっていませんか？
⇒照明の向きを変えるか、本体を置く場所を変えてください。

－乾電池が消耗していませんか？
⇒すべての電池を新しいものに変えてください。

■ リモコンの取り扱いについてのご注意

- 水やお茶、そのほかの液体をこぼさないでください。
- リモコンを落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 下記のような場所には置かないようご注意ください。
  - 風呂場の近くなど、湿度が高いところ
  - 暖房器具、ストーブの近くなど、温度が高いところ
  - 極端に寒いところ
  - ほこりの多いところ

スピーカーを接続する

スピーカーを設置する

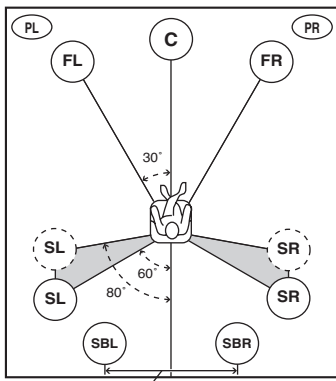
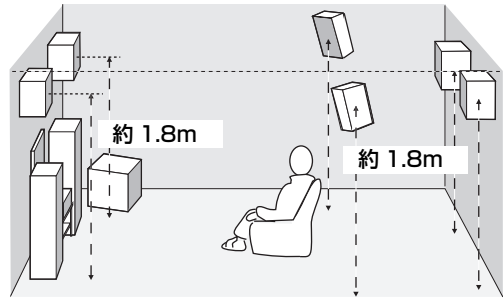
本機はフロントL／Rスピーカー（2本）、センタースピーカー（1本）、サラウンドL／Rスピーカー（2本）、サラウンドバックL／Rスピーカー（2本）の7スピーカーシステムを使って最良の音場効果が得られるよう設計されています。
また、サブウーファーを使うと、より豊かな音場効果を再現できます。

■ スピーカーを選ぶポイント

- 各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など（音色）が不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音色の揃ったスピーカーを使うことをおすすめします。
- 各スピーカーは同一メーカーが同じ時期に販売しているシリーズのものを揃えることをおすすめします。

■ 各スピーカーの役割と設置

下の図は、本機の性能を最大限に発揮できるスピーカー配置を示したもので、ITU-R基準配置（*）に対応しています。シネマDSPの音場効果から、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどのマルチチャンネルオーディオ再生までお楽しみいただけます。

* ITU-R基準配置：マルチチャンネルオーディオのミキシングスタジオで採用されている、国際的な基準配置です。

30cm 以上

フロントL／Rスピーカー（FL／FR）
フロントチャンネルの音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。
左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から1／4位の高さが適当です。

センタースピーカー（C）
会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。
フロントL／Rスピーカーの中間に設置します。テレビをお使いの場合は、画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところの中央に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。

サラウンドL／Rスピーカー（SL／SR）
サラウンド音と効果音を出力します。
左右後方に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さが適当です。

サラウンドバックL／Rスピーカー（SBR／SBL）
後方の効果音を出力します。
後方からスピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さが適当です。サラウンドバックLとサラウンドバックRスピーカーは30cm以上間隔を開けて設置してください。フロントL-フロントRスピーカーと同じ間隔が理想的です。

サブウーファー
ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に含まれるLFE（低域効果音）信号や、低音を出力します。
前方左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内向きに設置します。

プレゼンス L ／ R スピーカー（PR ／ PL）
シネマDSP前方の効果音を出力します。映画館のスクリーンの奥の方から聴こえてくる効果音を再現します。部屋前方のフロントL／Rスピーカーの外側0.5～1.0mの範囲に、少し内側に向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さが適当です。

ご注意

サラウンドバックL／RスピーカーとプレゼンスL／Rスピーカーの両方から同時に出力することはできません。セットメニュー「SPEAKER SET」のPRIORITY（☞66ページ）の設定により、音場プログラムや再生するソースに合わせて効果的に鳴らし分けることができます。

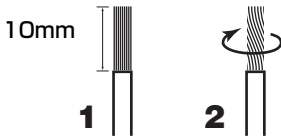
スピーカーを接続する

■ スピーカーケーブルを接続する

右チャンネル（R）、左チャンネル（L）、「+」（プラス、赤）、「−」（マイナス、黒）を確認して正しく接続してください。間違えて接続すると音が不自然になったり、低音が出なくなります。また、接続が不十分だと音がまったく出なくなります。

ご注意

- スピーカーは、インピーダンスが 6Ω 以上のものをお使いください。フロント L ／ R スピーカーを A、B 両方の端子に接続してお使いになる場合は、1 台につき 12Ω 以上のものをお使いください。
- スピーカーを接続する前に、本機の電源がスタンバイ状態になっていることをご確認ください。
- スピーカーコードの芯線はしっかりよじり、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、+（プラス）側と−（マイナス）側が接触すると、保護回路が作動して電源がスタンバイ状態になることがあります。
- スピーカーは防磁型スピーカーをお使いください。防磁型以外のスピーカーをお使いになりますと、テレビの画像が乱れることがあります。特に画面近くに設置するセンタースピーカーやサブウーファーには、防磁型スピーカーをお使いください。
  防磁型スピーカーをお使いの場合でも画像が乱れる場合は、テレビとスピーカーを離して設置してください。

一般的にスピーカーケーブルは、平行した２本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの１本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。
異なった色の（またはラインの入っている、などの）ケーブルを本機とスピーカーの「+」（プラス、赤）へ、もう片方のケーブルを「−」（マイナス、黒）へ接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を、10mm ぐらいはがす。

2 芯線をしっかりとよじる。

〈プレゼンススピーカー以外のスピーカー〉

3 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

4 スピーカー端子のわきの穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む。

5 スピーカー端子を右に回して、締め付ける。

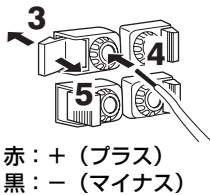
赤：＋（プラス）
黒：－（マイナス）

〈プレゼンススピーカー〉

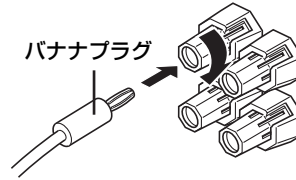
3 タブを開ける。

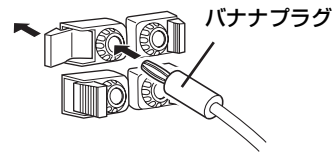
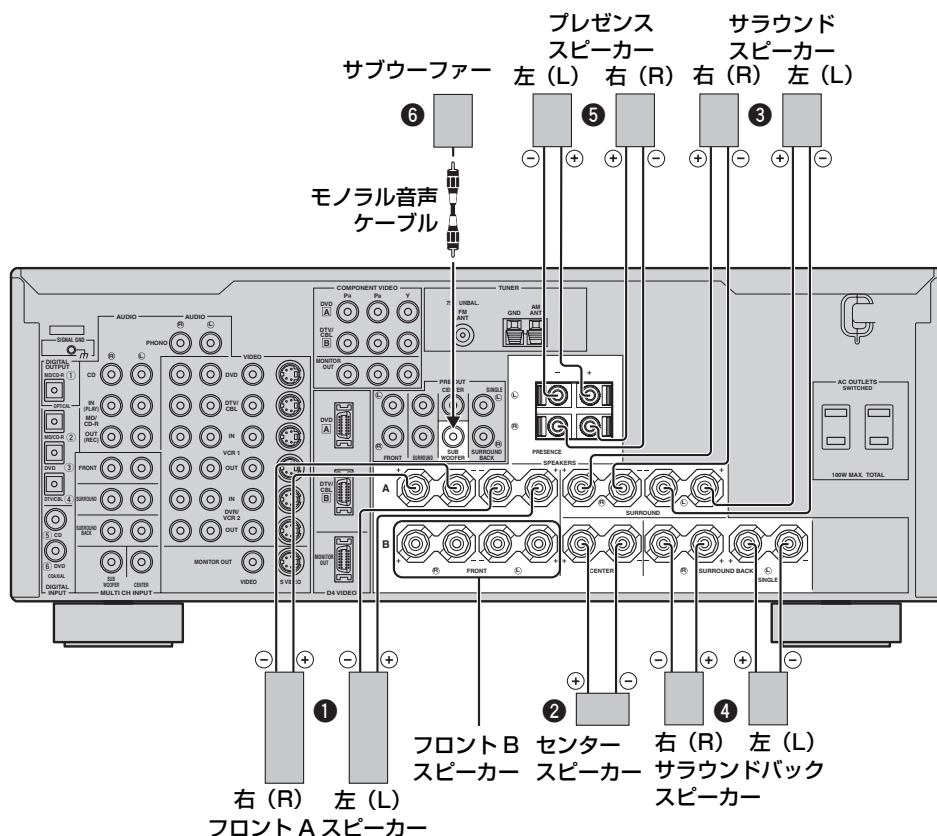
4 スピーカー端子の穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む。

5 タブを戻して、コードを固定する。

赤：＋（プラス）
黒：－（マイナス）

市販のバナナプラグを使う場合

〈プレゼンススピーカー以外のスピーカー〉

市販のバナナプラグを使う場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。

〈プレゼンススピーカー〉

タブを開けてから、差し込んでください。

下図のようにスピーカーを接続します。
各スピーカーの配置については、17 ページもあわせてご覧ください。

❶ FRONT端子

フロントL／Rスピーカーの出力端子です。フロントスピーカーを一組のみ設置する場合は、A、Bどちらかの端子へ接続してください。

ヒント

フロントL／Rスピーカーを2組設置したい場合や、もう1組のフロントL/Rスピーカーを別の部屋に設置して音声を楽しむ場合は、FRONT A／B端子の両方に接続します。

❷ CENTER端子

センタースピーカーの出力端子です。

❸ SURROUND端子

サラウンドL／Rスピーカーの出力端子です。

❹ SURROUND BACK端子

サラウンドバックL／Rスピーカーの出力端子です。

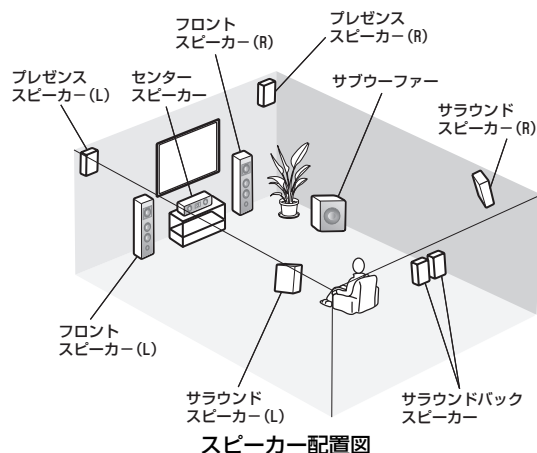
❺ PRESENCE端子

プレゼンスL／Rスピーカーの出力端子です。

❻ SUBWOOFER端子

ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーをお使いになる場合に使用します。

セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」の設定によりフロント、センターおよびサラウンドチャンネルからの低音域の信号はSUBWOOFER OUTPUT端子に送られます（☞65 ページ）。
また、ドルビーデジタル、DTS、AAC信号デコード時のLFE信号もSUBWOOFER OUTPUT端子に出力されます。

スピーカー配置図

外部機器と接続する

接続の前に

ご注意

接続する前に、本機および接続する機器の電源コードが、ACコンセントに接続されていないことをご確認ください。

■ 接続に使うケーブルの種類

お使いの機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

音声

1 同軸ケーブル

同軸デジタル端子（COAXIAL）

（オレンジ）

2 光ファイバーケーブル

光デジタル端子（OPTICAL）

3 ステレオピンケーブル

アナログ端子（ANALOG）

（白）

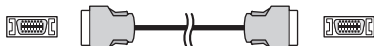
（赤）

4 モノラル音声ケーブル

（黒）

映像

1 D端子ケーブル

D端子（D4 VIDEO）

2 コンポーネントビデオケーブル

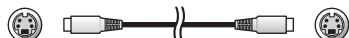
コンポーネントビデオ端子（COMPONENT VIDEO）

（緑）

（青）

（赤）

3 Sビデオピンケーブル

Sビデオ端子（S VIDEO）

4 ビデオ用ピンケーブル

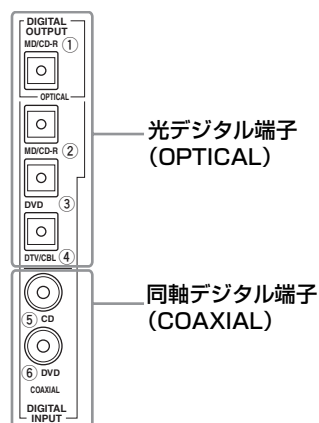
ビデオ端子（VIDEO）

（黄）

■ アナログ端子について

オーディオ機器を本機のアナログ端子に接続すると、アナログ音声をお楽しみいただけます。
接続には、ステレオピンケーブルを使います。赤いプラグを「R」端子へ、白いプラグを「L」端子へ接続してください。

■ デジタル端子について

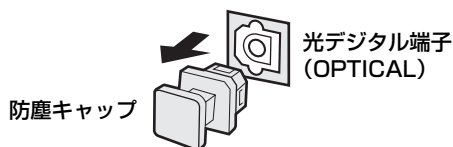
本機はデジタル信号を直接伝送できる光デジタル端子（OPTICAL）と同軸デジタル端子（COAXIAL）を装備しています。
接続には、同軸ケーブルまたは光ファイバーケーブルを使用します。

- デジタル端子はPCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC兼用です。
- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子に、同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子に入力された信号が優先されます。
- 本機のデジタル入力端子は、以下のサンプリング周波数に対応しています。

－32kHz：　BSアナログ放送（Aモード）
－44.1kHz：CD、MD
－48kHz：　DVD（48kHzモード）、
　　　　　　BSアナログ放送（Bモード）、
　　　　　　BS／地上波デジタル放送
－96kHz：　DVD（96kHzモード）

ご注意

- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しています。アナログ端子から入力されたアナログ信号はアナログ出力端子（OUT（REC））へのみ出力されます。
  また、デジタル端子（OPTICAL、COAXIAL）から入力されたデジタル信号は、デジタル出力端子からのみ出力されます。
- 本機の光デジタル端子は、EIAJ 規格に基づいて設計されています。EIAJ 規格を満たさない光ファイバーケーブルを使うと、正常に作動しないことがあります。

防塵キャップについて

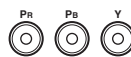
光ファイバーケーブルを接続する場合は、光デジタル端子についているキャップを抜いてから接続してください。抜いたキャップは大切に保管し、端子を使わないときには、ほこりの侵入を防ぐため、必ずキャップを差し込んでください。

■ ビデオ端子について

本機は４種類のビデオ端子を装備しています。

❶ ビデオ端子

コンポジットビデオ信号を伝送します。

❷ Sビデオ端子

Sビデオ信号（色信号：C、輝度信号：Y）を伝送します。
Sビデオ入出力端子がある機器をSビデオ端子に接続すれば、ビデオ端子（❶）よりも高画質な映像を再生できます。

❸ コンポーネントビデオ端子

コンポーネントビデオ信号（赤色差信号：P_R、青色差信号：P_B、輝度信号：Y）を伝送します。
コンポーネントビデオ入出力端子がある機器をコンポーネントビデオ端子に接続すれば、ビデオ端子（❶）またはSビデオ端子（❷）よりもさらに高画質な映像を再生できます。

❹ D4ビデオ端子

コンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比などの情報)を伝送します。
D端子がある機器をD4ビデオ端子に接続すれば、ビデオ端子（❶）またはSビデオ端子（❷）よりもさらに高画質な映像を再生できます。

これらの端子に入力された信号は、それぞれ同じ種類のMONITOR OUT端子に出力されます。
再生機器とテレビのビデオ端子をご確認のうえ、両方に共通する端子を使って接続してください。
最良の画質でお楽しみいただくために、なるべく画質の良い端子を使って接続してください。

ヒント

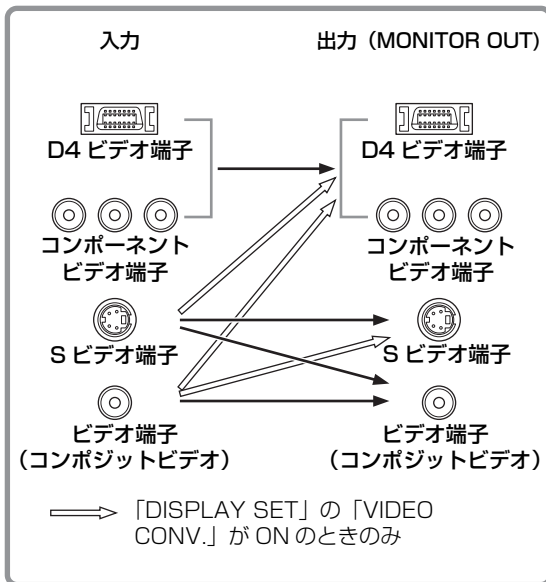
- Sビデオ端子とビデオ端子の両方に信号が入力されている場合は、Sビデオ信号が優先されます。
- コンポーネントビデオ出力（MONITOR OUT）端子とD4 ビデオ出力（MONITOR OUT）端子は同時に使うことができます。例えば、コンポーネントビデオ出力端子にプロジェクターを、D4 ビデオ出力端子にテレビを接続して、同じ映像を両方でお楽しみいただけます。

ご注意

- 本機のSビデオ端子は、S1 ／ S2 規格には対応していません。
- D4 ビデオ端子を使って接続する場合は、お使いの再生機器とテレビの D 端子をご確認のうえ、D 端子の規格（D1 ～ D4）を合わせてください。
- コンポーネントビデオ入力端子とD4ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いの再生機器をご確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

■ ビデオ信号の変換について

本機では下記のように入力されたビデオ信号を別の方式に変換して出力することができます（ビデオコンバージョン機能）。

- Sビデオ信号は、コンポジットビデオ信号に変換され、ビデオ出力（MONITOR OUT）端子にも出力されます。
  また、セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」の設定により、コンポーネントビデオ信号に変換され、コンポーネントビデオ出力端子およびD4ビデオ出力端子にも出力されます（☞74ページ）。
- コンポジットビデオ信号は、セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」の設定により、Sビデオ信号に変換され、Sビデオ出力端子にも出力されます（☞74ページ）。
  また、変換されたSビデオ信号は、さらにコンポーネントビデオ信号に変換され、コンポーネントビデオ出力端子およびD4ビデオ出力端子にも出力されます。

映像機器を接続する

DVDプレーヤーなど、お手持ちの映像機器を本機に接続することができます。
左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）をご確認のうえ、正しく接続してください。
すべての端子を使って接続する必要はありません。お使いになる機器の端子をご確認のうえ、音声でひとつ、映像でひとつを接続してください。

ヒント

最良の画質でお楽しみいただくために、ビデオ端子はなるべく画質の良い端子を使って接続することをおすすめします。画質については、22ページの「ビデオ端子について」をご覧ください。

ご注意

- 本機の入力／出力端子は電源を入れた状態で正常に機能します。必ず電源を入れた状態でお使いください。
- ビデオコンバージョン機能がオフのときは（☞74ページ）、お手持ちの映像機器と本機、テレビと本機を同じ種類の端子を使って接続してください。例えば、映像機器と本機をビデオ端子を使って接続している場合は、テレビと本機もビデオ接続してください。
  ビデオコンバージョン機能がオフのときも、映像機器から入力されたSビデオ信号は本機内部でコンポジットビデオ信号に変換されます。

■ DVD プレーヤーを接続する

DVD プレーヤーの接続例です。

音声ケーブルの接続

DVD プレーヤーに光デジタル出力端子がある場合は、本機の光デジタル入力（DVD）端子に接続します。

ヒント

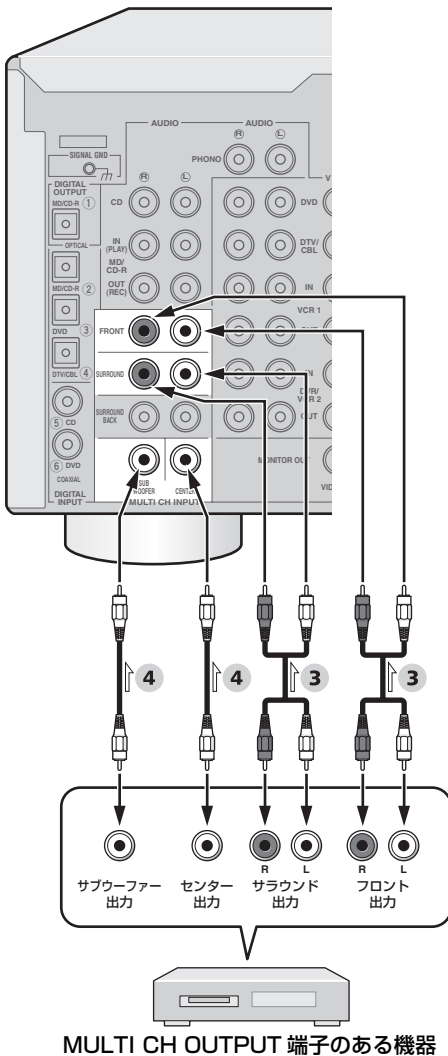
DVD プレーヤーにデジタル出力端子がない場合は、アナログ音声出力端子を、本機のアナログ音声入力 (DVD) 端子に接続します。

映像ケーブルの接続

DVD プレーヤーのビデオ出力端子を、本機のビデオ入力 (DVD) 端子に接続します。

■ マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

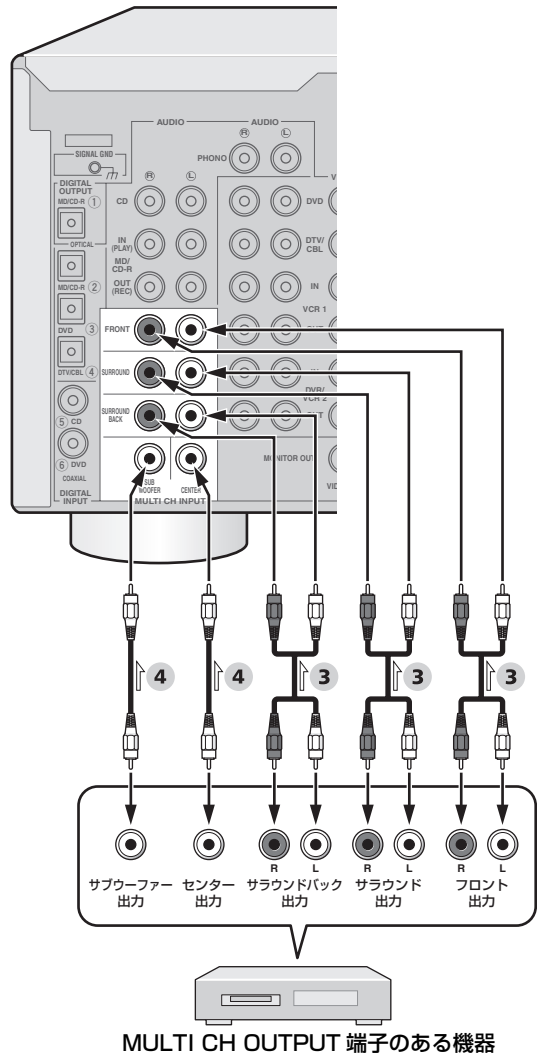
本機には、マルチチャンネル入力端子（フロントL／R、センター、サラウンドL／R、サブウーファー）が装備されています。
DVD プレーヤーやスーパーオーディオ CD プレーヤーなど、マルチチャンネル音声出力端子がある機器と本機を接続すると、マルチチャンネル音声をお楽しみいただけます。

ご注意

- MULTI CH INPUT 端子から入力した信号には、本機の音場効果はかかりません。
- 本機には、入力信号のないスピーカーの音を補うために信号を転送する機能はありません。マルチチャンネル音声をお楽しみいただくには 5.1 チャンネルまたは 5.1 チャンネル以上のスピーカーシステムを使用することをおすすめします。
- ヘッドホン使用時には、フロント L ／ R チャンネルの音声のみヘッドホンに出力されます。

■ 6チャンネル音声を入力する場合

MULTI CH OUTPUT 端子のある機器

■ 8チャンネル音声を入力する場合

MULTI CH OUTPUT 端子のある機器

■ 衛星放送／ケーブルテレビチューナーを接続する

音声ケーブルの接続

衛星放送／ケーブルテレビチューナーに光デジタル出力端子がある場合は、本機の光デジタル入力（DTV/CBL）端子に接続します。

ヒント

衛星放送／ケーブルテレビチューナーに光デジタル出力端子がない場合は、アナログ音声出力端子を、本機のアナログ音声入力(DTV/CBL)端子に接続します。

映像ケーブルの接続

衛星放送／ケーブルテレビチューナーのビデオ出力端子を、本機のビデオ入力(DTV/CBL)端子に接続します。

衛星放送／ケーブルテレビチューナー

■ ビデオデッキ／DVD レコーダーを接続する

音声ケーブルの接続

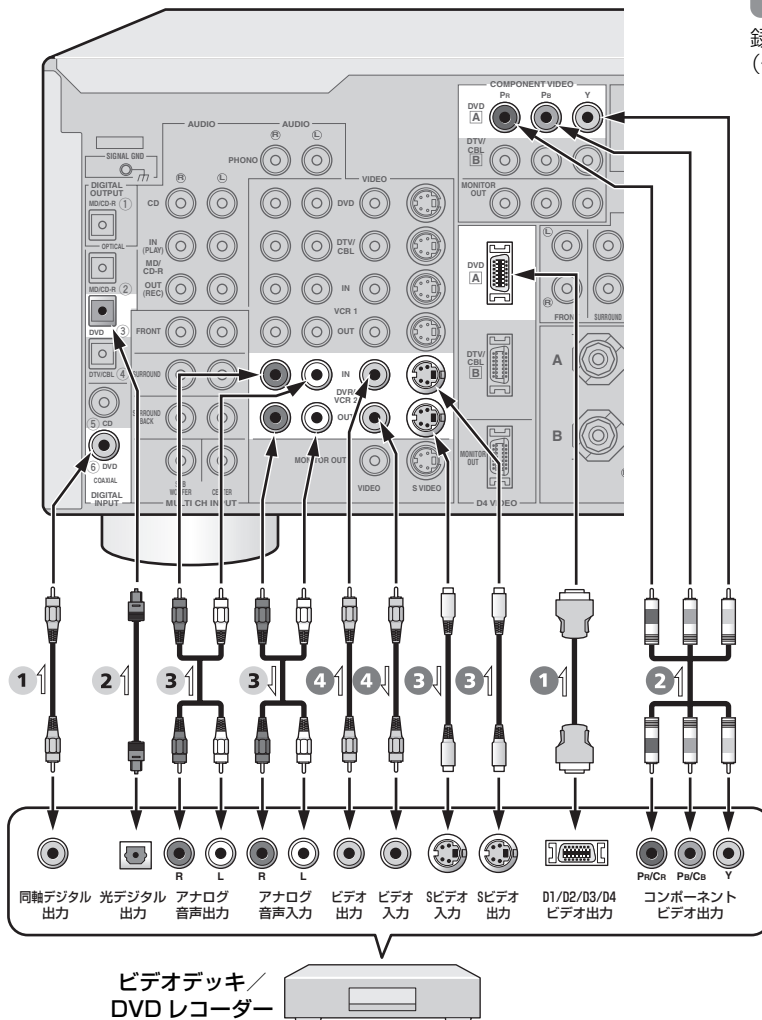
- 再生する場合は、ビデオデッキ／ DVD レコーダーのアナログ音声出力端子を、本機のアナログ音声入力 (VCR) 端子に接続します。
  接続する機器に光デジタル出力端子がある場合は、本機の空いている光デジタル入力端子に接続してデジタル音声をお楽しみいただけます。この場合は、セットメニュー「I/O ASSIGN」で接続した端子の割り当てを変更することをおすすめします（☞71 ページ）。
- 録画する場合は、ビデオデッキ／ DVD レコーダーのアナログ音声入力端子を、本機のアナログ音声出力 (VCR) 端子に接続します。

映像ケーブルの接続

- 再生する場合は、ビデオデッキ／ DVD レコーダーのビデオ出力端子を、本機のビデオ入力 (VCR) 端子に接続します。
  接続する機器に D 端子やコンポーネント出力端子がある場合は、本機の空いている D4 ／コンポーネント入力端子に接続して映像をお楽しみいただけます。この場合は、セットメニュー「I/O ASSIGN」で接続した端子の割り当てを変更することをおすすめします（☞71 ページ）。
- 録画する場合は、ビデオデッキ／ DVD レコーダーのビデオ入力端子を、本機のビデオ出力 (VCR) 端子に接続します。

ご注意

録画する場合は、同じ種類のビデオ接続（例：S VIDEO）を行ってください。

音声

1. 同軸ケーブル
2. 光ファイバーケーブル
3. ステレオピンケーブル

映像

1. D端子ケーブル
2. コンポーネントビデオケーブル
3. Sビデオケーブル
4. ビデオ用ピンケーブル

■ LD プレーヤーを接続する

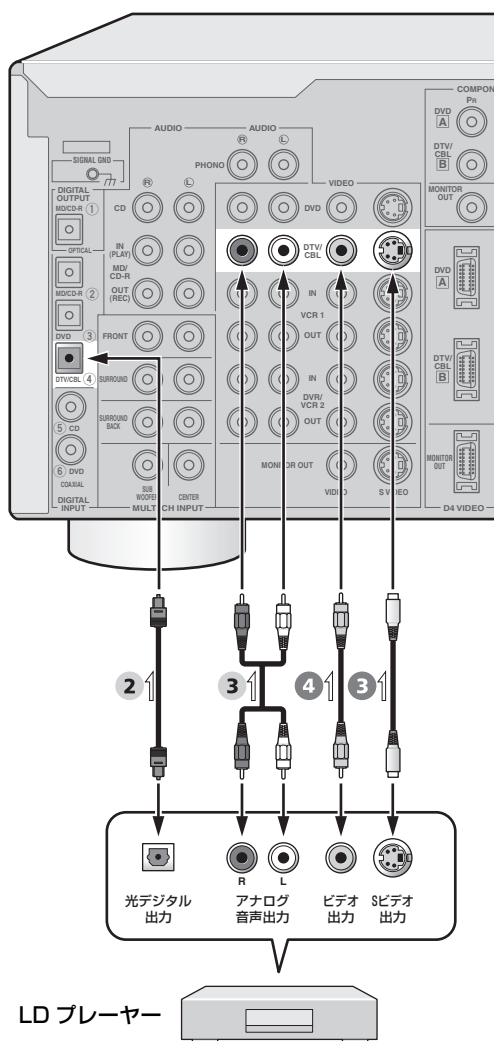
音声ケーブルの接続

- LD プレーヤーにドルビーデジタル RF 出力端子がある場合は、市販の RF デモジュレーターに接続してから、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。
- LD プレーヤーに光デジタル出力端子がある場合は、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。

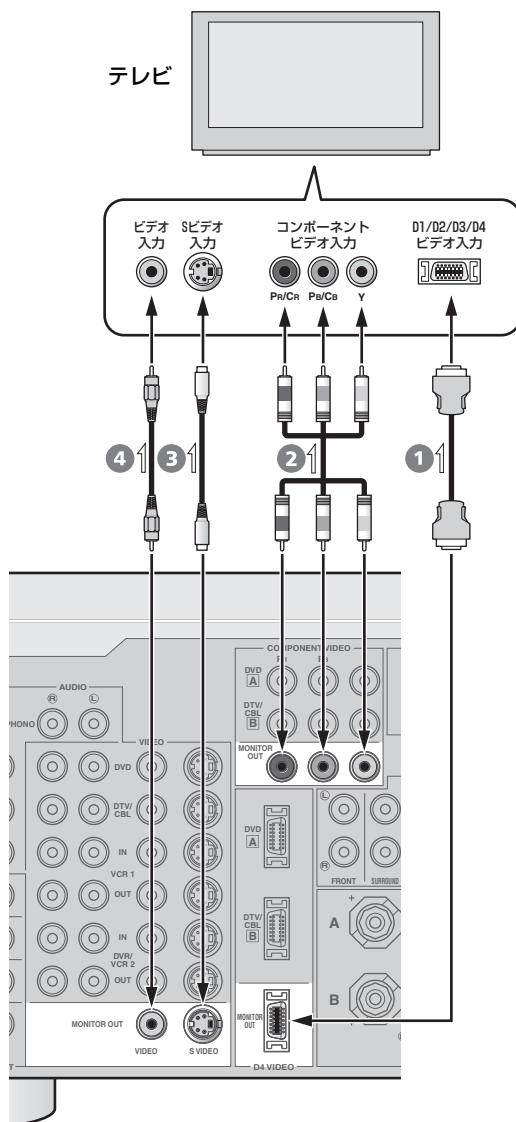
ヒント

LD プレーヤーにデジタル出力端子がない場合は、アナログ音声出力端子を、本機の空いているアナログ音声入力端子に接続します。

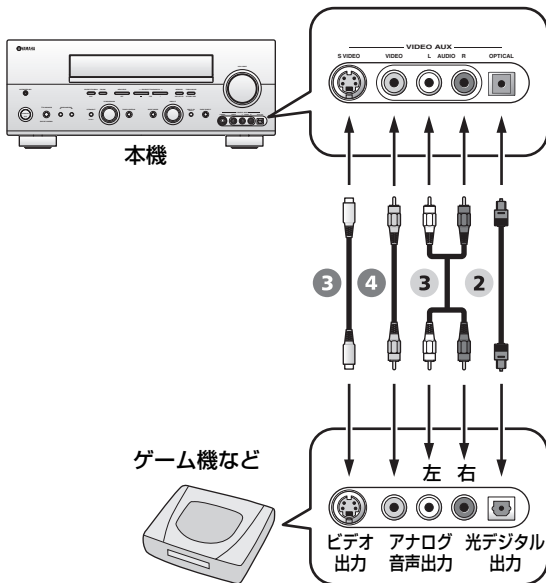
映像ケーブルの接続

LD プレーヤーのビデオ出力端子を、本機の空いているビデオ入力端子に接続します。

■ テレビを接続する

テレビのビデオ入力端子を本機のMONITOR OUT端子に接続します。お使いになるテレビにあわせて、ひとつを選んで接続してください。

映像

1. D端子ケーブル
2. コンポーネントビデオケーブル
3. Sビデオケーブル
4. ビデオ用ピンケーブル

■ ゲーム機やビデオカメラを接続する

本機前面のVIDEO AUX端子に接続します。

音声

- 2 光ファイバーケーブル
- 3 ステレオピンケーブル

映像

- 3 Sビデオケーブル
- 4 ビデオ用ピンケーブル

オーディオ機器を接続する

CDプレーヤーなど、お手持ちのオーディオ機器を本機に接続することができます。
左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）をご確認のうえ、正しく接続してください。
すべての端子を使って接続する必要はありません。お使いになる機器の端子をご確認のうえ、音声でひとつ、映像でひとつを接続してください。

ご注意

本機の入力／出力端子は電源を入れた状態で正常に機能します。必ず電源を入れた状態でお使いください。

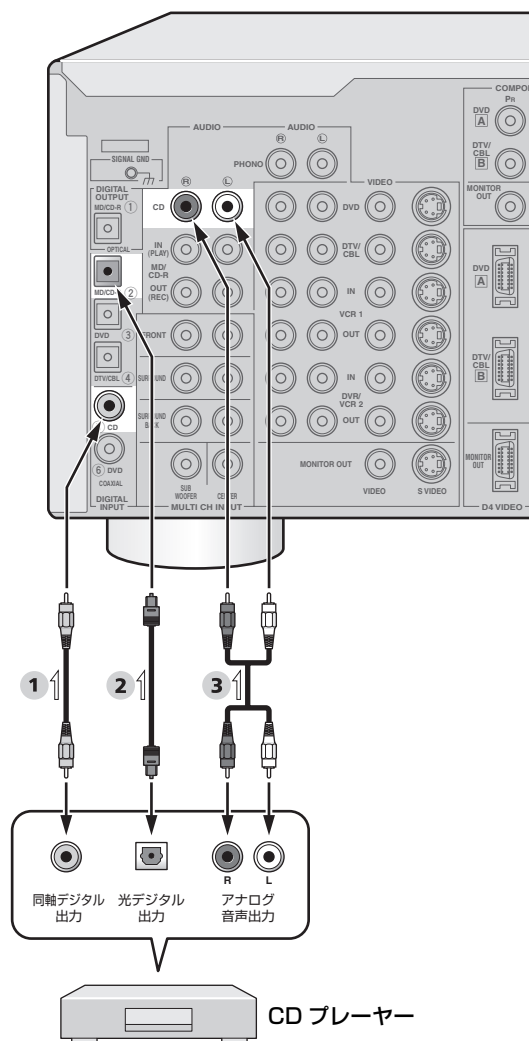
接続する

■ CD プレーヤーを接続する

CDプレーヤーに光デジタル出力端子がある場合は、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。
お手持ちのCD プレーヤーに同軸デジタル出力端子がある場合は、本機の同軸デジタル入力端子に接続することもできます。

ヒント

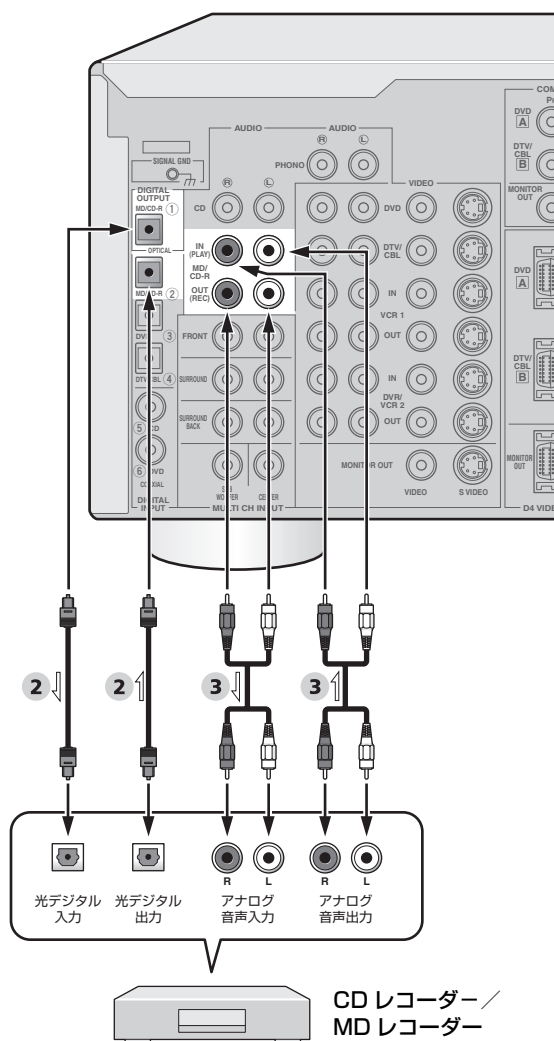
CD プレーヤーにデジタル出力端子がない場合は、アナログ音声出力端子を、本機のアナログ音声入力 (CD) 端子に接続します。

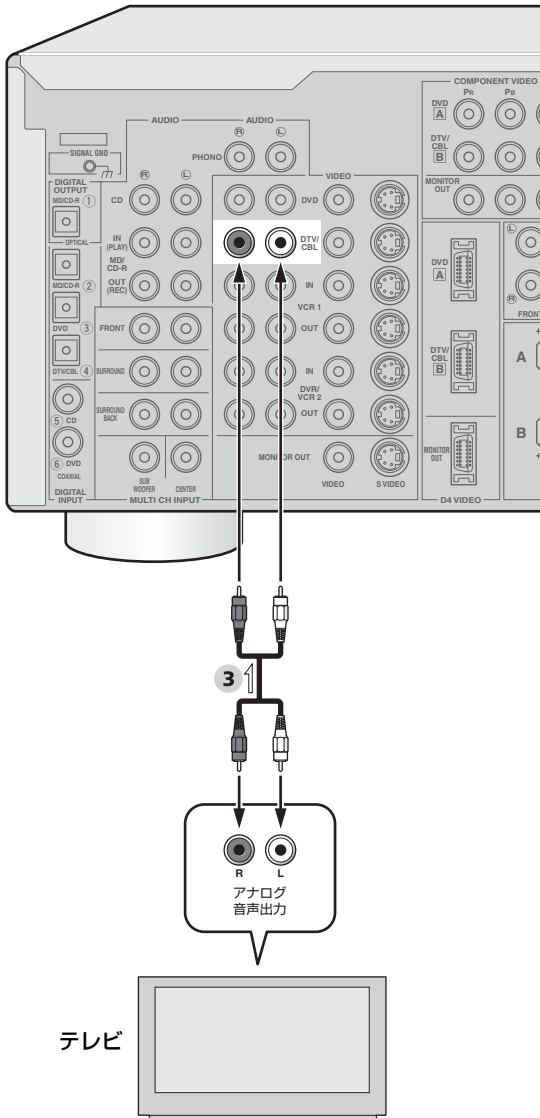
音声

1 同軸ケーブル
2 光ファイバーケーブル
3 ステレオピンケーブル

■ MD レコーダー／CD レコーダーを接続する

- 再生する場合は、MD レコーダー／ CD レコーダーの光デジタル出力端子を、本機の光デジタル入力 (MD/CD-R) 端子に接続します。
- 録音する場合は、MD レコーダー／ CD レコーダーの光デジタル入力端子を、本機の光デジタル出力 (MD/CD-R) 端子に接続します。

ヒント

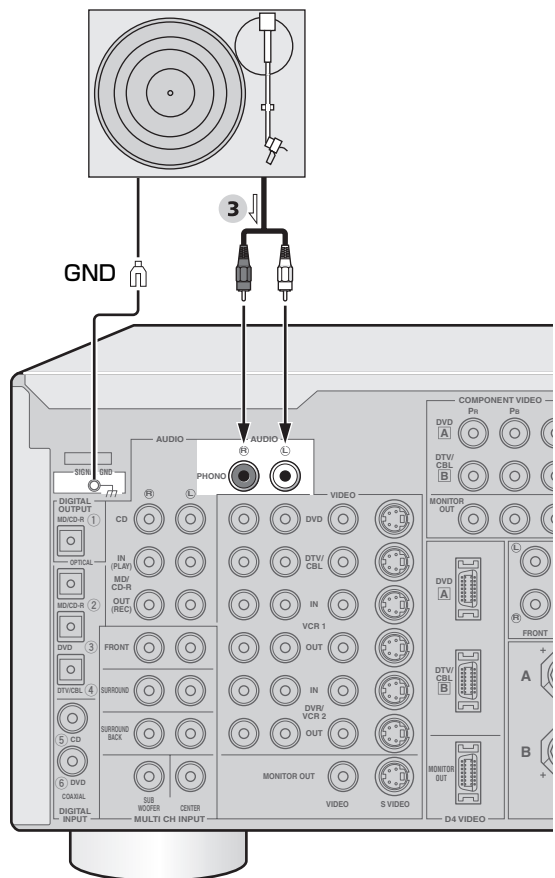
- MD レコーダー／ CD レコーダーにデジタル入出力端子がない場合は、オーディオ入出力端子を、本機のアナログ音声入出力 (MD/CD-R) 端子に接続します。
- カセットデッキを接続する場合は、同様にアナログ音声入出力 (MD/CD-R) 端子に接続します。

■ テレビ（音声）を接続する

テレビのアナログ音声出力端子を、本機の空いているアナログ音声入力端子に接続します。

音声

3 ステレオピンケーブル

■ レコードプレーヤーを接続する

お手持ちのレコードプレーヤーのアナログ音声出力端子を本機のPHONO（AUDIO）端子へ、GNDを本機のSIGNAL GND端子へ接続します。

MMカートリッジまたは高出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、そのままアナログ音声入力（PHONO）端子に接続します。低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプを使用してアナログ音声入力（PHONO）端子に接続します。

音声

3 ステレオピンケーブル

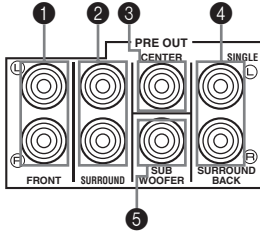
ご注意

SIGNAL GND端子は安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減することができます。

接続する

外部パワーアンプを接続する

■ 外部パワーアンプを接続する

スピーカー出力をパワーアップするために外部パワーアンプ（プリメインアップ）をお使いになる場合や、お手持ちのアンプをお使いになる場合などは、PRE OUT端子と接続します。

❶ FRONT（フロント）端子

フロントL／Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、フロントL／Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❷ SURROUND（サラウンド）端子

サラウンドL／Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、サラウンドL／Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❸ CENTER（センター）端子

センターチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、センタースピーカーを駆動させる場合に使います。

❹ SURROUND（サラウンド） BACK（バック）端子

サラウンドバックL／Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、サラウンドバックL／Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

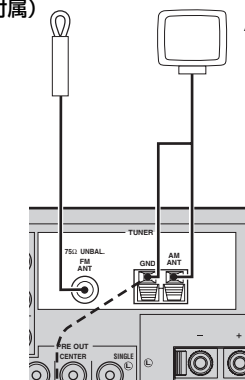
❺ SUBWOOFER（サブウーファー）端子

ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内臓サブウーファーをお使いになる場合は、この端子に接続します。
フロント、センター、サラウンドおよびサラウンドバックチャンネルからの低音信号が出力されます。

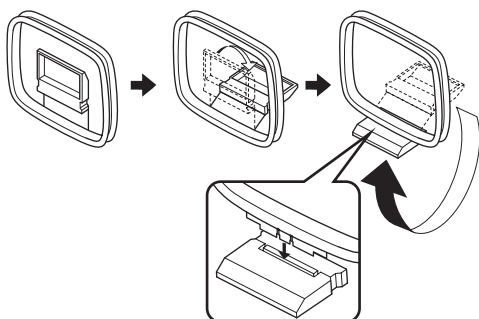
ご注意

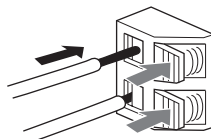
- 外部パワーアンプへ出力するためにRCAピンプラグをPRE OUT端子に接続したときは、対応するスピーカー端子を使わないでください。また接続する外部パワーアンプの音量は最大にしてください。
- FRONT PRE OUT端子とCENTER PRE OUT端子から出力される信号は、TONE CONTROL機能によって調節することができます（☞49ページ）。
- FRONT SPEAKERS A端子に接続されたスピーカーの出力がオフで、MULTI ZONEメニューのSP BがZONE Bに設定されているときはFRONT PRE OUT端子からのみ音が出力されます。
- 各PRE OUT端子は対応するスピーカー端子と同じチャンネル成分を出力します。
- サブウーファーの音量は、お使いのサブウーファー本体で調節します。本機のリモコンを使って調節することもできます。詳しくは89ページの「スピーカーの音量を調節する」をご覧ください。
- セットメニュー「SOUND MENU」の「SPEAKER SET」（☞64ページ）と「LFE/BASS OUT」（☞65ページ）の設定によりSUBWOOFER PRE OUT端子から音が出力されない場合があります。

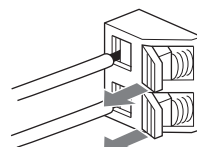
アンテナを接続する

本機には、AMループアンテナおよびFM簡易アンテナが付属しています。付属のアンテナでうまく受信ができない場合は、屋外アンテナを接続してください。

アース（GND 端子）
GND 端子は安全アースではありません。雑音が多いときに、接続すると雑音を低減することができます。アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

■ AMループアンテナを接続する

1 **アンテナをアンテナスタンドに取り付ける。**

2 **AM ANT端子とGND端子のレバーを押し込んだ状態で、AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込む。**

コードに極性はありません。

3 **レバーを放して、コードを固定する。**

コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。

ヒント

- 受信がうまくいかない場合は、アンテナを左右に回し受信状態が最も良くなる方向に向けてください。
- 放送を良好に受信するためには、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ご注意

- AMループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続してください。

■ FM簡易アンテナを接続する

付属のFM簡易アンテナをFM ANT端子に接続してください。

FM屋外アンテナを接続するときは

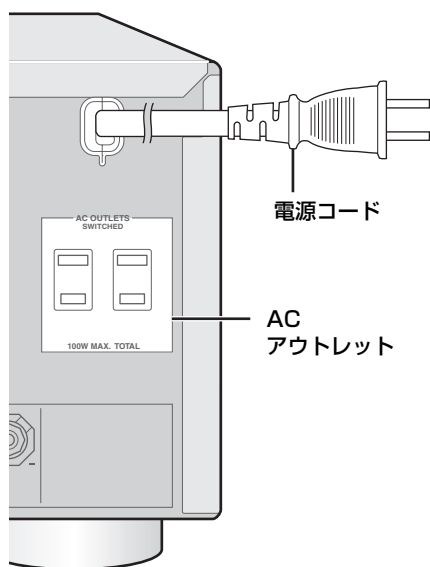
市販のF型コネクターを使って、アンテナの同軸ケーブルをFM ANT端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

電源コードを接続する

■ ACアウトレット

外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のSTANDBY/ONスイッチと連動しています。合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器を接続し、電源を供給することができます。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

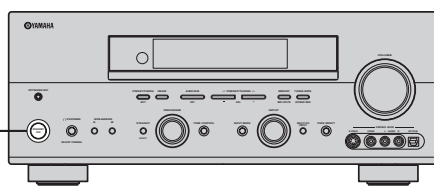
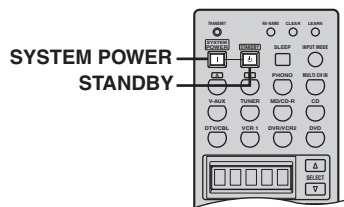
■ 電源コード

すべての接続が終了したら、家庭用AC100V、50／60HzのACコンセントに電源コードのプラグを接続します。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

本機後面

■ メモリーバックアップ機能について

本機は電源がスタンバイ時にも、設定などを保存できます。電源コードをACコンセントから抜いたりして、電源を1週間以上入れないと、保存された設定などは消去されますのでご注意ください。

電源を入れる

全ての接続が終わったら、本機の電源を入れます。

本体のSTANDBY/ONスイッチ（またはリモコンのSYSTEM POWERキー）を押します。

もう一度本体のSTANDBY/ONスイッチを押すと、本機の電源はスタンバイ状態に戻ります。
またはリモコンのSTANDBYキーを押します。

操作内容をテレビに表示する（オンスクリーン表示）

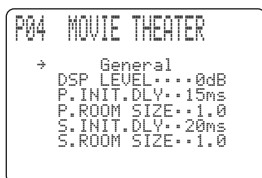
本機にテレビを接続すると、本機の操作内容などをテレビ画面に表示させることができます。
本体のディスプレイ表示に比べて、項目や設定値などが見やすく表示されるので、セットメニューや音場プログラムパラメーターを設定する際に便利です。

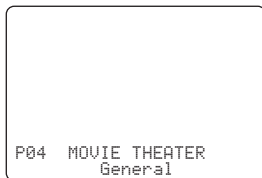
表示の種類

オンスクリーン表示には次の３種類があります。

フル表示

音場プログラムのパラメーターが、常にテレビ画面に表示されます。
入力を切り替えるときや音量を調節するときは、これらの操作内容がテレビ画面の下側に数秒間表示されます。

```
P04  MOVIE THEATER
  →     General
   DSP LEVEL····0dB
   P.INIT.DLY··15ms
   P.ROOM SIZE··1.0
   S.INIT.DLY··20ms
   S.ROOM SIZE··1.0
```

ショート表示

本体のディスプレイと同じ内容（操作状態）が、テレビ画面の下に数秒間表示されたあと、消えます。

表示 OFF

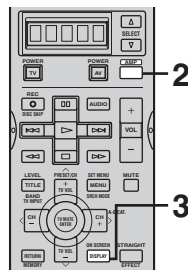
テレビ画面の下に「DISPLAY OFF」が表示されたあと、消えます。ON SCREEN キー以外のキーを操作しても何も表示されません。

ヒント

•映像信号が入力されているときは、映像に重ねて表示されます。
•セットメニューを使っているときは、表示の種類にかかわらず、常に内容が表示されます。
•オンスクリーン表示はVCR 1 OUT端子、DVR/VCR 2 OUT端子に出力されないので、映像と一緒に録画されることはありません。
•セットメニュー「DISPLAY SET」の「CMPNT OSD」をONに設定すると、コンポーネントビデオ（MONITOR OUT）端子またはD4ビデオ（MONITOR OUT）端子からオンスクリーン表示の信号を出力することができます(☞63、75 ページ)。

ご注意

- セットメニュー「DISPLAY SET」の「GRAY BACK」を OFF に設定すると、ビデオ信号が入力されていない場合、オンスクリーン表示は表示されません（☞74 ページ）。
- コンポーネントビデオ信号が入力されている場合、ショート表示はコンポーネントビデオ（MONITOR OUT）端子からは出力されません。
- コピーガード信号が入ったビデオソフトを再生したり、ノイズの多い映像信号を再生した場合、オンスクリーン表示がぶれることがありますが、本機の故障ではありません。

表示の切り替え

1 本機とテレビの電源を入れる。

2 AMP キーを押して、AMP を選ぶ。

リモコンディスプレイに「AMP」と表示されていることを確認してください。

3 ON SCREEN キーを押す。

押すごとに、表示内容がフル表示→ショート表示→表示OFF→フル表示→…の順に切り替わります。

最適な視聴空間を自動的に設定する（AUTO SETUP）

本機に搭載の「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）により、お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定することができます。スピーカーから出力されるテストトーンを、付属のオプティマイザーマイクが測定して、最適な視聴環境を自動的に設定します。

設定の流れ

オプティマイザーマイクを設置する
（☞右記参照）

↓

測定を開始する（☞37 ページ）

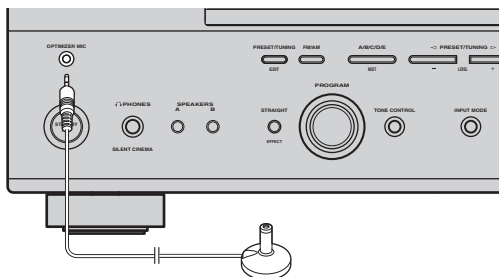
YPAOによって以下の測定が行われます。

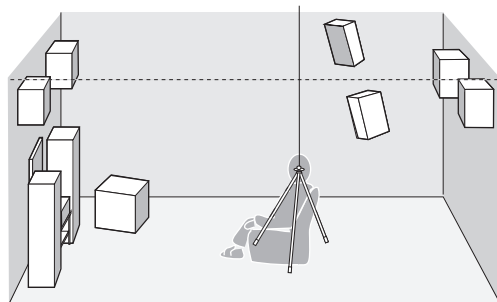
- WIRING：
  スピーカーの接続状態や極性をチェックします。
- SIZE：
  各スピーカーのサイズを設定します。
- DISTANCE：
  リスニングポジションから各スピーカーまでの距離をチェックし、遅延時間を設定します。
- EQUALIZING：
  各スピーカーの周波数特性を調節します。
  EQUALIZINGによる周波数特性の補正は、周波数、レベル、Qファクターの３つのパラメーターがそれぞれ独立して可変するパラメトリックイコライザーを使って行います。これらの組み合わせで、より精度の高い周波数特性の補正を、YPAOにより自動的に行うことができます。
- LEVEL：
  各スピーカーからの音量を調節します。

↓

結果を確認する（☞38 ページ）

オプティマイザーマイクを設置する

1 **本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続する。**

2 **オプティマイザーマイクを視聴位置（リスニングポジション）に、全方向マイクのヘッド部を上に向けて水平に置く。**

耳と同じ高さに設置固定するために三脚などを使うことをおすすめします。

ご注意

- オプティマイザーマイクは高温に弱いため、直射日光が当たる場所や、本機の上に置かないでください。
- 設定が終わったら、オプティマイザーマイクは外してください。

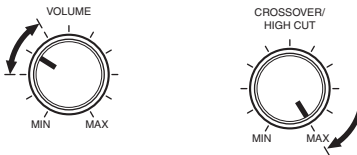
測定を開始する

AUTO SETUPの手順

ご注意

- 測定中は大きな音量でテストトーンが出ます。小さなお子様などがリスニングルームに入らないようご配慮ください。
- AUTO SETUPの手順が中断して画面にエラーメッセージが出たときは、40 ページの「表示メッセージについて」をご覧ください。

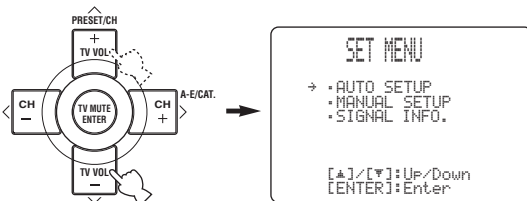
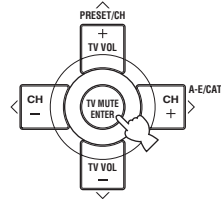
ヒント

サブウーファーを接続している場合は電源を入れて、下図の位置（半分よりやや小さめ）にボリュームを設定してください。また、クロスオーバー周波数／ハイカット周波数の設定機能がある場合は、クロスオーバー周波数／ハイカット周波数を最大に設定してください。

サブウーファー

1 本機とテレビの電源を入れる。

2 AMPキーを押して、AMPモードを選ぶ。

3 SET MENUキーを押す。

4 ∧または∨キーを押して、AUTO SETUPを選ぶ。

5 ENTERキーを押して決定する。

6 ∨キーを押して、「SETUP」を選ぶ。

7 ＜または＞キーを押して、設定の方法を選ぶ。

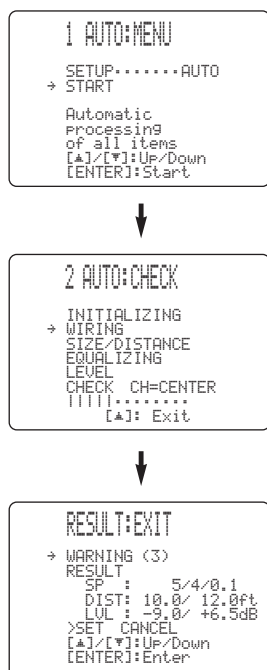
AUTO: すべての項目を自動的に設定します。
RELOAD: 前回のAUTO SETUPでの設定値に戻します。
UNDO: 前回のAUTO SETUPでの設定を無効にします。
DEFAULT: 工場出荷時の設定に戻します。

ご注意

RELOADおよびUNDOは、すでにAUTO SETUPでの設定を行っている場合にのみ選ぶことができます。

8 ∨キーを押して、「START」を選ぶ。

9 ENTERキーを押して測定を始める。

画面が以下のように変わります。

測定が終わるとRESULT:EXIT画面に結果が表示されます。

SP：接続されているスピーカーの数を以下の順で表示します。

フロント／バック／サブウーファー

DIST：本機からスピーカーまでの距離を以下の順で表示します。

最も近いスピーカーまでの距離／
最も遠いスピーカーまでの距離

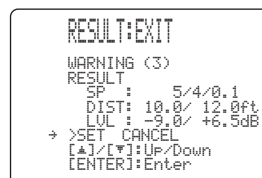
LVL：スピーカーの音量レベルを以下の順で表示します。

最も低い音量レベル／最も高い音量レベル

- 手順７でAUTOを選ぶと、「WAITING」と表示されて自動設定が始まり、各スピーカーから大きなテストトーンが出力されます。
- 手順７でDEFAULT、RELOAD、またはUNDOを選んだときは、テストトーンが出力されません。
- 画面に「ERROR」と表示された場合は、39ページの「エラーメッセージが表示される場合」をご覧ください。
- 画面に「WARNING」と表示された場合は39ページの「警告メッセージが表示される場合」をご覧ください。

ヒント

∨キーでRESULTを選んでENTERキーを押すと、測定結果の詳しい情報を表示することができます。詳細情報画面ではカーソルキー（∧／∨／＜／＞）を押して情報を切り替えます。

10 ＜／＞キーを押してSETまたはCANCELを選び、ENTERキーを押してSET MENU画面に戻る

SET:　　YPAOによる自動測定を適用します。
CANCEL: YPAOによる自動測定を取り消します。

ヒント

YPAOによる測定結果に満足できない場合や各パラメーターを手動で設定したい場合は、セットメニューの「MANUAL SETUP」で設定してください（☞62ページ）。

ご注意

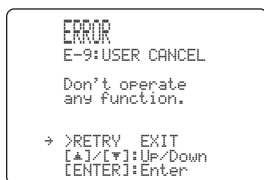
- 画面に「E-10」と表示された場合は手順3から操作をやり直してください。
- 手順の途中でAUTO SETUPを終了したい場合は、∧キーを押してください。

■ エラーメッセージが表示される場合

∧／∨／＜／＞キーを押してRETRY または EXIT を選び、ENTER キーを押して決定する。

```
ERROR
E-9:USER CANCEL

Don't operate
any function.

→ >RETRY  EXIT
[▲]/[▼]:Up/Down
[ENTER]:Enter
```

RETRY: もう一度、AUTO SETUP を始めます。
EXIT:　AUTO SETUP を終了します。

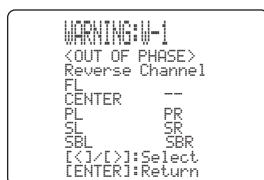
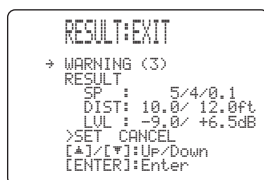
■ 警告メッセージが表示される場合

1 **ENTER キーを押して警告に関する詳しい情報を表示させる。**

＜／＞キーを押すと他のエラーメッセージに切り替わります。
警告メッセージについて詳しくは41 ページをご覧ください。

```
RESULT:EXIT

→ WARNING (3)
RESULT
   SP  :    5/4/0.1
   DIST: 10.0/ 12.0ft
   LVL : -9.0/ +6.5dB
>SET  CANCEL
[▲]/[▼]:Up/Down
[ENTER]:Enter
```

```
WARNING:W-1
<OUT OF PHASE>
Reverse Channel
FL
CENTER      --
PL          PR
SL          SR
SBL         SBR
[<]/[>]:Select
[ENTER]:Return
```

警告 W-1 の表示例

ヒント

- 警告メッセージによって、AUTO SETUP の操作の間に検出された潜在的な問題を知ることができます。警告メッセージが表示されても AUTO SETUP の操作を取り消すことはできません。
- 画面の「WARNING」の右側に警告の数が表示されます。
- 表示されている警告が関係のない場合は、「－－」がスピーカー名称の右に表示されます。

2 **ENTERキーを押してRESULT:EXIT画面に戻る**

38 ページの手順 10から続けてください。

ご注意

- リスニングルーム（視聴環境）やスピーカーの設置位置や配置を替えたときは、自動測定を再度行ってください。
- 視聴環境により、AUTO：CHECKの画面に「SWFR PHASE:REV」と表示されて、セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUBWOOFER PHASE」が自動的にREVERSEに設定される場合があります。必要に応じて「SUBWOOFER PHASE」の設定を変更してください（☞66 ページ）。
- 手順９のDISTANCE（本機とスピーカーの間の距離）の測定結果は、お使いのサブウーファーの特性によって、実際の距離よりも長い値が表示される場合があります。

再生前の基本設定

表示メッセージについて

■ 測定開始時の表示

エラーメッセージ	原因	対策
Connect MIC	付属のオプティマイザーマイクが接続されていません。	本機前面の OPTIMIZER MIC 端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。
Unplug HP	ヘッドホンが接続されています。	本機前面の PHONES（SILENT CINEMA）端子から、ヘッドホンを抜いてください。

■ 測定中のエラーメッセージ

エラーメッセージ	原因	対策
E-1:NO FRONT SP	フロント L/R チャンネル信号が検出されませんでした。	SPEAKERS A/B スイッチでスピーカーを正しく選んでください。
		フロント L/R スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
		PREOUT FRONT 端子に外部パワーアンプを接続している場合は、外部パワーアンプの電源が入っているかご確認ください。
E-2:NO SURR. SP	サラウンド L/R チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	サラウンド L/R スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-3:NO PRES. SP	プレゼンス L/R チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	プレゼンス L/R スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-4:SBR->SBL	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続している場合に、R 側のサラウンドバックチャンネル成分のみが検出されました。	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続する場合は、L 側端子に接続してください。
E-5:NOISY	騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	周囲が静かな時間帯に測定をやり直してみてください。
		エアコンなど騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、遠ざけてみてください。
E-6:CHECK SUR.	サラウンド L/R スピーカーが接続されていないのに、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンド L/R スピーカーを接続する必要があります。
		サラウンドスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-7:NO MIC	測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。	AUTO SETUP での測定中はオプティマイザーマイクに触れないようご注意ください。
E-8:NO SIGNAL	オプティマイザーマイクがテストトーンを検知していません。	オプティマイザーマイクが正しく設置されているか確認してください。
		各スピーカーが正しく接続、設置されているか確認してください。

エラーメッセージ	原因	対策
E-9:USER CANCEL	何らかの操作をしたため、測定が中断しました。	測定をやり直してください。測定中は音量を調節するなどの操作をしないでください。
E-10:INTERNAL ERROR	DSP 伝送エラー、または本機内部の原因により、測定が中断しました。	測定をはじめからやり直してください。

■ 測定終了後の警告メッセージ

<／>キーを押すと、各メッセージの詳細を表示することができます。

警告メッセージ	原因	対策
W-1:OUT OF PHASE	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。お使いのスピーカーの種類によっては、スピーカーが正しく接続されていても、このメッセージが表示されます。	スピーカーの極性＋（プラス）、−（マイナス）が正しいか確認してください。
W-2:OVER 24m	表示されたスピーカーとリスニングポジション（視聴位置）との距離が24m 以上あり、補正ができません。	視聴位置の近くにスピーカーを移動してください。
		スピーカーの極性＋（プラス）、−（マイナス）が正しいか確認してください。
W-3:LEVEL ERROR	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、補正ができません。	スピーカーの設置位置を再度確認して、すべてのスピーカーが同等の環境下に設置されているか確認してください。
		スピーカーの極性＋（プラス）、−（マイナス）が正しいか確認してください。
		なるべく性能が似ている、または同じスピーカーを使用することをおすすめします。

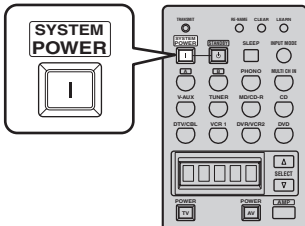
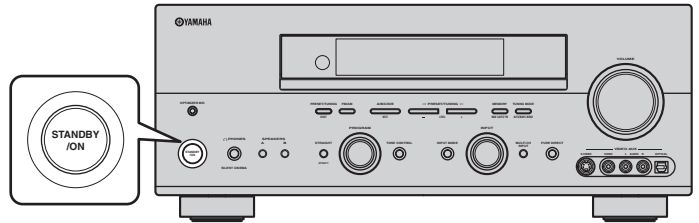
- ERROR または WARNING が画面に表示された場合は AUTO SETUP の測定をやり直してください。
- 警告メッセージ W-1 が表示された場合、補正が行われますが、最適なものではありません。
- 警告メッセージ W-2 または W-3 が表示された場合は補正は行われません。
- エラーメッセージ E-10 が繰返し表示される場合は、ヤマハサービスセンターにお問合せください。

基本的な再生のしかた

DVDを再生する

設定が終わったら、再生をはじめましょう。ここではDVDの再生のしかたを簡単に説明します。

1 本機の電源を入れる。

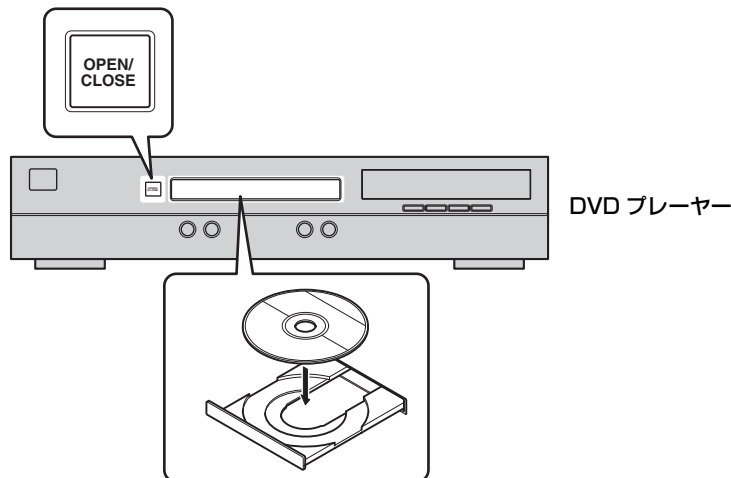
リモコンの**SYSTEM POWERキー**、または本体の**STANDBY/ONスイッチ**を押して電源を入れます。

2 本機に接続されたテレビの電源を入れる。

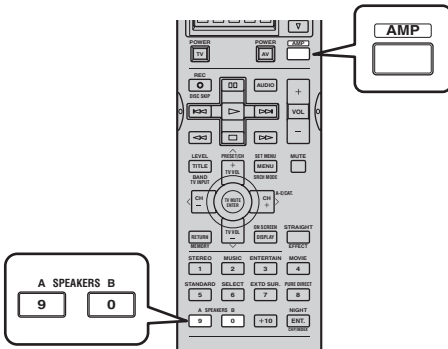
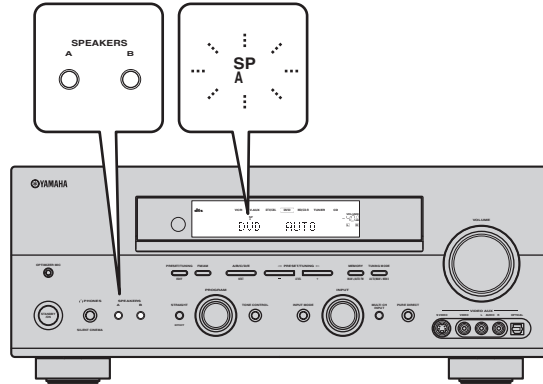
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

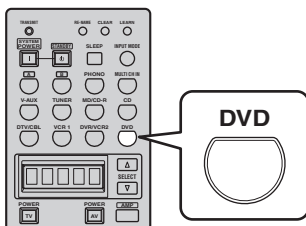
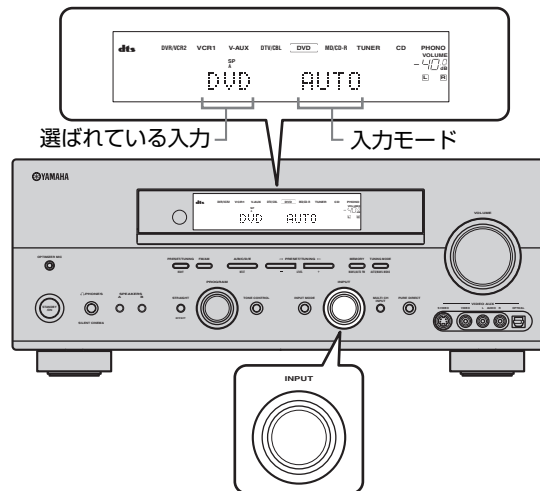
3 本機に接続されたDVDプレーヤーの電源を入れる。

詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 DVDディスクをセットする。

お手持ちのDVDプレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル（印刷）がある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。ディスクをのせたら、ディスクトレイを閉めます。
DVDプレーヤーのディスクトレイの開閉について、詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

5 スピーカーを選ぶ。

本体の**SPEAKERS A／Bスイッチ**、またはリモコンの**AMPキー**を押してAMPモードにしたあとに**SPEAKERS A／Bキー**を押して、音を出すフロントL／Rスピーカーを選びます。
A、B両方をお使いになる場合は、AとBをそれぞれ押します。選んでいるスピーカーは、本体ディスプレイのSP A／Bインジケーターで表示されます。

6 本機の入力を切り替える。

リモコンの**DVDキー（入力選択キー）**を押すか、本体の**INPUTセレクター**を回して、DVDを選びます。入力を切り替えると、本体ディスプレイとテレビに選んだ入力の名前と、入力モードが数秒間表示されます。

7 テレビの入力を切り替える。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

8 再生をはじめる。

詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

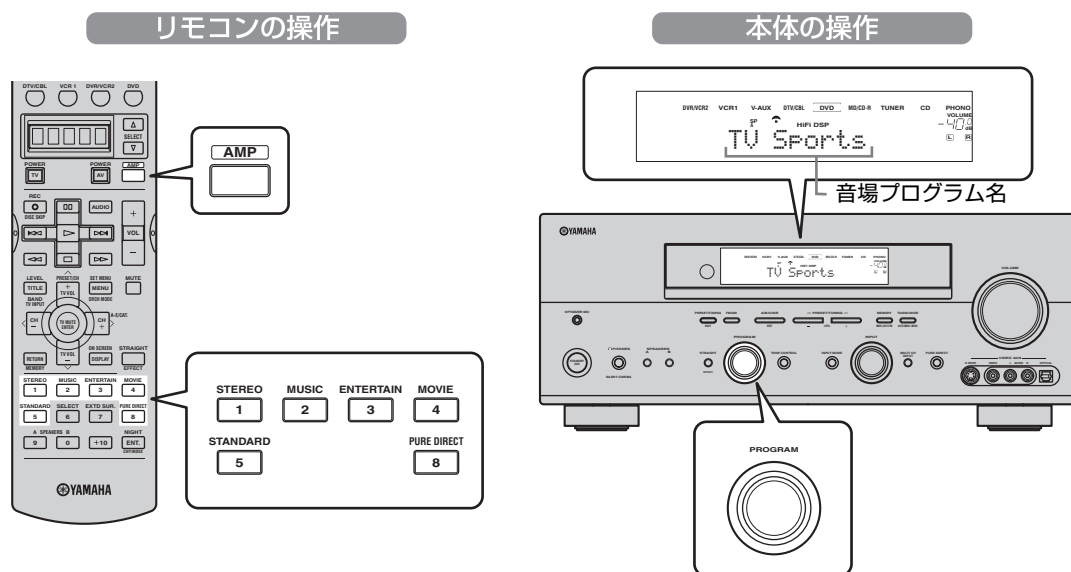
ヒント

- 音の大きさを調節するには（☞49 ページ）
- 本機の使用を終了するには（☞49 ページ）
- メーカーコードを設定すると、本機のリモコンで、お使いのDVDプレーヤーを操作することができます（☞78 ページ）。
- 高音質のステレオ音声で楽しみたい場合は、PURE DIRECTキーを押すと、原音に忠実な高音質で再生するピュアダイレクトモードで楽しむことができます（☞54 ページ）。

9 音場プログラムを選ぶ。

お好みの音場プログラムを選んで、臨場感をお楽しみください。リモコンの**AMPキー**を押してAMPモードにしたあとに**音場プログラムキー**を押して、お好みの音場プログラムを選びます。
本体の**PROGRAMセレクター**を回しても、音場プログラムを選ぶことができます。
選ばれた音場プログラムが本体ディスプレイとテレビに表示されます。

ヒント

音場プログラムの下のサブプログラムを選ぶときは、リモコンの音場プログラムキーを繰り返し押します。

おすすめの音場プログラム

以下は映画を見るとき、音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴については99～106ページをご覧ください。

映画を見るときには…

MUSIC 2 — MUSIC
- Pop/Rock

ENTERTAIN 3 — ENTERTAINMENT
- Mono Movie
- TV Sports
- Game

MOVIE 4 — MOVIE THEATER
- Spectacle
- Sci-Fi
- Adventure
- General

音楽を聴くときには…

STEREO 1 — STEREO
- 2ch Stereo
- 7ch Stereo

MUSIC 2 — MUSIC
- Hall in Vienna
- The Bttm Line
- The Roxy Thtr

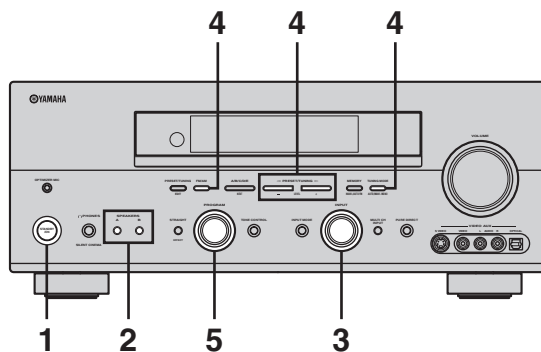
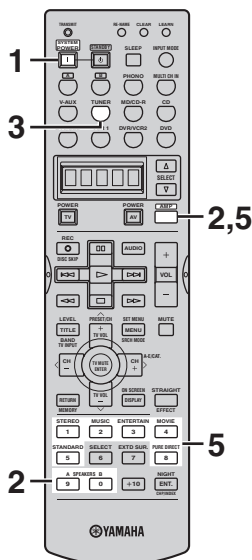
ENTERTAIN 3 — ENTERTAINMENT
- Disco

PURE DIRECT 8 — PURE DIRECT

FM ／ AM 放送を聴く

本機はチューナーを内蔵していますので、FM ／ AM 放送をお楽しみいただけます。

リモコンの操作

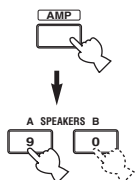
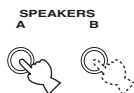
本体の操作

1 本機の電源を入れる。

リモコンの**SYSTEM POWER キー**、または本体の**STANDBY/ON スイッチ**を押して電源を入れます。

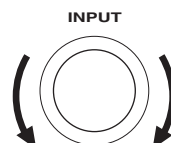
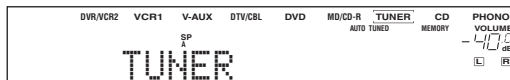
リモコン

本体

2 スピーカーを選ぶ。

本体の**SPEAKERS A ／ B スイッチ**を押し、音を出すフロ ントL ／ R スピーカーを選びます。またはリモコンの**AMPキー**を押してAMPモードにしたあとに**SPEAKERS A／Bキー**を押します。
A、B 両方をお使いになる場合は、A と B をそれぞれ押します。
選んでいるスピーカーは、本体ディスプレイの SP A ／ B インジケーターで表示されます。

リモコン　　本体

3 本機の入力を TUNER に切り替える。

リモコンの**TUNER キー（入力選択キー）**を押すか、本体の**INPUT セレクター**を回して、TUNER を選びます。入力を切り替えると、本体ディスプレイに選んだ入力の名前が数秒間表示されます。

4 放送局を選ぶ。

放送局は以下の２つの方法で選ぶことができます。

自動的に選局する場合（オート選局）

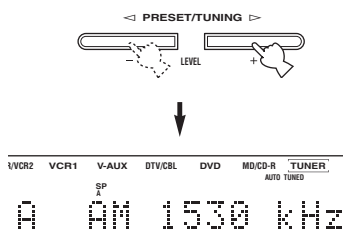
❶ **本体のFM/AMキーを押して、FMまたはAMを選ぶ。**

❷ **本体のTUNING MODE（AUTO/MAN'L MONO）キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる。**

「：」（コロン）が本体ディスプレイに表示された場合は、選局することはできません。PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロンを消灯させてください。

❸ **本体のPRESET/TUNING ◁／▷キーを押してオート選局をはじめます。**

▷キーを押すと高い周波数へ、◁キーを押すと低い周波数へ向かってオート選局が行われます。

放送局を受信すると、その局の周波数が表示されます。

手動で選局する場合（マニュアル選局）

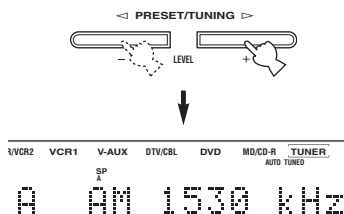
聴きたい放送局をうまく受信できないときは手動で選局してください。

FM放送局を手動で受信すると自動的にモノラル受信が行われて、電波が弱い場合でもよりよい音声をお楽しみいただけます。

❶ **本体のFM/AMキーを押して、FMまたはAMを選ぶ。**

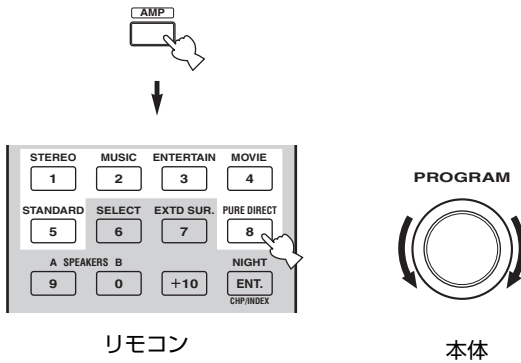
❷ **本体のTUNING MODE（AUTO/ MAN'L MONO）キーを押して、ディスプレイのAUTOインジケーターを消す。**

「：」（コロン）が本体ディスプレイに表示された場合は、選局することはできません。PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロンを消灯させてください。

❸ **本体のPRESET/TUNING ◁／▷キーを押して、放送局の周波数に合わせる。**

ヒント

- 電波が弱くてお聴きになりたい放送局が選べないときは、手動で選局してください。
- お好みの放送局を登録（プリセット）しておくと、聴きたい放送局を簡単に呼び出せます（☞57～61ページ）。

5 音場プログラムを選ぶ。

お好みの音場プログラムを選んで、臨場感をお楽しみください。リモコンの**AMP キー**を押してAMP モードにしたあとに、**音場プログラムキー**を押して、お好みの音場プログラムを選びます。
本体の**PROGRAM セレクター**を回しても、音場プログラムを選ぶことができます。

リモコン

本体

おすすめの音場プログラム
以下は音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴については99～106ページをご覧ください。

音楽を聴くときには…

STEREO 1 — STEREO
- 2ch Stereo
- 7ch Stereo

MUSIC 2 — MUSIC
- Hall in Vienna
- The Bttm Line
- The Roxy Thtr

ENTERTAIN 3 — ENTERTAINMENT
- Disco

PURE DIRECT 8 — PURE DIRECT

音場プログラムガイド ― なにを再生しますか？

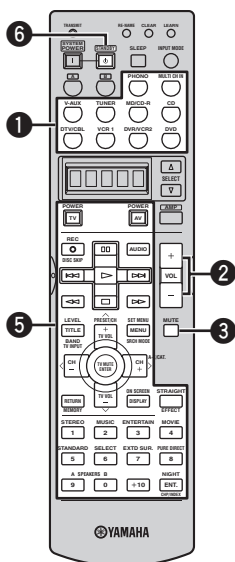
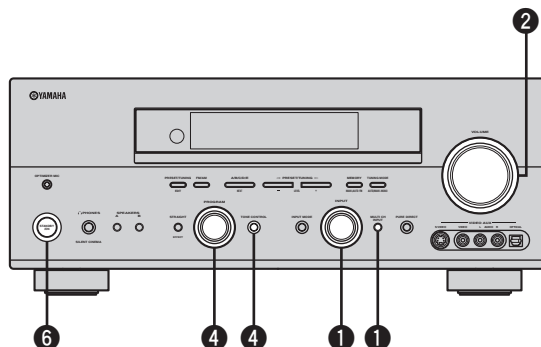
本機でお楽しみいただける音場プログラムをご紹介します。見たい／ 聴きたいものに合わせて、音場プログラムを選び、再生してみましょう。

見たい／聴きたいものは？		この音場プログラムがおすすめです		
映画を見る	壮大なファンタジー映画には	MOVIE 4	MOVIE THEATER Spectacle	70mm映画の大画面のスペクタクルな音場
	最新のSFX映画には		MOVIE THEATER Sci-Fi	最新のSFX映画をクールに楽しめる音場
	大迫力のアドベンチャー映画には		MOVIE THEATER Adventure	アドベンチャー映画を大迫力で楽しめる音場
	ラブロマンスやコメディには		MOVIE THEATER General	情緒的な映画を柔かく再現する音場
	映画館の迫力をお部屋で再現するには	STANDARD 5	SUR. STANDARD	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号を忠実に再現
			SUR. ENHANCED	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に音場効果を与える
		* SELECT 6	PRO LOGIC II PLII Movie	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生
			PRO LOGIC IIx PLIIx Movie	
			DTS Neo:6 Cinema	
	懐かしのモノラル映画には	ENTERTAIN 3	ENTERTAINMENT Mono Movie	往年のモノラル映画を自然に再生する音場
スポーツ／ドラマを見る	白熱のスポーツ中継やドラマには	ENTERTAIN 3	ENTERTAINMENT TV Sports	バラエティやスポーツ中継番組に適用範囲の広い音場
ライブ映像を見る	ビッグエンターテイナーのステージには	MUSIC 2	MUSIC Pop/Rock	ロック、ジャズなどのライブコンサートを再現する音場
音楽を聴く	華麗なクラシックコンサートには	MUSIC 2	MUSIC Hall in Vienna	響きが豊かな古典的な中ホールの音場
	雰囲気のあるジャズライブには		MUSIC The Bttm Line	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」の音場
	熱気あふれるロックコンサートには		MUSIC The Roxy Thtr	ロサンゼルスのホットなロックライブハウスの音場
	ステレオ音声を楽しむには	STEREO 1	STEREO 2ch Stereo	ステレオ音声で再生
		PURE DIRECT 8	PURE DIRECT	アナログ信号、PCM信号を原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生
	楽しいホームパーティを演出するには	ENTERTAIN 3	ENTERTAINMENT Disco	ホットなディスコの雰囲気を再現する音場
		STEREO 1	STEREO 7ch Stereo	広いエリアで音楽を楽しめる音場
ゲームをする	ゲームの世界に浸るには	ENTERTAIN 3	ENTERTAINMENT Game	TVゲームの軽快なノリをさらに加速させる、痛快なテンポの音場
		* SELECT 6	PRO LOGIC II PLII Game	サラウンド感に包まれる大迫力の音場
			PRO LOGIC IIx PLIIx Game	

* STANDARDキーを押してSUR. STANDARDを選んだあとにSELECTキーを押して、お好みの音場プログラムを選びます（SELECTキーを押したのみでは切り替わりません）。詳しくは、51 ページをご覧ください。

ヒント
- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。
- 音場プログラムの詳しい解説については99～106ページをご覧ください。

こんな操作をしたいときには…

リモコンの操作

本体の操作

DVDプレーヤー以外の機器を再生するときは（❶）

リモコンの入力選択キーを押すか､本体のINPUTセレクターを回して、再生する機器を選びます。
例えば、本機背面のCD端子に接続したCDプレーヤーを再生したい場合は、CDキーを押すか、本体のINPUTセレクターを回して、CDを選びます。
本機の入力がCDに切り替わり､CDプレーヤーの再生を楽しめます。
本機背面のMULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生したい場合は、MULTI CH INキーを押します。

音の大きさを調節したいときは（❷）

リモコンのVOL＋／－キーを押すか、本体のVOLUMEコントロールを回して、音の大きさを調節します。

一時的に音を下げたいときは（❸）

リモコンのMUTEキーを押します。本体ディスプレイに「MUTE ON」と表示され、MUTEインジケーターが点滅します。
もう一度MUTEキーを押す（または本体のVOLUMEコントロールを回す）と、もとの音量に戻ります。

ヒント

セットメニュー「AUDIO SET」の「MUTING TYP.」で下げる音量を選ぶことができます（☞70ページ）。

音色を調節したいときは（❹）

スピーカー（フロントL／R、センター、プレゼンスL／R）またはヘッドホン（接続時のみ）の音色を調節できます。
本体のTONE CONTROLキーを押して調節する音域、「BASS」（低音域）または「TREBLE」（高音域）を選びます。音域を選んだら、PROGRAMセレクターを回して音色を調節します。

ヒント

ヘッドホン接続時は、ヘッドホン用に独立して、音色を調節することができます。

ご注意

- 音色を極端に調節した場合、他のスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。
- ピュアダイレクトモード（☞54ページ）で再生しているときや、MULTI CH INPUT端子に入力されている信号を再生しているときは、音色を調節できません。

本機のリモコンで他の機器を操作したいときは（❺）

メーカーコードを設定すると、本機のリモコンで他の機器を操作することができます。詳しくは78ページをご覧ください。

本機の使用を終了するときは（❻）

リモコンのSTANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押して、本機をスタンバイ状態にします。

サラウンド再生を楽しむ

ドルビーデジタルやDTSなどマルチチャンネルソフトや、CDやビデオテープなどの2チャンネルのソフトを、臨場感たっぷりに再生します。

ドルビーデジタル／DTSソフトを再生する

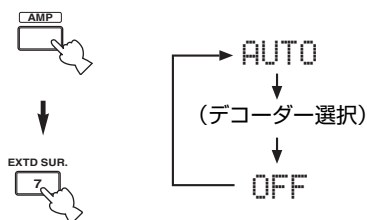
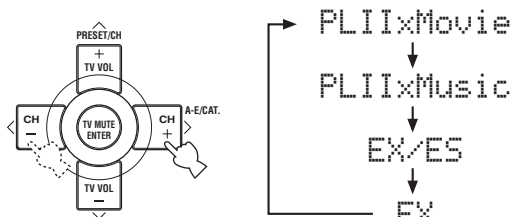
■ 5.1チャンネルを再生する

ドルビーデジタル、DTS、AAC信号が入力されると、本機は自動的にそれらの信号フォーマットに適した、デコーダーおよび音場プログラムを選んで、再生します（☞99～106ページ）。

■ 6.1または7.1チャンネルで再生する

ドルビーデジタルEXやDTS-ESなど、サラウンドL／Rチャンネルを含むソースは、サラウンドバックスピーカーの音声を加えて、6.1／7.1チャンネルで再生することができます。6.1／7.1チャンネルで再生することで、よりダイナミックでリアルな音声を楽しむことができます。

リモコンのAMPキーを押したあとに、EXTD SUR.キーで再生モードを切り替えます。

EXTD SUR.キーを押すごとに、下記のように切り替わります。

上記の「（デコーダー選択）」の状態で、リモコンの＜または＞キーを押すと、6.1／7.1チャンネル再生で使うデコーダーを選ぶことができます。

AUTO：本機が確認できる信号（フラグ）が記録されているソースが入力されると、信号に応じて最適なデコーダーを自動的に選び、6.1／7.1チャンネルで再生します。
本機がフラグを認識できない、またはソース自体にフラグが記録されていない場合は、6.1／7.1チャンネルで再生されません。

PLIIxMovie：プロロジックIIx（映画用）デコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1／7.1チャンネルで再生します。

PLIIxMusic：プロロジックIIx（音楽用）デコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1／7.1チャンネルで再生します。

EX/ES：ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタルおよびAACを6.1／7.1チャンネルで再生します。
またDTS-ESデコーダーにより、DTSを6.1／7.1チャンネルで再生します。

EX：ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1／7.1チャンネルで再生します。

OFF：6.1／7.1チャンネルでの再生はしません。5.1チャンネルで再生されます。

ヒント

セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. B L/R SP」がSMLx1またはLRGx1に設定されているときは（☞65ページ）、サラウンドバックチャンネル成分はSURROUND BACK Lスピーカー端子から出力されます。

ご注意

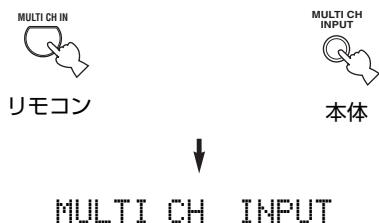
- 6.1チャンネル対応ソフトのなかには、本機が自動的に判別できない信号を含むものがあります。このようなソフトを再生する場合は、デコーダー（PLIIx Movie、PLIIx Music、EX/ES、EX）を手動で選択してください。
- 以下の場合は、EXTD SUR.キーを押しても、6.1チャンネルで再生されません。
  - セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」または「SUR. B L/R SP」をNONEに設定しているとき（☞64、65ページ）。
  - MULTI CH INPUT端子に接続したソースを再生しているとき。
  - サラウンドL／R成分のないソース（2チャンネルのPCM、アナログ信号など）を再生しているとき。
  - 2ch Stereo、PURE DIRECTを音場プログラムとして選んでいるとき。
  - ヘッドホンを接続しているとき。

- 本機をスタンバイ状態にすると、再生モードは自動的にAUTOになります。
- セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. B L/R SP」(☞65ページ)がNONEに設定されているときはドルビープロロジックIIxデコーダーは作動しません。
- セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. B L/R SP」(☞65ページ)がSMLx1またはLRGx1に設定されているときはPLIIx Movieをデコーダーに選べません。

マルチチャンネル入力の音声を聴く

本機のMULTI CH INPUT端子に接続した機器の音声を直接選ぶことができます。DVDやスーパーオーディオCDなどの高音質な音声を楽しむことができます。

本体のMULTI CH INPUTキーまたはリモコンのMULTI CH INキーを押します。

本体ディスプレイとテレビに「MULTI CH INPUT」が表示されます。

ご注意

本体ディスプレイに「MULTI CH INPUT」が表示されているときは、MULTI CH INPUT以外の入力は再生されません。他の入力を選ぶときは、もう一度MULTI CH INPUTキー(またはリモコンのMULTI CH INキー)を押して、ディスプレイの「MULTI CH INPUT」を消灯させてから、本体のINPUTセレクター(またはリモコンの入力選択ボタン)で再生したい入力を選んでください。

2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ

ドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIx、またはDTS Neo:6デコーダーを選ぶと、2チャンネルソースをマルチチャンネル化してお楽しみいただけます。

リモコンのAMPキーを押してAMPモードにしたあとに、STANDARDキーを押してSUR. STANDARDまたはSUR. ENHANCEDを選びます。

または、リモコンのMOVIEキーを押してMOVIE THEATERプログラムを選びます。

次に、リモコンのSELECTキーを繰り返し押してデコーダーを選びます。

一度SELECTキーを押したあとは、リモコンの＜／＞キーを使って選ぶこともできます。

SUR. STANDARDを選んだ場合

SUR. ENHANCEDまたはMOVIE THEATERプログラムを選んだ場合

ご注意

セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. B L/R SP」をNONEに設定しているときは、プロロジックIIxデコーダーは使えません（☞65ページ）。

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ（サイレントシネマ）

音場効果が入っている状態で、ヘッドホンを本体のPHONES端子に接続すると、「サイレントシネマ」モードで再生を楽しめます。

「サイレントシネマ」モードでは、マルチスピーカーによる音場プログラムの効果を、ヘッドホンで擬似的に再現します。「サイレントシネマ」モードで再生している間は、本体ディスプレイのSILENT CINEMAインジケーターが点灯します。

ご注意

以下の場合は、ヘッドホンを接続しても、「サイレントシネマ」モードには切り替わりません。

－MULTI CH INPUT端子を入力として選んでいるとき。
－2ch Stereo、PURE DIRECTを音場プログラムとして選んでいるとき。
－STRAIGHT／EFFECTキーを押して、音場効果をかけないで再生しているとき。

サラウンドL／Rスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマDSP）

サラウンドL／Rスピーカーがない場合でも、バーチャルシネマDSPモードにより、臨場感あふれる再生を楽しめます。
セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」をNONEに設定すると、バーチャルシネマDSPモードで再生を楽しめます（☞64ページ）。

バーチャルシネマDSPモードでは、入力ソースの音声に、選んだ音場プログラムの音場効果を付加して、フロントL／Rスピーカー、センタースピーカーとサブウーファーから出力します。バーチャルシネマDSPモードで再生している間は、本体ディスプレイのVIRTUALインジケーターが点灯します。

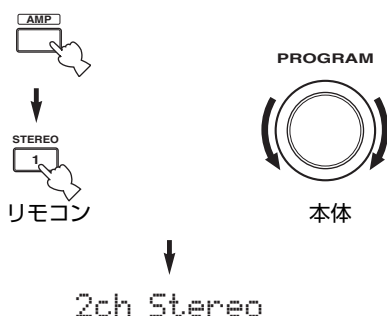
ご注意

以下の場合は、セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」をNONEに設定しても、バーチャルシネマDSPモードには切り替わりません。
－2ch Stereo、7ch Stereoを音場プログラムとして選んでいるとき。
－SUR. STANDARDを音場プログラムとして選んでいるとき。
－ピュアダイレクトモードで再生しているとき（☞54ページ）。
－STRAIGHT/EFFECTキーを押して、音場効果を切って再生しているとき。
－MULTI CH INPUT端子を入力として選んでいるとき。
－ヘッドホンを接続しているとき。

ステレオ再生を楽しむ

ステレオ再生する（2chステレオ）

フロントL／Rスピーカーからのみステレオ音声が出力されます。

本体のPROGRAMセレクターを回して、2ch Stereoを選びます。
またはリモコンのAMPキーを押してAMPモードにしたあとに、STEREOキーを押します。

2チャンネルソースの場合

フロントL／Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合

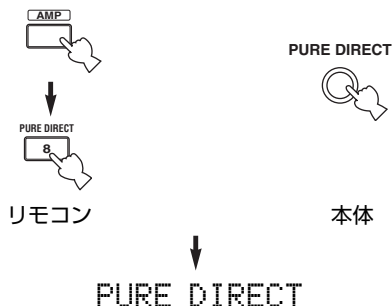
フロントL／Rチャンネル以外の音声をフロントL／Rチャンネルにミックスして、フロントL／Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

ヒント

- セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」でSWFRまたはBOTHを選択した場合は、サブウーファーから音声が出力されます。
- ＬＦＥチャンネルは、セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」をFRNTに設定した場合のみ、フロントL／Rスピーカーにミックスされます（☞65ページ）。

高音質でステレオ再生する（ピュアダイレクト）

デコーダーやDSP回路などをバイパスすることで音声信号に与える影響を減らし、アナログ信号、PCM信号を原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生します。ビデオ回路を切断することで音声信号に与える影響を減らします。フロントパネルディスプレイは消灯します。

本体のPURE DIRECTキーを押して、PURE DIRECTを選びます。
またはリモコンのAMPキーを押してAMPモードにしたあとにPURE DIRECTキーを押します。

PURE DIRECT

ピュアダイレクトモードで再生している間は、本体のPURE DIRECTキーが青色で点灯します。

ご注意

- ピュアダイレクトモードでDTS-CDを再生しないでください。ノイズが出力されることがあります。
- ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソースを再生しているときにピュアダイレクトモードに切り替えると、対応するアナログ音声入力端子に入力されている信号を再生します。デジタル接続のみの場合は、音声は出力されません。
- ピュアダイレクトモードで再生中は、サブウーファーから音声は出力されません。
- ピュアダイレクトモードで再生中は、以下の設定が無効になります。
  －音場プログラムの切り替え
  －OSD画面の表示
  －SETUPメニューの各パラメーターの変更
  －すべてのビデオ機能（ビデオコンバージョン機能など）
- ピュアダイレクトモードで再生中は、本体ディスプレイの表示が消えます。入力切り替えや、音量調節などの操作をすると、数秒間だけ点灯します。
- 本機をスタンバイ状態にすると、ピュアダイレクトモードは自動的に解除されます。

もう一度PURE DIRECTキーを押すと、ピュアダイレクトモードはオフになります。

夜間に小音量で音声を楽しむ（ナイトリスニングモード）

ナイトリスニングモードを設定すると、夜間でも音量を気にせずに再生を楽しめます。
ナイトリスニングモードでは、せりふなどは明瞭に、大きな効果音は抑えて再生します。
映画用のCINEMAモードと、音楽用のMUSICモードが用意されています。

リモコンのAMPキーを押してAMPモードにしたあとに、NIGHTキーを押してモードを選びます。

NIGHT:CINEMA

映画用：大きな効果音を抑え、せりふなどは聴きとりやすくします。

↓

NIGHT:MUSIC

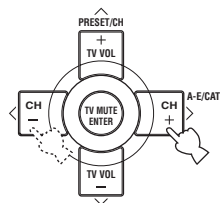
音楽用：音の高低、音色に限らずどんな音も聴きとりやすくします。

↓

NIGHT OFF

OFF：ナイトリスニングモードは機能しません。

ナイトリスニングモードで再生している間は、本体ディスプレイのNIGHTインジケーターが点灯します。

NIGHT:CINEMAまたはNIGHT:MUSICが表示されているあいだに＜または＞キーを押すと、エフェクトレベル（音を抑えるレベル）を選ぶことができます。

Effect.Lvl:MIN（弱めに抑える）

Effect.Lvl:MID（ほどよく抑える：初期設定）

Effect.Lvl:MAX（強めに抑える）

ヒント

NIGHT:CINEMA（映画用）とNIGHT:MUSIC（音楽用）の設定はそれぞれ別に保存されます。

ご注意

- ピュアダイレクトモード（☞54ページ）で再生しているときや、MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているときは、ナイトリスニングモードで再生できません。（PURE DIRECTが選択されているときはナイトリスニングモードは機能しません。）
- 入力ソースやサラウンド音場の設定により、効果に違いが生じる場合があります。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

ストレートデコードを設定すると、入力された信号を音場効果をかけずにそのまま再生します。

本体またはリモコンのSTRAIGHT／EFFECTキーを押します。

ストレートデコードモードで再生されます。

2チャンネルソースの場合

フロントL／Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合

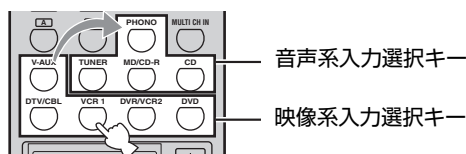
入力信号により、適切なデコーダーでデコードしたあと、マルチチャンネル音声で再生します。

ストレートデコードモードを解除してもとの状態（音場効果をかけた状態）に戻るには、もう一度STRAIGHT／EFFECTキーを押します。

音楽と映像で異なる入力ソースを楽しむ（バックグラウンドビデオ機能）

バックグラウンドビデオ機能とは、映像系入力ソースの映像と、音楽系入力ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です。例えばビデオを見ながら、クラシック音楽を楽しむことができます。

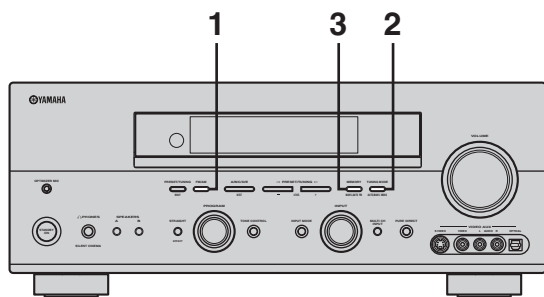
リモコンの入力選択キーで、映像系入力を選んでから、リモコンの入力選択キーで音声系入力を選びます。

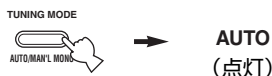
ご注意

MULTI CH INPUT端子からの音声入力を映像とともにお楽しみいただくには、映像系入力ソースを選んでから、MULTI CH INPUTキー（またはリモコンのMULTI CH INキー）を押してください。

FM／AM放送局を登録する

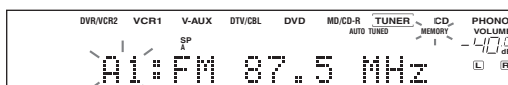
オートプリセットやマニュアルプリセット機能を使ってFM／AM放送局を登録しておくと、あとで選局するときに便利です。はじめにリモコンのTUNERキーか本体のINPUTセレクターで本機をチューナーモードにしてください。

FM放送局を自動登録する（オートプリセット）

FM放送局を自動的に40局（8局×5グループ、A1～E8）まで登録（プリセット）できます。
放送局を登録しておくと、あとは簡単な操作で選局することができ、便利です。

1 FM/AMキーを押して、FMを選ぶ。

2 TUNING MODE（AUTO/MAN'L MONO）キーを押して、本体ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる。

「：」（コロン）が本体ディスプレイに表示された場合は、選局することはできません。PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロンを消灯させてください。

3 MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを約3秒押し続ける。

プリセット番号とMEMORYインジケーター、AUTOインジケーターが点滅します。数秒後に、周波数の低い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。

オートプリセットが終了すると、最後に登録された放送局の周波数が表示されます。

ヒント

- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モードも同時に登録されます。
- FM局の登録を始めるプリセッ ト番号を指定したり、周波数の高い方から低い方 へ向けて、自動登録を始めることもできます（下記参照）。
- 登録されたFM放送局の順序を、あとから手動で入れ替えることもできます（☞60 ページ）。

ご注意

- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、登録する放送局の数が40（A1～E8）に満たない場合には、全周波数帯域を一巡して停止します。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱いFM放送局を登録したいときは、手動で放送局を受信したあと、手動で登録してください（☞58 ページ）。

■ 登録を始めるプリセット番号を指定する場合

左に記載の「FM放送局を自動登録する（オートプリセット）」の手順3でMEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを約 3 秒間押したあと、A/B/C/D/E（NEXT）キーとPRESET/TUNING ◁／▷キーを使って、最初に登録するプリセットグループとプリセット番号を選びます。
数秒後に、選んだプリセット番号から登録を始めます。放送局が40局（A1～E8）すべて登録されると、オートプリセットが停止します。

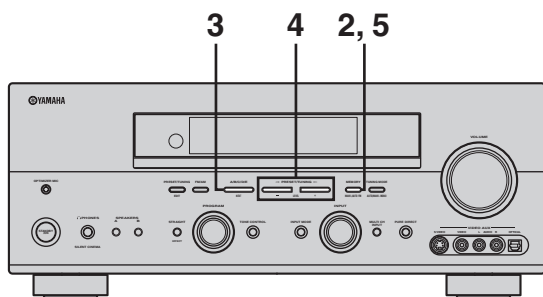
■ 周波数の高い方から低い方に向けて登録する場合

左に記載の「FM 放送局を自動登録する（オートプリセット）」の手順３でMEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを約3秒間押したあと、PRESET/TUNING（EDIT）キーで「：」（コロン）を消してから、PRESET/TUNING ⊲キーを押します。
周波数の高い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。

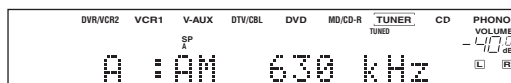
■ メモリーバックアップ機能について

本機は電源がスタンバイ時にも、設定などを保存できます。電源コードをACコンセントから抜いたりして、電源を１週間以上入れないと、保存された設定などは消去されますのでご注意ください。

手動で登録する（マニュアルプリセット）

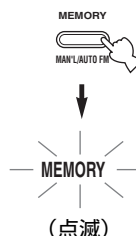
放送局を40局（8局×５グループ、A1～E8）まで手動で登録（プリセット）することもできます。

ヒント
AM 放送局はマニュアルで登録してください。

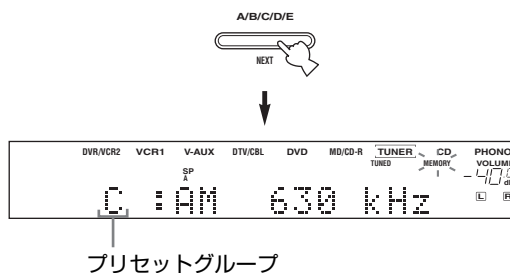
1 **プリセットしたい放送局を選局する。**

詳しくは、「FM ／ AM 放送を聴く」（☞45 ページ）をご覧ください。

本体ディスプレイに、受信している局の周波数と放送局（FMまたはAM）が表示されます。

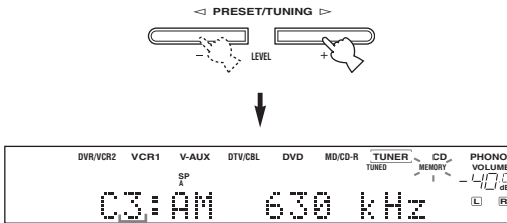
2 **MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを押す。**

放送局が登録できる状態になります。本体ディスプレイのMEMORYインジケーターが約５秒間点滅します。

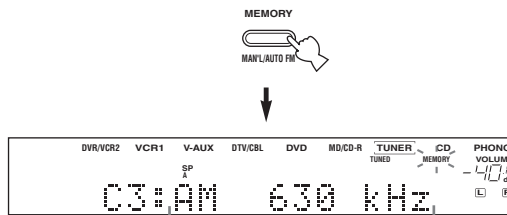
（点滅）

3 **MEMORYインジケーターの点滅中にA/B/C/D/E（NEXT）キーを押して、プリセットグループ（A～E）を選ぶ。**

プリセットグループが表示されます。放送局の表示の横に「:」（コロン）が点灯していることを確認してください。
本体ディスプレイに表示されるプリセットグループは、A/B/C/D/E（NEXT）キーを押すたびに切り替わります。

プリセットグループ

4 **MEMORYインジケーターの点滅中にPRESET/TUNING ⊲／⊳ キーを押して、プリセット番号（1～8）を選ぶ。**

⊳ キーを押すと番号の大きい方へ向かって、⊲ キーを押すと番号の小さい方へ向かって切り替わります。

プリセット番号

5 **MEMORYインジケーターの点滅中に、MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを押す。**

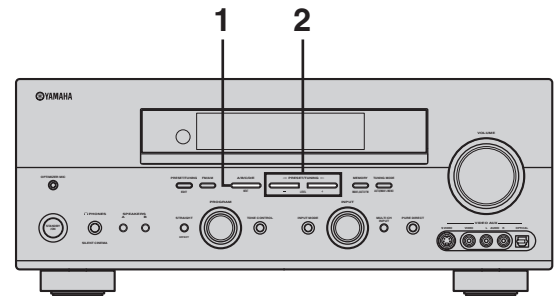
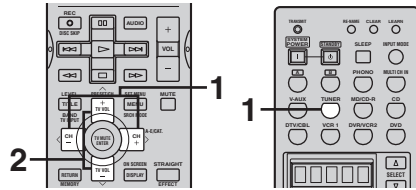
選んだプリセットグループ、プリセット番号と放送局（FMまたはAM）、周波数がディスプレイに表示されます。

選んだプリセット番号に登録された局

6 **他の放送局を続けて登録するときは、手順１～５を繰り返す。**

ご注意

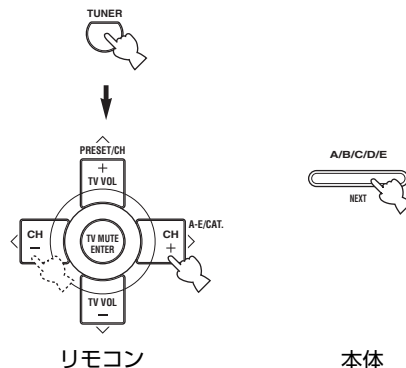
- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ、モノラル）も同時に登録されます。

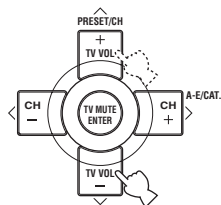
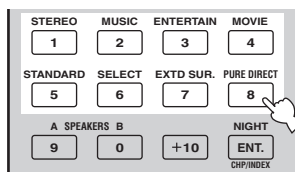
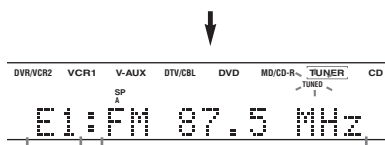
登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）

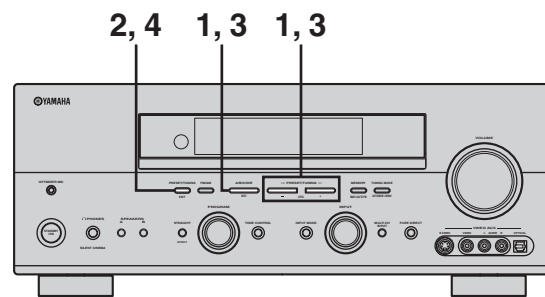
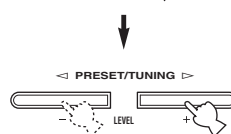
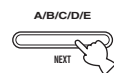
登録（プリセット）した放送局を簡単に選局することができます。

1 **A/B/C/D/E（NEXT）キーを繰り返し押して、放送局をプリセットしたグループを選ぶ。**
またはリモコンのTUNERキーを押してチューナーモードにしたあとに、A-E/CAT.＜／＞キーを押す。

本体ディスプレイに表示されるプリセットグループは、A/B/C/D/E（NEXT）キーを押すたびに切り替わります。リモコンの場合は、＜キーを押すとE→Aへ向かって、＞キーを押すとA→Eへ向かって切り替わります。

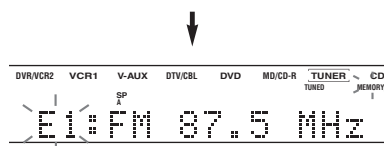
リモコン　本体

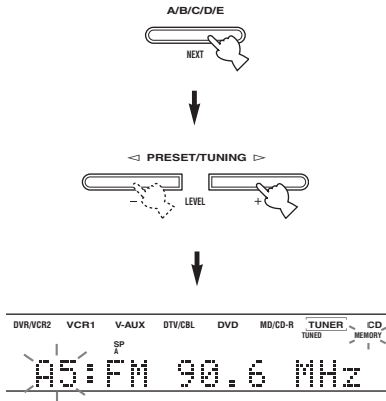
いろいろな再生のしかた

2 **本体のPRESET/TUNING ⊲／⊳ キーを押して、プリセット番号（1～8）を選ぶ。**
またはリモコンのPRESET/CH ∧／∨キーかプリセット番号キー（1～8）を押す。

⊳ キー（またはリモコンの∧キー）を押すと番号の大きい方へ向かって、⊲ キー（またはリモコンの∨キー）を押すと番号の小さい方へ向かって切り替わります。プリセットグループとプリセット番号が、放送局（FMまたはAM）と周波数とともに本体ディスプレイに表示され、TUNEDインジケーターが点灯します。

登録した放送局を入れ替える

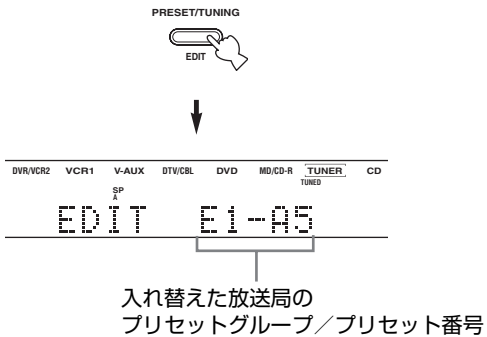
オートプリセットやマニュアルプリセット機能を使って登録した放送局を入れ替えることができます。
ここでは例として、「E1」（E=プリセットグループ、1=プリセット番号）に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。

1 **「E1」に登録した放送局を、A/B/C/D/E（NEXT）キーとPRESET/TUNING ⊲／⊳ キーを使って選局する。**

詳しくは、「登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）」をご覧ください（☞59 ページ）。

2 **本体のPRESET/TUNING（EDIT）キーを約３秒間押す。**

本体ディスプレイのMEMORYインジケーターと「E1」が点滅します。

3 「A5」に登録した放送局を、A/B/C/D/E（NEXT）キーとPRESET/TUNING ⊲／⊳ キーを使って選局する。

本体ディスプレイのMEMORYインジケーターと「A5」が点滅します。

4 本体のPRESET/TUNING（EDIT）キーを押す。

登録した局が入れ替わり、本体ディスプレイに「EDIT」と入れ替えた放送局のプリセットグループ／プリセット番号が表示されます。
登録した局の入れ替えが完了したことを示しています。

入れ替えた放送局の
プリセットグループ／プリセット番号

セットメニュー一覧

本機では、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、セットメニューで設定を変更することができます。お使いの視聴環境にあわせて初期設定を変更してください。
セットメニューには、簡単に再生に適した設定を行う「AUTO SETUP」と、用途や機能別に分類されたカテゴリーを必要に応じて呼び出して設定する「MANUAL SETUP」の２つがあります。

AUTO SETUP

本機に搭載の「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）により、お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定します。
「AUTO SETUP」の設定方法については36 ページをご覧ください。

MANUAL SETUP

「MANUAL SETUP」は、以下のように用途、機能別に３つのカテゴリーに分類されています。

■ SOUND MENU

スピーカーの音量や音色の調節など、音声の出力に関して以下のメニューを設定、変更できます。
以下の７つのメニューがあります。

A）SPEAKER SET（☞64 ページ）

ご使用になるスピーカーに合わせて、サイズや有無などを設定します。

B）SPEAKER LEVEL（☞67 ページ）

各スピーカーからの出力レベルを設定します。

C）SP DISTANCE（☞68 ページ）

各スピーカーからリスニングポジション（視聴位置）までの距離に合わせて、音の到達するタイミングを設定します。

D）EQUALIZER（☞69 ページ）

グラフィックイコライザーを使って、センタースピーカーの音色を調節します。

E）LFE LEVEL（☞69 ページ）

ドルビーデジタル、DTS およびAACでのLFE（低域効果音）信号の再生レベルを調節します。

F）DYNAMIC RANGE（☞70 ページ）

ドルビーデジタル、DTS およびAAC再生時のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を調節します。

G）AUDIO SET（☞70 ページ）

MUTE 時に下げる音量、声と映像のずれの補正、トーンコントロールの経路、AAC モノラル音声の出力を設定します。

■ INPUT MENU

入出力端子の割り当て変更など、信号の入出力に関して以下のメニューを設定、変更できます。
以下の２つのメニューがあります。

A）I/O ASSIGNMENT（☞71 ページ）

ご使用になる機器が、本機の入出力端子の機器名と異なる場合に、ご使用になる機器に合わせて端子を割り当てます。

B）INPUT MODE（☞72 ページ）

電源を入れたときの接続機器の入力モードを設定します。

C）INPUT RENAME（☞72 ページ）

入力に名前をつけて本体ディスプレイに表示させます。

D）VOLUME TRIM（☞73 ページ）

各端子の出力レベルを調節します。

■ OPTION MENU

「SOUND MENU」、「INPUT MENU」以外にも以下のいろいろなメニューを設定、変更できます。
以下の４つのメニューがあります。

A）DISPLAY SET（☞74 ページ）

本体ディスプレイの明るさなどを調節したり、ビデオコンバージョン機能の設定をします。

B）MEMORY GUARD（☞75 ページ）

変更した設定値を保護します。

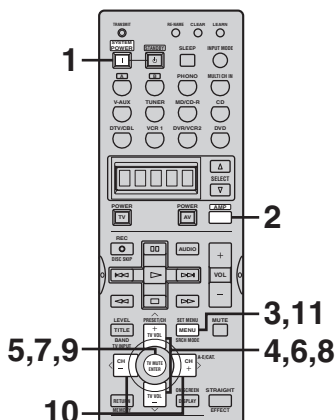
C）PARAM. INI（☞76 ページ）

音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。

D）MULTI ZONE SET（☞76 ページ）

FRONT SPEAKERS B 端子に接続したスピーカーの設置場所を設定します。

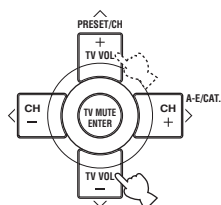
セットメニューの操作手順

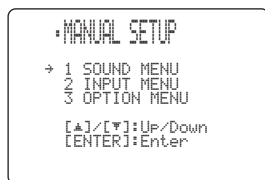
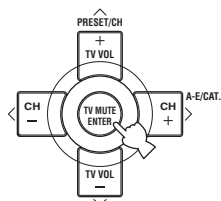
セットメニューの設定操作について説明します。セットメニューの各項目の詳細については64～76ページをご覧ください。セットメニューはリモコンで操作します。

ヒント
再生中でも、セットメニューで設定を変更できます。

1 本機の電源を入れる。

2 AMPキーを押して、AMPを選ぶ。

3 SET MENUキーを押す。

4 ∧または∨キーを押して、MANUAL SETUPを選ぶ。

5 ENTERキーを押して決定する。

ディスプレイに「1 SOUND MENU」と表示されます。

6 ∧または∨キーを繰り返し押して、設定したい項目があるメニューを選ぶ。

7 ENTERキーを押して決定する。

選んだメニュー内の項目が表示されます。

表示例：手順6でSOUND MENUを選んだとき

```
1 SOUND MENU 1/2

→ A)SPEAKER SET
  B)SPEAKER LEVEL
  C)SP DISTANCE
  D)EQUALIZER
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [ENTER]:Enter
```

8 ∧または∨キーを繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

9 ENTERキーを押して決定する。

選んだ項目の設定モードに入り、現在の設定が本体ディスプレイに表示されます。
項目によっては∧または∨キーを押して、サブメニューを選びます。

10 ＜または＞キーを繰り返し押して、設定を変更する。

設定を確定するには、ENTERキーを押します。前の表示に戻るには、RETURNキーを押します。

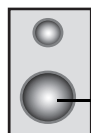
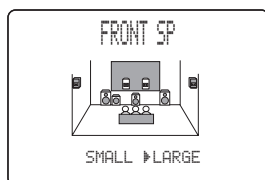
11 セットメニューを終了するときは、SET MENUキーを押す。

音声出力の設定を変更する（SOUND MENU）

音質や音色の調節など、音声の出力に関する設定を行います。

スピーカーのサイズを設定する（SPEAKER SET）

お使いになるスピーカーにあわせて、スピーカーのサイズ、有無などを設定します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→SPEAKER SET）

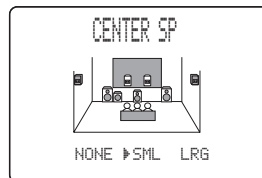
ヒント
- 現在のスピーカーの低音に満足できないときにお好みに合わせて調節することができます。
- 目安として、ウーファーの口径が16cm未満のスピーカーをお使いの場合はSML（SMALL）、それ以上の口径の場合はLRG（LARGE）に設定します。

■ FRONT SP

フロントL／Rスピーカーのサイズを設定します。

選択項目： LARGE（大）、SMALL（小）

初期設定： LARGE

LARGE：大型のフロントスピーカーを使用するときに選択します。フロントL／Rチャンネル信号の全帯域が、そのままフロントL／Rスピーカーに出力されます。

SMALL：小型のフロントスピーカーを使用するときに選択します。フロントL／Rチャンネル信号の低音域は、「BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。

■ CENTER SP

センタースピーカーのサイズ、有無を設定します。

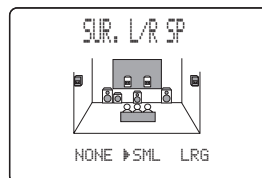
選択項目： LRG（大）、SML(小)、NONE（なし）

初期設定： SML

LRG：大型のセンタースピーカーを使用するときに選択します。センターチャンネル信号の全帯域が、そのままセンタースピーカーに出力されます。

SML：小型のセンタースピーカーを使用するときに選択します。センターチャンネル信号の低音域は、「BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。

NONE：センタースピーカーを使用しないときに選択します。センターチャンネル信号は、フロントL／Rスピーカーに同じ音量レベルで振り分けられます。

■ SUR. L/R SP

サラウンドL／Rスピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目： LRG（大）、SML(小)、NONE（なし）

初期設定： SML

LRG：大型のサラウンドL／Rスピーカーを使用するときに選択します。サラウンドL／Rチャンネル信号の全帯域が、そのままサラウンドスピーカーに出力されます。

SML：小型のサラウンドL／Rスピーカーを使用するときに選択します。サラウンドL／Rチャンネル信号の低音域は、「LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。

NONE：サラウンドL／Rスピーカーを使用しないときに選択します。サラウンドL／Rチャンネル信号は、フロントL／Rスピーカーにそれぞれ振り分けられます。この設定にすると、バーチャルシネマDSP機能が自動的に設定され、サラウンドバックスピーカー設定（SUR. B L/R SP）は自動的にNONEに設定されます。

■ SUR. B L/R SP

サラウンドバックスピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目： LRGx2（大2台）、SMLx2(小2台)、LRGx1（大1台）、SMLx1(小1台)、NONE（なし）

初期設定： SMLx2

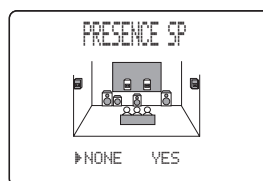
LRGx1／LRGx2：大型のサラウンドバックスピーカーを1本または2本使用するときに選択します。サラウンドバックチャンネル信号の全帯域が、そのままサラウンドバックスピーカーに出力されます。

SMLx1／SMLx2：小型のサラウンドバックスピーカーを1本または2本使用するときに選択します。サラウンドバックチャンネル信号の低音域は、「BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。

NONE：サラウンドバックスピーカーを使用しないときに選択します。サラウンドバックチャンネル信号は、サラウンドL／Rスピーカーに同じ音量レベルで振り分けられます。

ご注意

SMLx1 または LRGx1 を選んだ場合、スピーカーはSURROUND BACK（L）端子に接続してください。

■ PRESENCE SP

プレゼンスL／Rスピーカーの有無を設定します。

選択項目： YES、NONE

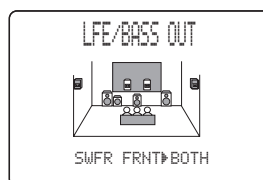
初期設定： NONE

YES：プレゼンススピーカーを接続している場合に設定します。

NONE：プレゼンススピーカーを接続しない場合に設定します。

ヒント

YESを選ぶと、会話など中央に定位する音の定位位置（上下方向）が自動的に調節されます。お好みの位置に調節する場合は、DIALG.LIFT（☞95ページ）を設定してください。

■ LFE/BASS OUT

LFE信号を出力するスピーカーを設定します。LFE信号は、ドルビーデジタルやDTS、AACの音声に含まれる120Hz以下の低域効果音のことで、サブウーファーとフロントL／Rスピーカーへ出力されます。

選択項目： SWFR（サブウーファー）、FRONT（フロント）、BOTH（両方）

初期設定： BOTH

SWFR：サブウーファーを接続している場合に設定します。LFEチャンネルと、各スピーカーのサイズ設定により、他チャンネルの低音域がサブウーファーに出力されます。

FRONT：サブウーファーを接続しない場合に設定します。LFEチャンネルと、各スピーカーのサイズ設定により、他チャンネルの低音域がフロントL／Rスピーカーに出力されます。フロントスピーカーの設定がSMLの場合も同様です。

BOTH：サブウーファーを接続していて、フロントL／Rチャンネルの低音域をフロントL／Rスピーカーとサブウーファーの両方に出力したい場合に設定します。LFEチャンネルと、フロント以外のチャンネルの低音域は、スピーカーのサイズ設定により、サブウーファーから出力されます。例えば、CDを再生するときに、サブウーファーを使って低音域を補強したい場合などはこの設定にします。

■ CROSS OVER

サブウーファーに出力する低音成分の、周波数の上限を設定します。設定した周波数以下の低音成分が、サブウーファーまたはフロントL／Rスピーカーに出力されます。

選択項目： 40Hz、60Hz、80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz

初期設定： 80Hz

■ SUBWOOFR PHASE

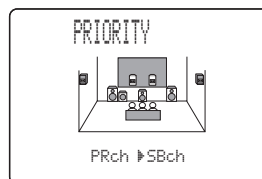
お使いになるサブウーファーの位相を設定します。低音が物足りない場合などにお試しください。

選択項目： NORMAL（正相）、REVERSE（逆相）

初期設定： NORMAL

NORMAL：サブウーファーの位相を逆転しません。

REVERSE：サブウーファーの位相を逆転します。

■ PRIORITY

ドルビーデジタルEXやDTS-ESなどサラウンドバック成分があるソースを、シネマDSP音場プログラムで再生するときに、優先的に音を出すスピーカーを選びます。

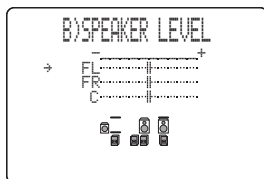
選択項目： PRch、SBch

初期設定： SBch

PRch：サラウンドバック成分があるソースを再生中でも、プレゼンス成分がプレゼンスL／Rスピーカーから出力されます。
このとき、サラウンドバック成分はサラウンドL／Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

SBch：サラウンドバック成分があるソースを再生中は、サラウンドバックスピーカーから音を出します。
このとき、プレゼンス成分はフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

スピーカーの音量を調節する（SPEAKER LEVEL）

リスニングポジションで聞こえる各スピーカーの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→SPEAKER LEVEL）

■ FL

フロントLスピーカーの音量を調節します。

可変範囲： − 10.0 〜+ 10.0dB

■ FR

フロントRスピーカーの音量を調節します。

可変範囲： − 10.0 〜+ 10.0dB

■ C

センタースピーカーの音量を調節します。
SPEAKER SETの設定で、CENTER SPがNONEのときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 〜+ 10.0dB

■ SL

サラウンドLスピーカーの音量を調節します。
SPEAKER SETの設定で、SUR. L/R SPがNONEのときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 〜+ 10.0dB

■ SR

サラウンドRスピーカーの音量を調節します。
SPEAKER SETの設定で、SUR. L/R SPがNONEのときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 〜+ 10.0dB

■ SBL

サラウンドバックLスピーカーの音量を調節します。
SPEAKER SETの設定で、SUR. B L/R SPがNONEのときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 〜+ 10.0dB

■ SBR

サラウンドバックRスピーカーの音量を調節します。
SPEAKER SETの設定でSUR. B L/R SPがNONEのときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 〜+ 10.0dB

■ SWFR

サブウーファーの音量を調節します。
SPEAKER SETの設定で、LFE/BASS OUTがFRONTのときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 〜+ 10.0dB

■ PL

プレゼンスLスピーカーの音量を調節します。
SPEAKER SETの設定でPRESENCE SPがNONEのときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 〜+ 10.0dB

■ PR

プレゼンスRスピーカーの音量を調節します。
SPEAKER SETの設定でPRESENCE SPがNONEのときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 〜+ 10.0dB

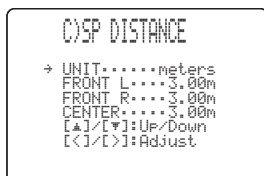
ご注意

SPEAKER SETの設定でSUR. B L/R SPがLRGx1またはSMLx1の場合、SBLおよびSBRの代わりにSBと表示されます。サラウンドバックスピーカーの音量を調節するにはSBを選択してください。

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定する（SP DISTANCE）

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジション（視聴位置）に届くように、スピーカーから音が出るタイミングを調節します。音が出るタイミングは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することで調節されます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→SP DISTANCE）

```
C)SP DISTANCE

→ UNIT······meters
  FRONT L····3.00m
  FRONT R····3.00m
  CENTER·····3.00m
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Adjust
```

■ UNIT

設定する距離の単位を選びます。

選択項目： meters（m）、feet（ft）

初期設定： meters

■ FRONT L

フロントＬスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.0m、10.0ft

■ FRONT R

フロントＲスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.0m、10.0ft

■ CENTER

センタースピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.0m、10.0ft

■ SUR. L

サラウンドＬスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.0m、10.0ft

■ SUR. R

サラウンドＲスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.0m、10.0ft

■ SB L

サラウンドバックＬスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 2.1m、7.0ft

■ SB R

サラウンドバックＲスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.0m、10.0ft

■ SWFR

サブウーファーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.0m、10.0ft

■ PRES L

プレゼンスＬスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.0m、10.0ft

■ PRES R

プレゼンスＲスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.0m、10.0ft

ご注意

セットメニュー「SPEAKER SET」の設定でSUR. B L/R SPがLRGx1またはSMLx1の場合、SB LおよびSB Rの代わりにSUR. Bと表示されます。サラウンドバックスピーカーの音量を調節するにはSUR. Bを選択してください。

センタースピーカーの音色を調節する（EQUALIZER）

センタースピーカーの音色を、フロントL／Rスピーカーの音色と合わせるために、センターチャンネルのグラフィックイコライザーを調節します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→EQUALIZER）

■ EQ TYPE SELECT

グラフィックイコライザーの調節方法を選びます。

選択項目： AUTO PEQ、CNTR GEQ、EQ OFF

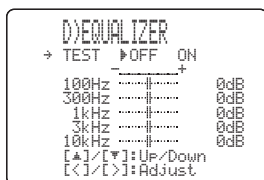
初期設定： NONE

AUTO PEQ：AUTO SETUP で調節したグラフィックイコライザーの値を適用します。

CNTR GEQ：テストトーンまたは出力している音声を使って、センターチャンネルのグラフィックイコライザーの値を調節します。調節方法については、下記の CENTER GEQ をご覧ください。

EQ OFF：グラフィックイコライザーを無効にします。

■ CENTER GEQ

各周波数帯のレベルを手動で調節して、センタースピーカーの音色をフロントLスピーカーに合わせます。

TEST

ON を選ぶと、テストトーンを使ってセンタースピーカーの音色がフロントLスピーカーに合うように調節します。OFF を選ぶと、選択している入力ソースの音声が出力されます。

選択項目： ON、OFF

初期設定： OFF

100Hz、300Hz、1kHz、3kH、10kHz

へ／∨キーで周波数帯を選び、く／>キーでレベルを調節します。

可変範囲： －6～＋6dB

初期設定： 0 dB

低域効果音の音量を調節する（LFE LEVEL）

ドルビーデジタル、DTS および AAC 信号に含まれる、LFE（低域効果音）の音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に調節できます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→LFE LEVEL）

E)LFE LEVEL
→ SPEAKER······0dB
HEADPHONE····0dB
[▲]/[▼]:Up/Down
[<]/[>]:Adjust

■ SPEAKER

スピーカーで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

可変範囲： －20～0dB

初期設定： 0dB

■ HEADPHONE

ヘッドホンで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

可変範囲： －20～0dB

初期設定： 0dB

ご注意

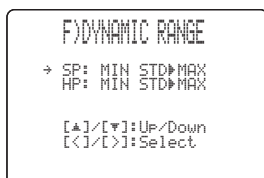
- お使いになるサブウーファーやヘッドホンの性能に応じて調節してください。
- LFE LEVEL の設定によってはサブウーファーから音が出ません。

ダイナミックレンジを設定する（DYNAMIC RANGE）

ドルビーデジタル／DTS 再生時のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を、３段階から選びます。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に選べます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→DYNAMIC RANGE）

```
F)DYNAMIC RANGE

→ SP: MIN STD▶MAX
  HP: MIN STD▶MAX

  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Select
```

■ SP

スピーカーで音を聴く場合の、ダイナミックレンジを選びます。

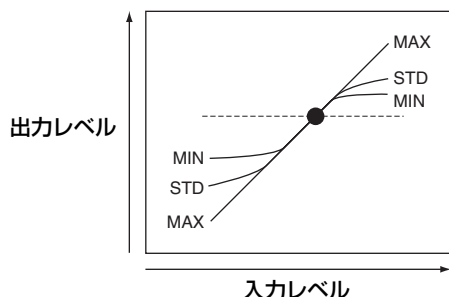
選択項目： MAX（最大）、STD（標準）、MIN（最小）

初期設定： MAX

■ HP

ヘッドホンで音を聴く場合の、ダイナミックレンジを選びます。

選択項目： MAX（最大）、STD（標準）、MIN（最小）

初期設定： MAX

MAX：入力された信号をリニアに再生するダイナミックレンジです。長編映画などの鑑賞に適しています。

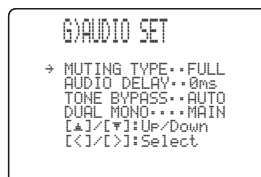
STD：一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

MIN：小音量でも聴きやすく、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

その他の音声出力を設定する（AUDIO SET）

音声と映像のずれを補正したり、AAC モノラル音声の出力を設定します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→AUDIO SET）

```
G)AUDIO SET

→ MUTING TYPE··FULL
  AUDIO DELAY··0ms
  TONE BYPASS··AUTO
  DUAL MONO····MAIN
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Select
```

■ MUTING TYP.

ミュート（消音）時に下げる音量を調節します。

選択項目： FULL、－ 20dB

初期設定： FULL

FULL：完全に消音し、無音にします。

－ 20dB：いま聴いている音量よりも、20dB 下げて再生します。

■ AUDIO DELAY

デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。音を遅らせる時間を設定します。

可変範囲： 0 ～ 160ms

初期設定： 0ms

■ TONE BYPASS

BASS（低音）とTREBLE（高音）の設定が 0dB のときに、トーンコントロールの経路を選びます。

選択項目： AUTO、OFF

初期設定： AUTO

AUTO：トーンコントロールの経路をバイパスします。

OFF：トーンコントロールの経路をバイパスしません。

■ DUAL MONO

BS ／地上波デジタル放送などで使われている、モノラル二重音声入力時に、どの音声を出力するか設定します。

選択項目： MAIN（主音声）、SUB（副音声）、ALL（主音声＋副音声）

初期設定： MAIN

入出力の設定を変更する（INPUT MENU）

入出力端子の割り当てなど、デジタル信号の入出力に関する設定を行います。

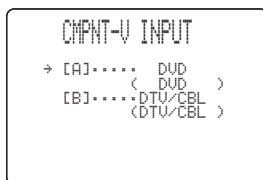
入出力端子の割り当てを変更する（I/O ASSIGNMENT）

お使いになる機器と、本機のD4／コンポーネントビデオ入力端子やデジタル入出力端子の機器名が異なる場合に、お使いになる機器に合わせて端子を割り当てることができます。割り当てを変更すると、変更後の機器を入力選択キーで選べます。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→
I/O ASSIGNMENT）

ここでは、DVDレコーダーを接続し、各端子の割り当てを「VCR」に設定する場合を例に説明します。設定後は入力選択キーの「VCR」を押すと、DVDレコーダーを選べます。

■ CMPNT-V INPUT [A]／[B]

```
CMPNT-V INPUT

→ [A]・・・・・  DVD
             (  DVD    )
  [B]・・・・・DTV/CBL
             (DTV/CBL  )
```

D4／コンポーネントビデオ入力端子の割り当てを変更します。

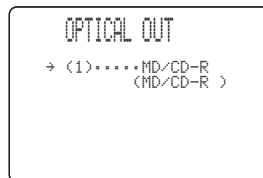
選択項目： DVD、DVR/VCR2、VCR1、V-AUX、DTV/CBL

初期設定： [A] DVD
[B] DTV/CBL

例：D4／コンポーネントビデオ入力（DVD）端子にDVDレコーダーを接続した場合、[A] の設定を「VCR1」に変更します。

ご注意

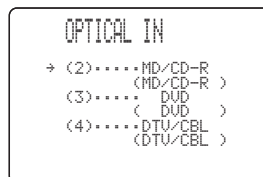
- CMPNT-V INPUT [A]／[B] には同じ選択項目を設定することはできません。
- D4ビデオ入力端子とコンポーネントビデオ入力端子には同じ選択項目が割り当てられます。端子ごとに設定を変更することはできません。

■ OPTICAL OUT（1）

光デジタル出力端子の割り当てを変更します。

選択項目： MD/CD-R、CD、PHONO、DVR/VCR2、VCR1、V-AUX、DTV/CBL、DVD

初期設定： MD/CD-R

例：光デジタル出力（MD/CD-R）端子にDVDレコーダーを接続した場合、設定を「VCR1」に変更します。

■ OPTICAL IN (2)／(3)／(4)

光デジタル入力端子の割り当てを変更します。

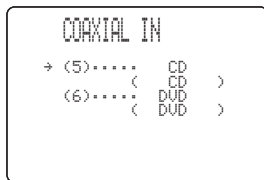
選択項目： CD、PHONO、DVR/VCR2、VCR1、DTV/CBL、DVD、MD/CD-R

初期設定：（2）MD/CD-R
（3）DVD
（4）DTV/CBL

例：光デジタル入力（MD/CD-R）端子にDVDレコーダーを接続した場合、(2) の設定を「VCR1」に変更します。

ご注意

OPTICAL IN (2)／(3)／(4) には同じ選択項目を設定することはできません。

■ COAXIAL IN (5)／(6)

同軸デジタル入力端子の割り当てを変更します。

選択項目： CD、PHONO、DVR/VCR2、VCR1、V-AUX、DTV/CBL、DVD、MD/CD-R

初期設定： （5）CD
（6）DVD

ご注意

- COAXIAL IN (5)／(6) には同じ選択項目を設定することはできません。
- ひとつの外部機器を本機の同軸（COAXIAL）と光（OPTICAL）両方のデジタル端子に接続している場合は、同軸デジタル端子からの入力が優先されます。

電源を入れたときに適用する入力モードを設定する（INPUT MODE）

電源を入れたときに適用するデジタル端子の入力モードを設定します。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→INPUT MODE）

B)INPUT MODE
▶AUTO LAST

[<]/[>]:Select
[ENTER]:Return

選択項目： AUTO、LAST

初期設定： AUTO

AUTO：デジタル入力端子の種類にあわせて、最適な入力モードを設定します。

LAST：前回使っていた入力モードを自動的に適用します。

ご注意

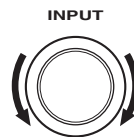
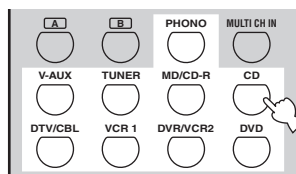
LASTに設定しても、EXTD SUR.キーで設定した内容は記憶されません。

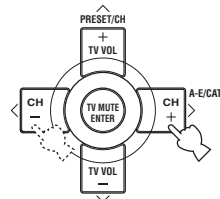
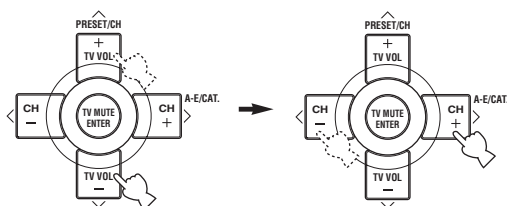
入力に名前をつける（INPUT RENAME）

本体のINPUTセレクターやリモコンの入力選択キーで選ぶ入力に名前をつけて、本体ディスプレイに表示することができます。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→INPUT RENAME）

**1 リモコンの入力選択キーを押して名前をつけたい入力を選ぶ。
または本体のINPUTセレクターを回して入力を選ぶ。**

リモコン

本体

2 リモコンのAMPキーを押す。

3 <／>キーを押して「_」（下線）を変更したい文字の位置へ動かす。

4 ︿／﹀キーを押して文字を選び、〈／〉キーを押して「 _ 」（下線）を動かして、次の文字を選び名前をつける。

－最長８文字の名前をつけることができます。
－﹀キーを押すと以下の順序で文字や記号が表示されます。︿キーを押すと逆の方向へ戻ります。
A～Z→（スペース）→０～９→（スペース）→a～z→（スペース）→
記号（♯、＊、－、＋など）

5 他の入力に名前をつけるときは手順１～４を繰り返す。

6 SET MENUキーを押して終了する。

各端子の出力レベルを調節する（VOLUME TRIM）

端子ごとに出力レベルを設定して、入力ソースにより異なる音量のばらつきを調節します。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→VOLUME TRIM）

選択項目： PHONO、CD、MD/CD-R、TUNER、DVD、DTV/CBL、V-AUX，VCR1、DVR/VCR2

その他の設定を変更する（OPTION MENU）

お好みに応じて表示の設定を変更したり、変更した設定値を保護できます。

表示の設定を変更する（DISPLAY SET）

本体ディスプレイの明るさなどを調節します。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→DISPLAY SET）

```
A)DISPLAY SET

→ DIMMER·········0
  VIDEO CONV.····ON
  OSD SHIFT······0
  GRAY BACK···AUTO
  CMPNT OSD·····ON
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:sELECT
```

■ DIMMER（ディスプレイの明るさ）

本体ディスプレイ表示の明るさを調節します。
数値が小さいほど、表示が暗くなり、数値が大きいほど、表示が明るくなります。

可変範囲： －４～０

初期設定： ０

■ VIDEO CONV.（ビデオコンバージョン機能）

コンポジットビデオ信号をＳビデオ信号およびコンポーネントビデオ信号に変換（コンバート）するかしないかを設定します。
この機能をオンにすると、Ｓビデオ信号およびコンポーネントビデオ信号が入力されていないときは、変換されたビデオ信号がＳ VIDEO 端子から出力されます。コンポーネントビデオ信号が入力されていないときは、Ｓビデオ信号はコンポーネントビデオ信号に変換されます。

選択項目： ON、OFF

初期設定： ON

ON：コンポジットビデオ信号をＳビデオ信号またはコンポーネントビデオ信号に、Ｓビデオ信号をコンポーネントビデオ信号に変換します。

OFF：変換しません。（ただし、Ｓビデオ信号はコンポジットビデオ信号に変換されます。）

ビデオコンバージョン機能のオン／オフにかかわらず、Ｓビデオ信号は常にコンポジットビデオ信号に変換されます。

ご注意

- 変換されたビデオ信号は、MONITOT OUT 端子へのみ出力されます。外部機器を使って録画するときは、同じ種類のビデオ接続（例：S VIDEO など）を行ってください。
- お手持ちのビデオデッキを本機に接続しているとき、コンポジットビデオ信号またはＳビデオ信号をコンポーネント信号に変換すると、ビデオデッキの種類によっては画質が劣化する場合があります。

■ OSD SHIFT

オンスクリーン表示を表示する上下位置を調節します。

可変範囲： －５（上方）～＋５（下方）

初期設定： ０

■ GRAY BACK

ビデオ信号が入力されていない場合のオンスクリーン表示の設定をします。

選択項目： AUTO、OFF

初期設定： AUTO

AUTO：ビデオ信号が入力されていない場合は、グレーの背景を表示して、オンスクリーン表示を表示します。

OFF：ビデオ信号が入力されていない場合は、オンスクリーン表示を表示しません。

ご注意

- GRAY BACK で OFF を設定している場合、コンポーネントビデオ信号の入力中はオンスクリーン画面が表示されません。オンスクリーン画面を表示するには、オンスクリーン表示をフル表示にして、GRAY BACK を AUTO に設定してください。
- 映像信号が入力されていない場合にオンスクリーン画面を表示するには、GRAY BACK を AUTO に設定してください。

■ CMPNT OSD

コンポーネントビデオまたはD4ビデオ（MONITOR OUT）端子からセットメニューや音場プログラムパラメーター表示のオンスクリーン信号を出すか、出さないかを設定します。

選択項目： ON、OFF

初期設定： ON

ON：コンポーネントビデオまたは D4 ビデオ（MONITOR OUT）端子からオンスクリーン信号を出します。

OFF：コンポーネントビデオまたは D4 ビデオ（MONITOR OUT）端子からオンスクリーン信号を出しません。

ご注意

CMPNT　OSD で OFF を設定している場合でも、SET MENU の内容はフロントパネルディスプレイに表示されます。

変更した設定値を保護する（MEMORY GUARD）

変更した設定値を保護します。ON に設定すると、誤操作による設定値の変更を防ぐことができます。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→MEMORY GUARD)

```
B)MEMORY GUARD
 ▶OFF    ON

[<]/[>]:Select
[ENTER]:Return
```

選択項目： ON、OFF

初期設定： OFF

ON に設定すると、以下の設定が保護されます。

- 音場プログラムパラメーターの設定
- 「MEMORY　GUARD」以外のセットメニューの設定
- 各スピーカーの音量レベル

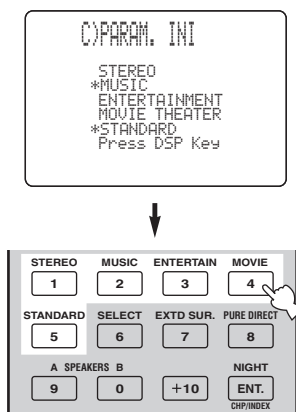
ご注意

ON に設定すると、他のセットメニューは呼び出せません。

音場プログラムパラメーターを初期化する（PARAM. INI）

変更した音場プログラムパラメーター（☞94 ページ）を、初期設定に戻します。
この機能を使って音声プログラムパラメーターを初期化すると、そのプログラム内のサブプログラムの設定もすべて初期化されます。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→PARAM. INI）

本体ディスプレイに「Press DSP key」と表示されているときに、リモコンの数字／音場プログラムキーで、初期設定に戻したい音場プログラムを選びます。

選ばれた音場プログラムのパラメーターが初期設定に戻ります。

ご注意

- 一度初期化すると、初期化前の状態には戻せません。誤って初期化してしまったときのために、パラメーターを変更したときは記録しておいてください。
- サブプログラムごとに、初期設定に戻すことはできません。
- セットメニュー「MEMORY GUARD」をONに設定している場合は、初期設定に戻すことはできません。

スピーカーBの設置場所を設定する（MULTI ZONE SET）

リアパネルのFRONT SPEAKERS B端子に接続したスピーカーの設置場所を設定します。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→MULTI ZONE SET）

■ SP B

リアパネルのFRONT SPEAKERS B端子に接続したスピーカー（スピーカーB）を、メインリスニングルームで使うか、別の部屋で使うかを設定します。

選択項目： FRONT、ZONE B

初期設定： FRONT

FRONT：メインリスニングルームでお使いになるときの設定です。スピーカーAとスピーカーBの出力のオン／オフは、SPEAKERS A ／ B スイッチで切り替えます。

ZONE B：別の部屋でお使いになるときの設定です。スピーカーAの出力をオフ、スピーカーBの出力をオンにすると、メインルームに設置しているすべてのスピーカーから、音が出なくなります。

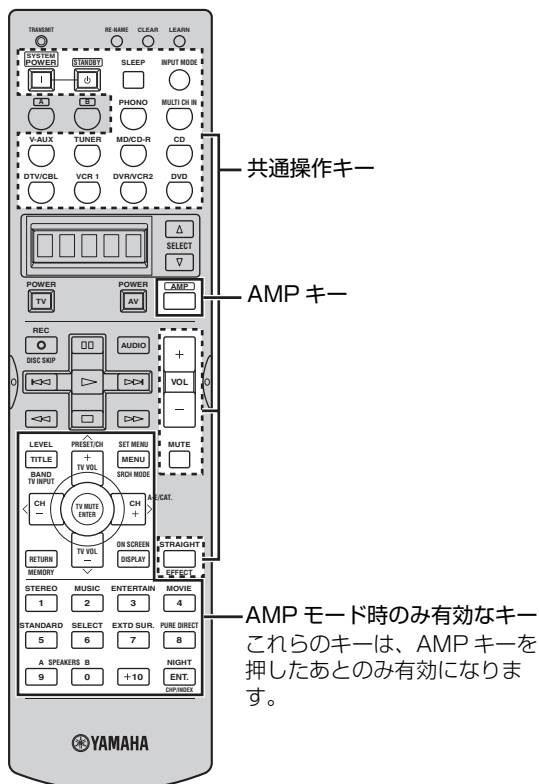
ヒント

- ZONE Bに設定してお使いの場合、本機のPHONES端子にヘッドホンを差し込むと、ヘッドホンとスピーカーBの両方から音声が出力されます。
- ZONE Bに設定して、スピーカーAをオフ、スピーカーBをオンにした場合、音場プログラムを選んで音場効果をかけると、自動的にバーチャルシネマDSPモードでの再生になります。

リモコンのはたらき

メーカーコードを設定することにより、本機のリモコンでDVDプレーヤーやCDプレーヤー、テレビなど本機以外のAV機器を操作することができます。

本機を操作する

本機の操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。点線部分内のキーはどのモードでも機能します。その他の白色部分のキーを使うにはAMPキーを押して、AMPを選びます。

■ リモコンをAMPモードに固定する

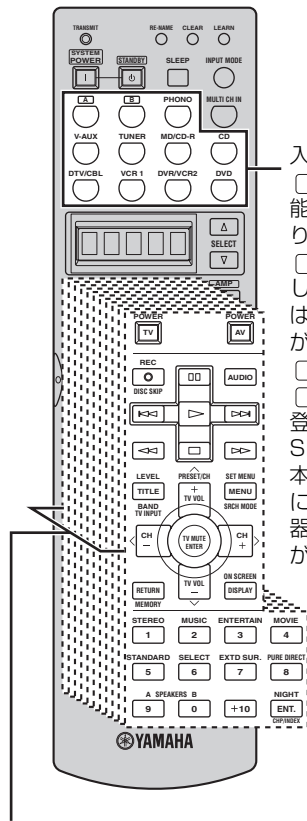
リモコンを固定AMPモードに設定すると、上図の白色で示したキーを押した際に、常に本機を操作することができます。固定AMPモードに設定するには、リモコンディスプレイに「A:」と表示されるまで（約3秒間）AMPキーを押し続けてください。

A:DVD ⟷ DVD

固定 AMP モード　　通常操作モード

一時的に通常操作モードに切り替えるには、AMPキーを押します。
固定アンプモードを解除して通常操作モードに戻るには、リモコンディスプレイの「A:」が消えるまで（約3秒間）AMPキーを押し続けます。

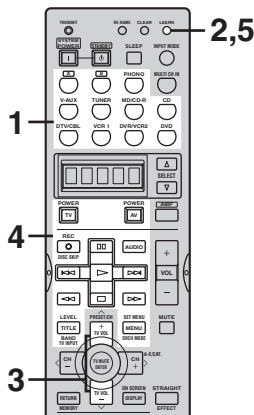
他の機器を操作する

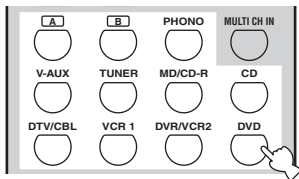
他の機器の操作に使うキーは、下図の点線で囲んだ部分です。入力選択キーで選んだ機器によって、各キーの機能が変わります。

他の機器を操作できるキー
最大 11 台の異なる機器を操作できます（☞78 ページ）。

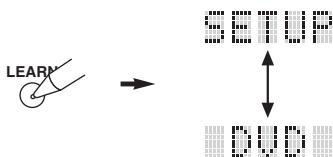
本機のリモコンで他の機器を操作する

本機のリモコンで他の機器を操作するための設定について説明します。

リモコンで操作する機器を設定する

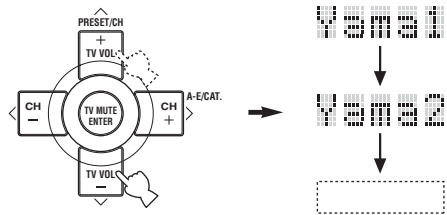
メーカーコードを設定することにより、本機のリモコンで他のメーカーの機器を操作することができます。メーカーコードは各入力選択キーまたは A ／ B キーに設定することができます。

1 メーカーコードを設定したい入力選択キーまたは A ／ B キーを押す。

例：DVD プレーヤーを本機のリモコンで操作したい場合は、DVD キーを押します。

2 LEARN ボタンを３秒以上押し続ける。

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「SETUP」と、選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。

ご注意

LEARN ボタンは３秒以上押しつづけてください。短く押して離すと、ラーニングモード（☞83 ページ）に切り替わります。

3 ∧または∨キーを押して、メーカーコードを選ぶ。

５文字以上のメーカーコードはスクロールして表示されます。
メーカー名とメーカーコードの対応については、80、81 ページをご覧ください。

4 動作確認をする。

POWER や PLAY などの各キーで、お使いの機器が正しく動作するか確認してください。正しく動作しないときは、手順３で同じメーカーの別のメーカーコードを選んでみてください。

ヒント

メーカーコードを続けて別の入力選択キーにも設定したい場合は、TV MUTE/ENTER キーを押してから、手順 1、3、4 を繰り返してください。

5 LEARN ボタンを押して、メーカーコードの設定を終了する。

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

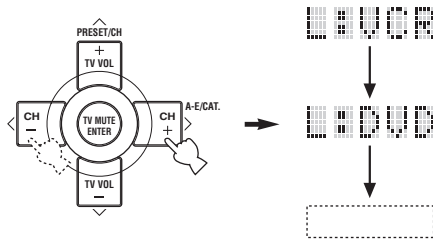
- 手順２以降の操作は、それぞれ操作後 30 秒以内に行ってください。30 秒以上経過するとメーカーコード設定が自動的に中止されます。この場合は、手順２から操作しなおしてください。
- 付属のリモコンは、市販されているすべての AV 機器（ヤマハ AV 機器を含む）のメーカーコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちの AV 機器を操作できない場合があります。いずれのメーカーコードでも操作ができない場合は、ラーニング機能（☞83 ページ）を利用するか、お使いの機器に付属するリモコンをお使いください。
- １つの入力選択キーに対して、メーカーコードは１つだけ設定できます。
- すでにラーニングを設定している場合、ラーニングによる機能が、メーカーコードの機能より優先されます。
- 手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

■ 機器の種類（ライブラリー）を変更する

あらかじめ各入力選択キーに設定されている機器の種類（ライブラリー）を変更することができます。例えば、V-AUXキーにはあらかじめ「VCR」が設定されていますが、「V-AUXキーでTVを操作したい」という場合には、機器の種類（ライブラリー）を「TV」に変更することで、V-AUXキーを押して、テレビを操作できるようになります。

1 **78 ページの「リモコンで操作する機器を設定する」の手順1と2の操作をする。**

2 **<または> キーを押して、使いたい機器の種類（ライブラリー）を選ぶ。**

本機のリモコンには、DVD、DVR、LD、CD、CDR、MD、TAP、TUN、AMP、TV、CAB、DBS、SAT、VCRの14通りのライブラリーが用意されています。

3 **78 ページの「リモコンで操作する機器を設定する」の手順3から操作する。**

ご注意

- 国内BSデジタルチューナー用のメーカーコードはL:DBSのPanasonic、Sony、Toshiba-2の3種類です。
- アンプライブラリー（L:AMP）は本機のライブラリーコードを変更します（☞83 ページ）。

■ 工場出荷時のメーカーコード設定

下表のように、A、B、TUNER、MD/CD-R、CD、DVR/VCR2、DVDの入力選択キーには工場出荷時にあらかじめヤマハのメーカーコードが設定されています。詳しくは、80、81 ページをご覧ください。

入力選択キー	ライブラリー	メーカーコード
A	LD	Yamaha-1
B	CD-R	Yamaha
PHONO	TV	–
V-AUX	VCR	–
TUNER	TUNER	Yamaha-4
MD/CD-R	MD	Yamaha-1
CD	CD	Yamaha-1
DTV/CBL	TV	–
VCR 1	VCR	–
DVR/VCR 2	DVR	Yamaha
DVD	DVD	Yamaha-1

ご注意

お使いのヤマハ機器によっては、初期設定されているヤマハのメーカーコードでは、操作できない場合があります。この場合は、ヤマハの別のメーカーコードをお試しください。

メーカーコード一覧

本機のリモコンに内蔵されているライブラリーは全世界対応です。下表は主に日本で流通しているメーカーのコードを抜粋したものです。下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のメーカーコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。

TV

メーカー名	短縮表示	フル表示
AIWA	Aiwa	−
BEST	Bsta1～4	Best/14M01-1～4
	Bstb	Best/14M02
	Bstc	Best/14M10
	Bstd1～4	Best/20M01-1～4
	Bste1～4	Best/20M02-1～4
	Bstf	Best/20M03
	Bstg	Best/25M010
	Bsth	Best/D25AV10
DACUS	Dacu1～2	Dacus-1～2
DAEWOO	Daew1～9	Daewoo-1～9
FUNAI	Funa1～8	Funai-1～8
GENERAL (FUJITSU GENERAL)	Gener	General
GOLDSTAR（LG）	Gold1～9	Goldstar-1～9
HITACHI	Hita1～9	Hitachi-1～9
INTERCONP	Intcp	Interconp
MITSUBISHI	Mits1～9	Mitsubishi-1～9
NEC	NEC-1～9	−
PANASONIC	Pana1～8	Panasonic-1～8
PHILIPS	Phip1～3	Philips-1～3
PIONEER	Pion1～4	Pioneer-1～4
SAMSUNG	Sams1～9	Samsung-1～9
	Samsu	Samsung
SANYO	Sany1～9	Sanyo-1～9
SHARP	Shar1～9	Sharp-1～9
SONY	Sony1～7	Sony-1～7
TOSHIBA	Tosh1～7	Toshiba-1～7
VICTOR	Vict1～4	Victor-1～4
YAMAHA	Yama1～7	Yamaha-1～7

ケーブル TV チューナー

メーカー名	短縮表示	フル表示
PIONEER	Pion1～2	Pioneer-1～2

BS デジタルチューナー

メーカー名	短縮表示	フル表示
PANASONIC	Panas	Panasonic
SONY	Sony	−
TOSHIBA	Tosh1～2	Toshiba-1～2

テープデッキ

メーカー名	短縮表示	フル表示
AIWA	Aiwa1～3	Aiwa-1～3
AKAI	Akai	−
DENON	DENON	−
KENWOOD	Kenw1～6	Kenwood-1～6
MARANTZ	Mara1～2	Marantz-1～2
MITSUBISHI	Mitsu	Mitsubishi
ONKYO	Onky1～2	Onkyo-1～2
PIONEER	Pion1～3	Pioneer-1～3
SANSUI	Sans1～2	Sansui-1～2
SHARP	Sharp	−
SONY	Sony1～3	Sony-1～3
TEAC	Teac1～2	−
TECHNICS	Tech1～2	Technics-1～2
VICTOR	Victr	Victor
	JVC-1～3	−
YAMAHA	Yama1～7	Yamaha-1～7

ビデオデッキ

メーカー名	短縮表示	フル表示
AIWA	Aiwa1～2	Aiwa-1～2
DAEWOO	Daew1～3	Daewoo-1～3
FUNAI	Funai	−
GOLDSTAR（LG）	Gold1～3	Goldstar-1～3
HITACHI	Hita1～7	Hitachi-1～7
MITSUBISHI	Mits1～6	Mitsubishi-1～6
NEC	NEC-1～7	−
PANASONIC	Pana1～9	Panasonic-1～9
SAMSUNG	Sams1～4	Samsung-1～4
SANYO	Sany1～5	Sanyo-1～5
SHARP	Shar1～2	Sharp-1～2
SHINTOM	Shint	Shintom
SONY	Sony1～7	Sony-1～7
TOSHIBA	Tosh1～7	Toshiba-1～7
VICTOR	Vict1～2	Victor-1～2
	JVC-1～5	−
YAMAHA	Yama1～2	Yamaha-1～2

DVD プレーヤー

メーカー名	短縮表示	フル表示
DENON	DENON	−
HITACHI	Hitac	Hitachi
KENWOOD	Kenwo	Kenwood
MITSUBISHI	Mitsu	Mitsubishi
ONKYO	Onky1 ～ 2	Onkyo-1 ～ 2
PANASONIC	Panas	Panasonic
PHILIPS	Phip1 ～ 2	Philips-1 ～ 2
PIONEER	Pion1 ～ 2	Pioneer-1 ～ 2
RCA	RCA	−
SAMSUNG	Samsu	Samsung
SHARP	Sharp	−
SONY	Sony	−
TOSHIBA	Tosh1 ～ 2	Toshiba-1 ～ 2
VICTOR	JVC-1 ～ 2	−
YAMAHA	Yama1 ～ 3	Yamaha-1 ～ 3

DVD レコーダー

メーカー名	短縮表示	フル表示
PANASONIC	Pana1 ～ 3	Panasonic-1 ～ 3
PHILIPS	Phips	Philips
PIONEER	Pion1 ～ 3	Pioneer-1 ～ 3
SHARP	Shar1 ～ 2	Sharp-1 ～ 2
SONY	Sony1 ～ 3	Sony-1 ～ 3
TOSHIBA	Toshi	Toshiba
YAMAHA	Yamah	Yamaha

LD プレーヤー

メーカー名	短縮表示	フル表示
AIWA	Aiwa	−
DENON	DENON	−
FUNAI	Funai	−
HITACHI	Hitae	Hitachi (E)
KENWOOD	Kenw1 ～ 2	Kenwood-1 ～ 2
MARANTZ	Maran	Marantz
MITSUBISHI	Mitsu	Mitsubishi
PANASONIC	Pana1 ～ 2	Panasonic-1 ～ 2
PHILIPS	Phips	Philips
PIONEER	Pion1 ～ 3	Pioneer-1 ～ 3
SHARP	Sharp	−
SONY	Sony1 ～ 3	Sony-1 ～ 3
VICTOR	Victr	Victor
YAMAHA	Yama1 ～ 2	Yamaha-1 ～ 2

CD プレーヤー

メーカー名	短縮表示	フル表示
AIWA	Aiwa1 ～ 4	Aiwa-1 ～ 4
DENON	DENO1 ～ 3	DENON-1 ～ 3
GOLDSTAR（LG）	Gold1 ～ 4	Goldstar-1 ～ 4
HITACHI	Hita1 ～ 4	Hitachi-1 ～ 4
KENWOOD	Kenw1 ～ 9	Kenwood-1 ～ 9
KYOCERA	Kyoce	Kyocera
LUXMAN	Luxm1 ～ 6	Luxman-1 ～ 6
MARANTZ	Mara1 ～ 5	Marantz-1 ～ 5
MITSUBISHI	Mits1 ～ 2	Mitsubishi-1 ～ 2
NAKAMICHI	Naka1 ～ 3	Nakamichi-1 ～ 3
NEC	NEC-1 ～ 3	−
ONKYO	Onky1 ～ 5	Onkyo-1 ～ 5
PANASONIC	Pana1 ～ 4	Panasonic-1 ～ 4
PHILIPS	Phip1 ～ 2	Philips-1 ～ 2
PIONEER	Pion1 ～ 3	Pioneer-1 ～ 3
SAMSUNG	Samsu	Samsung
SANSUI	Sans1 ～ 5	Sansui-1 ～ 5
SANYO	Sany1 ～ 4	Sanyo-1 ～ 4
SHARP	Shar1 ～ 5	Sharp-1 ～ 5
SONY	Sony1 ～ 4	Sony-1 ～ 4
TEAC	Teac1 ～ 7	−
TECHNICS	Tech1 ～ 3	Technics-1 ～ 3
TOSHIBA	Tosh1 ～ 2	Toshiba-1 ～ 2
VICTOR	Victr	Victor
YAMAHA	Yama1 ～ 7	Yamaha-1 ～ 7

CD レコーダー

メーカー名	短縮表示	フル表示
HITACHI	Hitac	Hitachi
MARANTZ	Mara1 ～ 2	Marantz-1 ～ 2
PHILIPS	Phips	Philips
PIONEER	Pion1 ～ 2	Pioneer-1 ～ 2
VICTOR	JVC	−
YAMAHA	Yamah	Yamaha

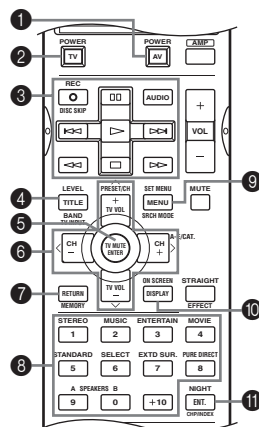
MD レコーダー

メーカー名	短縮表示	フル表示
KENWOOD	Kenwo	Kenwood
PIONEER	Pione	Pioneer
SHARP	Sharp	−
SONY	Sony	−
YAMAHA	Yama1 ～ 4	Yamaha1 ～ 4

設定した機器を操作する

お使いの機器のメーカーコードを設定すると、その機器を本機のリモコンで操作することができます。

ご注意

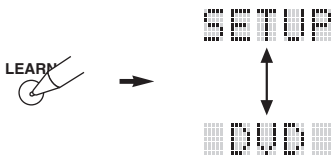
- お使いの機器によっては、いくつかのキーが機能しないことがあります。このような場合には、お使いの機器に付属するリモコンをお使いください。
- お使いの機器によっては、キー操作と説明が一致しないことがあります
- 工場出荷時、A、B、TUNER、MD/CD-R、CD、DVR/VCR2、DVDキーにはヤマハメーカーコードが設定されています。他社製の機器を操作する場合は、メーカーコードを変更する必要があります。また上記以外の機器を操作するには、メーカーコードをあらかじめ設定してください（☞78 ページ）。

機器 / リモコンのキー	DVD プレーヤー /DVD レコーダー	ビデオデッキ	テレビ	LD プレーヤー	CD プレーヤー	CD レコーダー／MD レコーダー	チューナー
❶AV POWER	*1POWER	*1POWER	*3(ビデオデッキ)POWER	*1POWER	*1POWER	*1POWER	*1POWER
❷TV POWER	*2(テレビ)POWER	*2(テレビ)POWER	*1POWER	*2(テレビ)POWER	*2(テレビ)POWER	*2(テレビ)POWER	*2(テレビ)POWER
❸REC/DISC SKIP	*4(プレーヤー)ディスクスキップ (レコーダー)録画	録画	*3(ビデオデッキ)録画	–	*4 ディスクスキップ	(MD) 録音	–
▷	再生	再生	*3(ビデオデッキ)再生	再生	再生	再生	–
◁◁	早戻し	巻き戻し	*3(ビデオデッキ)巻戻し	早戻し	早戻し	早戻し	–
▷▷	早送り	早送り	*3(ビデオデッキ)早送り	早送り	早送り	早送り	–
AUDIO	オーディオメニュー	–	–	サウンドメニュー	–	–	–
▯▯	一時停止	一時停止	*3(ビデオデッキ)一時停止	一時停止	一時停止	一時停止	–
⏮	チャプタースキップ(－)	–	–	スキップ (－)	スキップ (－)	スキップ (－)	–
⏭	チャプタースキップ(＋)	–	–	スキップ (＋)	スキップ (＋)	スキップ (＋)	–
□	停止	停止	*3(ビデオデッキ)停止	停止	停止	停止	–
❹TITLE/ TV INPUT	タイトルメニュー	*2(テレビ)入力切替	入力切替	*2(テレビ)入力切替	*2(テレビ)入力切替	*2(テレビ)入力切替	バンド切替
❺TV MUTE/ ENTER	メニュー決定	*2(テレビ)消音	消音	*2(テレビ)消音	*2(テレビ)消音	*2(テレビ)消音	–
❻TV VOL ＋	選択（上へ）	*2(テレビ)音量(＋)	音量 (＋)	*2(テレビ)音量(＋)	*2(テレビ)音量(＋)	*2(テレビ)音量(＋)	登録局(1～8)選択(＋)
TV VOL －	選択（下へ）	*2(テレビ)音量(－)	音量 (－)	*2(テレビ)音量(－)	*2(テレビ)音量(－)	*2(テレビ)音量(－)	登録局(1～8)選択(－)
CH ＋	選択（右へ）	*2(テレビ)チャンネル選択(＋)	チャンネル選択(＋)	*2(テレビ)チャンネル選択(＋)	*2(テレビ)チャンネル選択(＋)	*2(テレビ)チャンネル選択(＋)	プリセットグループ選択 (A→E)
CH －	選択（左へ）	*2(テレビ)チャンネル選択(－)	チャンネル選択(－)	*2(テレビ)チャンネル選択(－)	*2(テレビ)チャンネル選択(－)	*2(テレビ)チャンネル選択(－)	プリセットグループ選択 (A←E)
❼RETURN	前の画面へ戻る	–	–	–	–	–	–
❽1～9、0、+10	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	登録局選択(1～8)
❾MENU	メニュー	–	–	–	–	–	–
❿DISPLAY	ディスプレイ表示	–	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	–
⓫ENT.	タイトル／インデックス表示	決定	決定	チャプター／時間表示	インデックス表示	インデックス表示	–

*1 機器に付属のリモコンに POWER キーがあるときのみ機能します。
*2DTV/CBL キーまたは PHONO キーにテレビのメーカーコードが設定されているときは、入力を切り替えなくてもテレビを操作できます。
DTV/CBL キーと PHONO キーの両方にテレビのメーカーコードが設定されている場合は、DTV/CBL キーに設定されたメーカーコードが優先されます。
*3VCR1 にビデオデッキのメーカーコードが設定されているときは、入力を切り替えなくてもビデオデッキを操作できます。
*4 ディスクチェンジャー機能がある機器のみ、機能します。

本機のライブラリーコードを変更する

本機以外のヤマハ製のレシーバーやアンプをお使いの場合は、本機のみをリモコンで操作できるようにライブラリーコードの設定を変更することをおすすめします。
初期設定のライブラリーコードのままリモコンを使うと、本機以外のお手持ちの機器が動作してしまう場合があります。

1 LEARNボタンを３秒以上押しつづける。

ボールペンなどの先の細いもので押します。
リモコンディスプレイに「SETUP」と入力ソースの名前が交互に表示されます。

2 ＜／＞キーを押して「L:AMP」を選び、∧／∨キーでライブラリーコードを選びます。

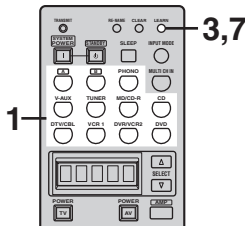
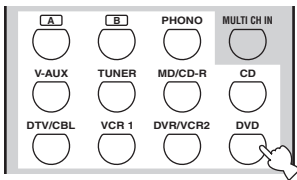
ライブラリーコード（リモコンの設定）	機能	リモコンID（本体の設定）
ID1（初期設定）	通常のライブラリーコードを使って本機を操作する。	ID1（初期設定）
ID2	別系統のライブラリーコードを使って本機を操作する。	ID2

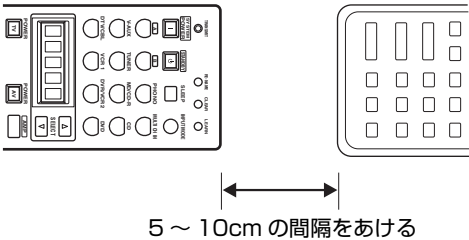
ご注意

- 本体のリモコンIDもあわせて設定する必要があります（☞113ページ）。
- ID1ZおよびID2Zは設定しないでください。正しく機能しないことがあります。

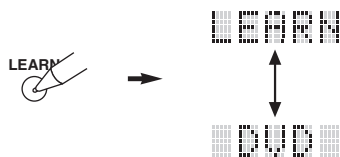
3 LEARNボタンを押して設定を終了します。

他の機器のリモコン機能を記憶させる

メーカーコードを設定しても、お使いの機器を操作できない場合や、お使いの機器のメーカーコードがない場合は、その機器のリモコン信号を本機のリモコンに記憶（ラーニング）させることで、操作ができるようにします。入力選択した機器ごとに別の機能をラーニングさせることができます。

1 操作したい機器の入力選択キーまたは A ／ B キーを押す。

2 本機のリモコンと、外部機器のリモコンを約５～10cm離し、赤外線送受信部が互いに対向するように置く。

５～10cmの間隔をあける

リモコンを使いこなす

3 LEARNボタンを押す。

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と、選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。

ご注意

LEARNボタンを３秒以上押すと、メーカーコード設定モード（☞78ページ）に切り替わります。

4 新しい機能をラーニングさせたい、本機のリモコンのキーを押す。

リモコンディスプレイに「LEARN」と表示されます。

5 リモコンディスプレイに「OK」と表示されるまで、外部機器のリモコンのラーニングさせたい機能のキーを押し続ける。

ご注意

- 「NG」と表示されたときは、ラーニングが正しく行われていません。手順５から操作をやりなおしてください。
- メモリー容量がいっぱいになっている場合は、リモコンディスプレイに「FULL」が表示され、それ以上のラーニングはできません。新しいラーニングをするときは、ラーニング済みのキーから不要なものを消去してください。

6 手順４～５を繰り返し、機能をラーニングさせる。

別の機器に機能をラーニングさせる場合は、手順３の状態でSELECT∆/∇キーを押して、機器を変更します。

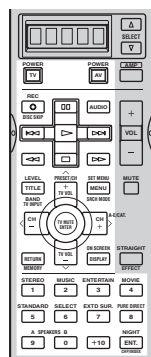
7 LEARN ボタンを押して、ラーニングを終了する。

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

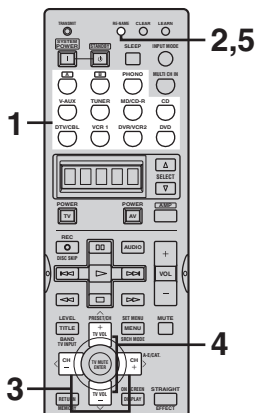
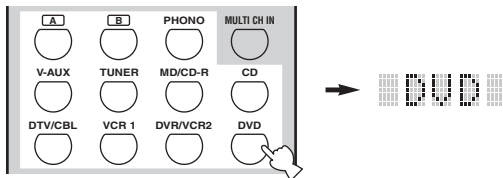
- 手順３以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。30秒以上経過するとラーニングが自動的に中止されます。この場合は、手順４から操作しなおしてください。
- 以下の場合は、ラーニングできないことがあります。
  - －本機のリモコンまたは外部機器のリモコンの乾電池が消耗している場合
  - －２台のリモコンの間隔が近すぎる、または離れすぎている場合
  - －リモコンの受光部の角度が適切でない場合
  - －リモコンに直射日光が当たっている場合
  - －特殊な信号や連続した信号の場合
- 手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

■ ラーニングに対応しているキー

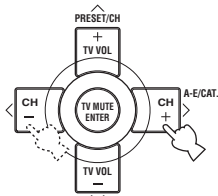
下図の白色で示した部分のキーに、ラーニングすることができます。

ご注意

入力選択キー、VOL＋/－キー、MUTEキー、STRAIGHT/EFFECTキーにラーニングすることも可能ですが、本機の操作ができなくなります。

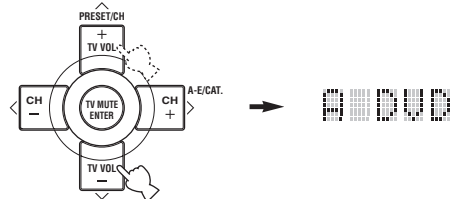
リモコンに表示される機器の名前を変更する

入力選択キーを押してリモコンのディスプレイに表示される機器名は、入力機器を接続した端子名に対応しています。端子名と異なった機器を本機に接続したときや、お使いのシステムにあったわかりやすい名前をつけたいときなどに、リモコンに表示される機器名を変更することができます。

1 名前を変更したい機器の入力選択キーまたは A ／ B キーを押す。

2 RE-NAME ボタンを押す。

ボールペンなど先の細いもので押します。左端にカーソルが点滅します。

3 ＜または＞ キーを押して、文字を入力したい位置にカーソルを移動する。

4 ∧または∨ キーを押して、入力する文字を選ぶ。

入力できる文字は以下のとおりです。

- アルファベット大文字（A～Z）
- アルファベット小文字（a～z）
- 数字（0～9）
- スペース（空白）
- 記号（/、－）

必要に応じて手順３と４を繰り返します。文字は最大５文字まで入力できます。
引き続き他の機器の名前を変更する場合は、SELECTキーを押してから、手順１、３～４を繰り返します。

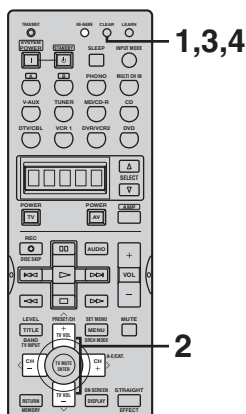
5 RE-NAME ボタンを押して、名前の変更を終了する。

リモコンが通常の状態に戻ります。

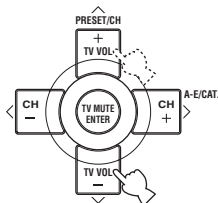
ご注意

手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

リモコンを初期化する

設定したライブラリー、メーカーコードやラーニングした操作を取り消して、工場出荷時の設定に戻すことができます。

1 CLEAR ボタンを押す。

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「CLEAR」と表示されます。

2 ∧または∨ キーを押して、消去モードを選ぶ。

消去モードは以下の５種類です。

L：（機器名）：
表示されている入力機器の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。入力選択キー、またはSELECT ∆/∇ キーで消去する入力機器を選択してください。

L：AMP：
本機の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。

L：ALL：
入力機器に関わらず、ラーニングされた機能をすべて消去します。

RNAME：
変更した入力ソースの名前をすべて工場出荷時の設定に戻します。

FCTRY：
メーカーコードを含む、すべてのリモコンの設定を工場出荷時の設定に戻します。

ヒント
ラーニングされた機能をひとつずつ消去する場合は、「ラーニングされた機能を消去する」（☞87 ページ）をご覧ください。

3 CLEAR ボタンを３秒以上押し続ける。

リモコンディスプレイに「C:OK」と表示され、手順２で選んだ機能や設定が消去されます。

ご注意
「C：NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。手順２から操作しなおしてください。

4 CLEAR ボタンを押して、消去を終了する。

リモコンが通常の状態に戻ります。

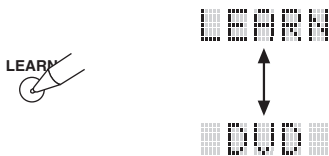
ご注意
- 手順１以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。30秒経過すると消去が自動的に中止されます。この場合は、手順１から操作しなおしてください。
- 手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

■ ラーニングされた機能を消去する

ラーニングされた機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することができます。

1 取り消したい機器の入力選択キーまたは A ／ B キーを押す。

2 LEARN ボタンを押す。

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と、選んだ入力ソース名が交互に表示されます。

3 CLEAR ボタンを押しながら、機能を消去したいキーを３秒以上押す。

リモコンディスプレイに「C：OK」と表示されます。

引き続き消去したいキーがある場合は、「C：OK」の表示が消えてから、手順３の操作を繰り返してください。

ご注意

「C：NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

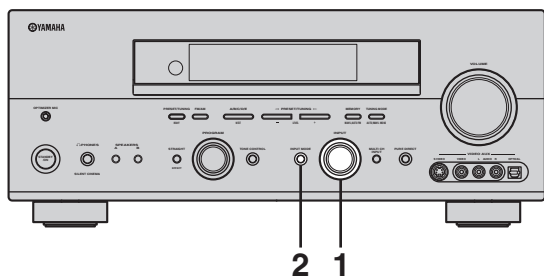
4 LEARN ボタンを押して、消去を終了する。

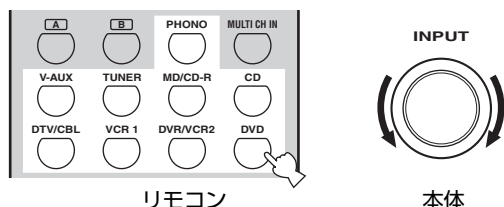
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

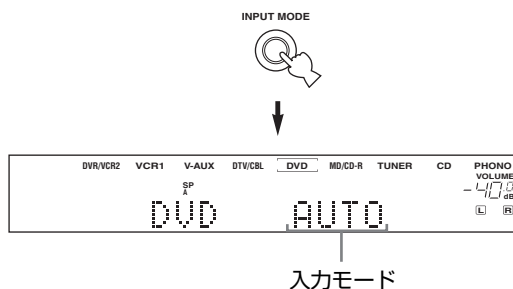
- 手順２以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。30秒以上経過すると消去が自動的に中止されます。この場合は、手順２から操作しなおしてください。
- 手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は、手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

デジタル信号／アナログ信号を切り替える（入力モード切り替え）

本機は、さまざまな種類の入力端子を装備しています。入力モードを切り替えることにより、入力信号のアナログ／デジタルの優先順位を設定したり、DTSなどの特定の信号に固定することができます。

1 **本体のINPUT セレクターを回して入力ソースを選ぶ。**
またはリモコンの入力選択キーを押す。

入力ソース

2 **本体のINPUT MODEキーを押して入力モードを選ぶ。**

通常、AUTOを選択します。

入力モード

AUTO：アナログ信号よりデジタル信号（*）が優先して選ばれます。

* ドルビーデジタル、DTS、AAC信号のいずれかが入力されると、自動的に最適なデコーダーに切り換わります。

DTS：DTS 信号に固定されます。DTS 信号以外の信号が入力されても再生されません。

AAC：AAC 信号に固定されます。AAC 信号以外の信号が入力されても再生されません。

ANALOG：アナログ信号に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

ヒント

セットメニュー「INPUT MODE」の設定で、本機の電源を入れたときに、前回使っていた入力モードをそのまま使うか、AUTOに戻すかを設定できます（☞72 ページ）。

■ デジタル信号のサンプリング周波数について

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号に対応しています。48kHzを超えるデジタル信号にHiFi DSPおよびCINEMA DSP音場プログラムの音場効果を付加する場合、またはナイトリスニングモードを適用する場合、サンプリング周波数は48kHz以下に変換されます。

■ DTS CD ／ DTS LD の再生について

- DTS CD、DTS LDを再生しているときは、入力モードをDTSに設定してください。
- プレーヤーから出力されるデジタル信号に、音量可変などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続してもDTS音声は再生されません。

スピーカーの音量を調節する

再生音を聴きながら、各スピーカーの音量を調節します。

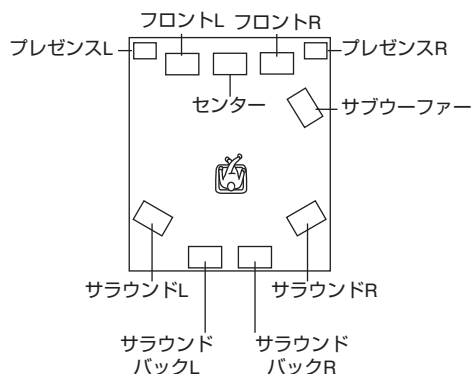
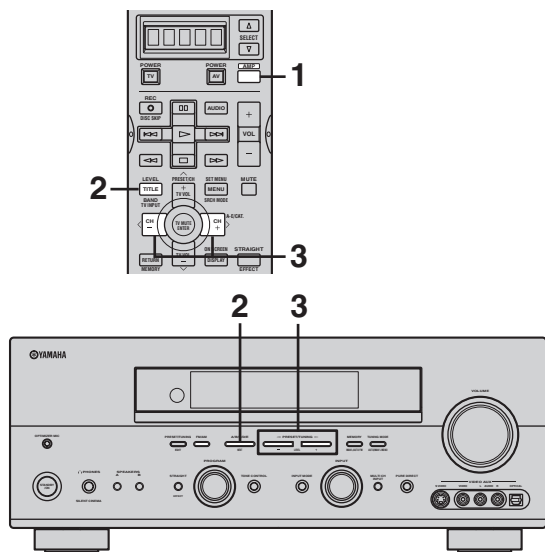
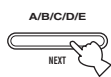
1 AMPキーを押して、AMPを選ぶ。

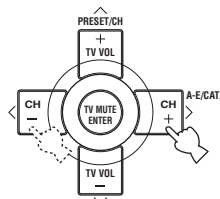
2 リモコンのLEVELキーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ。または本体のA/B/C/D/E（NEXT）キーを繰り返し押す。

リモコンのLEVELキーを1度押したあとは、∧／∨キーを使って選ぶこともできます。

リモコン　本体

表示	スピーカー
FRONT L	フロントL
CENTER	センター
FRONT R	フロントR
SUR.R	サラウンドR
SUR.B.R	サラウンドバックR
SUR.B.L	サラウンドバックL
SUR.L	サラウンドL
SWFR	サブウーファー
PRES L	プレゼンスL
PRES R	プレゼンスR

ヒント

セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. B L/R SP」をLRGx1またはSMLx1に設定した場合、「SUR.B R」および「SUR.B.L」は表示されません。かわりに「SUR.B」と表示され、1台のみの調節になります（☞65ページ）。

3 リモコンの < または > キーを押して、スピーカーの音量を調節する。または本体のLEVEL −／+キーを押す。

音量の調節範囲は、−10～+10dBです。

リモコン　本体

ヒント

MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているときは、独立して音量調節ができます。

ご注意

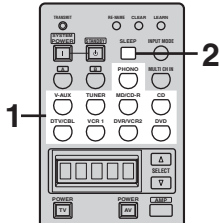
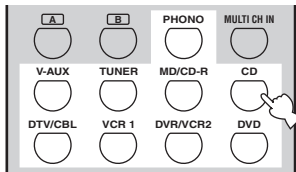
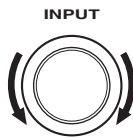
- セットメニュー「SPEAKER SET」でNONEに設定されているスピーカーの音量は調節できません（☞64ページ）。
- セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」をFRONTに設定している場合、サブウーファーの調節はできません（☞65ページ）。

便利な機能

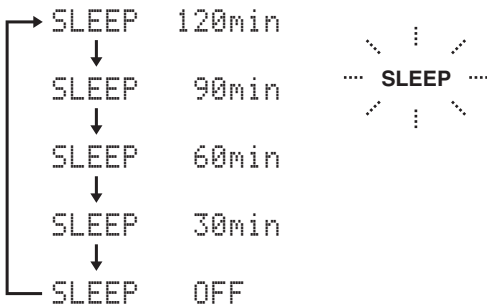
一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする（スリープタイマー）

設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイ状態になるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときなどに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面のACアウトレット（☞34 ページ）に接続した機器の電源も切れます。

スリープタイマーを設定する

リモコンで操作します。

1 リモコンの入力選択キーまたは本体のINPUTセレクターで入力（ソース）を選んで、再生をはじめる。

リモコン

本体

2 リモコンのSLEEPキーを繰り返し押して、スタンバイ状態になるまでの時間を選ぶ。

SLEEPキーを押すごとに、下記のように時間（120分、90分、60分、30分、OFF）が切り替わります。その間はSLEEPインジケーターが点滅します。

SLEEPインジケーターが点灯に変わると、スリープタイマーの時間設定が完了し、ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。

点灯

スリープタイマーを解除する

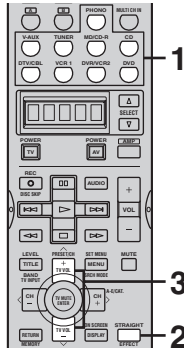
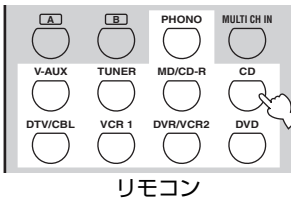
「SLEEP OFF」の表示が出るまで、SLEEPキーを繰り返し押します。

「SLEEP OFF」が数秒表示されたあと、音場プログラムの表示に戻り、SLEEPインジケーターも消灯します。

ヒント

リモコンのSTANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押すか、電源コードを抜くと、スリープタイマーは解除され、本機の電源はスタンバイ状態になります。

入力信号情報を表示する

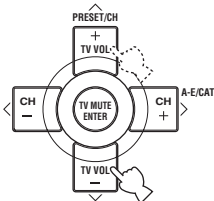
入力信号のフォーマット、チャンネル数やサンプリング周波数などの情報を表示させることができます。

1 本体の INPUT セレクターを回して情報を見たい入力を選ぶ。 またはリモコンの入力選択ボタンを押す。

リモコン

本体

2 STRAIGHT ／ EFFECT キーを押す。

本体ディスプレイに「STRAIGHT」と表示されます。

3 リモコンのPRESET/CH ∧または∨キーを押す。

入力信号の情報が表示されます。

入力信号のフォーマットの情報

表示	フォーマット
Analog	アナログ
PCM	PCM
Dolby Digital	ドルビーデジタル
DTS	DTS
AAC	AAC
Unknwn Digital	不明なデジタル信号

チャンネル数やサンプリング周波数などの情報

in

入力信号の音声チャンネル数 (ドルビーデジタル／ DTS ／ AAC 入力時のみ)。

例えば、「in:3/2/LFE」と表示された場合は、「フロント 3 チャンネル／サラウンド 2 チャンネル／ LFE」を示しています。また、二カ国語放送などの主＋副の 2 チャンネル音声は「1 ＋ 1 」、3 音声以上の音声多重形式の音声は「MLT」と表示されます。

fs

入力信号のサンプリング周波数 (デジタル信号入力時のみ)。サンプリング周波数が不明の場合は、「unknown」と表示されます。

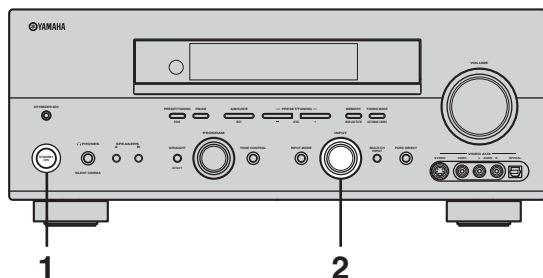
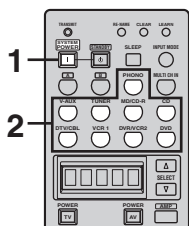
rate

入力信号の 1 秒あたりのデータ量＝ビットレート (ドルビーデジタル／ DTS ／ AAC 入力時のみ)。ビットレートが不明の場合は、「unknown」と表示されます。

flg

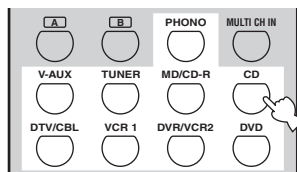
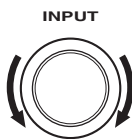
入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号＝フラグ (ドルビーデジタル／ DTS のみ)。フラグが認識できなかった場合は、「None」と表示されます。

外部機器で録音／録画する

本機に接続した録音／録画機器で、音声や映像を録音／録画できます。

1 本機と本機に接続されているすべての機器の電源を入れる。

STANDBY /ON

リモコン　　本体

2 本体のINPUTセレクター、またはリモコンの入力選択キーで録音／録画したい入力（ソース）を選ぶ。

リモコン　　本体

3 録音／録画する音声や映像を再生する。

再生する機器の取扱説明書をご覧ください。
FM／AM放送を録音したいときは、放送局を選局します（☞45ページ）。

4 録音／録画を開始する。

録音／録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- 録音／録画する前に、あらかじめ「試し録音」、「試し録画」をしてください。
- 録音されるレベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

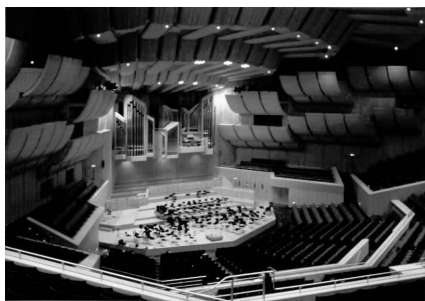
- 本機をスタンバイ状態にすると、接続した機器間で録音／録画できません。
- 入力ソースの出力端子からは、信号は出力されません（例：VCR入力端子へ入力された信号は、VCR出力端子から出力されません）。
- 本機のDSP処理による音場効果は、録音できません。
- 録音中に以下の操作を行っても、録音される音声には影響しません。
  - 音量を調節する。
  - 音質を調節する（TONE CONTROL機能）。
  - スピーカーレベルを変更する。
  - 音場プログラムを変更する。
- MULTI CH INPUT端子に入力された信号は、録音できません。
- アナログ音声出力端子から、アナログで録音する場合は、録音したい入力ソースをアナログで接続します。また、光デジタル出力端子から、デジタルで録音する場合は、録音したい入力ソースをデジタルで接続します。
- Sビデオ入力端子に入力されたSビデオ信号は、Sビデオ出力端子からのみ録画できます。同様に、ビデオ入力端子に入力されたビデオ信号は、ビデオ出力端子からのみ録画できます。ビデオコンバージョン機能は作動しません。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。
- コピー防止機能のあるビデオを再生すると、画像が乱れる場合があります。

■ DTS CD／DTS DVD音声の録音／再生について

DTS信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタル録音したものをデコーダーを通さずに再生するとノイズだけが再生されます。

- DTS CDまたはDTS DVDの音声をデジタル録音したものを再生する場合は、デコーダーを通して再生してください。
- DTS CDの音声を録音する場合は、DTSデコーダー内蔵のDVDプレーヤーからアナログで録音することをおすすめします。

詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

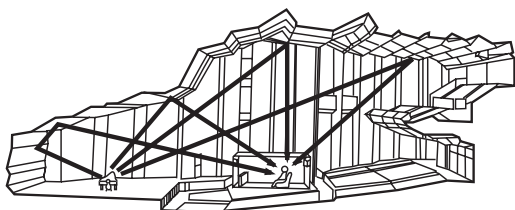
音場とは？

「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」の他に、床や壁・天井などに一回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。
ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータをROMに蓄積しています。本機では、この音場測定の実測データを基に作成された、音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウス等の音場をリスニングルームに再現することができます。

音場を構成する要素

■ **初期反射音**

１つの表面（壁や天井など）に反射してから、極めて急速（直接音が発生してから50msから80ms後）にリスナーの耳に到達する反射音です。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

■ **後部残響音**

２つ以上の表面（壁や天井、部屋の後部など）に何回も反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

反射音のイメージ

直接音、初期反射音、後部残響音がひとつになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができるのです。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現して、音場を作り出します。

リスニングルームで適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができるわけです。リスニングルームをコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂などさまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができます。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

音場の種類

本機がつくりだす音場は大きくわけて以下の３つです。

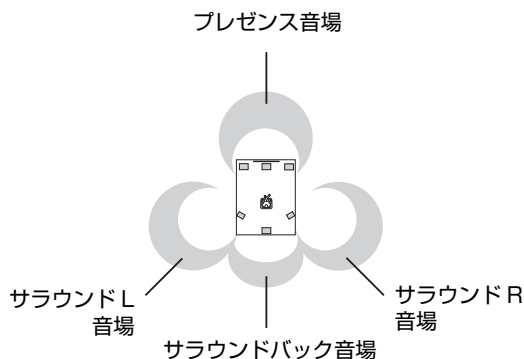
■ **プレゼンス音場**

前方に広がる音場です。

■ **サラウンド音場**

後方に広がる音場です。

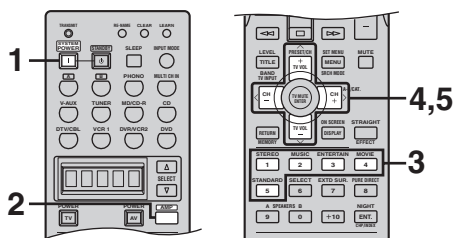
■ **サラウンドバック音場**

後方中央につくりだされる音場です。

音場プログラムパラメーターを変更する

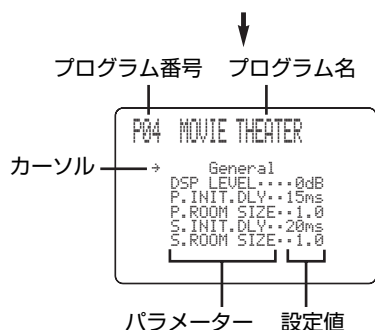
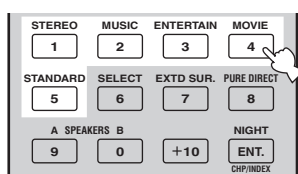
各音場プログラムのパラメーターは、初期設定のままで十分お楽しみいただけますが、音場プログラムの一部のパラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場プログラムをアレンジできます。

ご注意

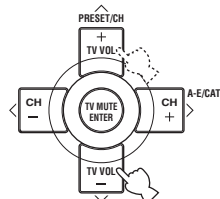
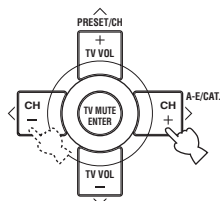
セットメニュー「MEMORY GUARD」をONに設定しているとパラメーターを変更できません。変更する前にOFFに設定してください(☞75 ページ)。

リモコンで操作します。

1 本機の電源を入れる。

2 AMPキーを押して、AMPを選ぶ。

3 音場プログラムキーを押して、音場プログラムを選ぶ。

ご注意

PURE DIRECTはパラメーターを変更できません。

4 ∧ または ∨ キーを押して、変更したいパラメーターを選ぶ。

5 < または > キーを押して、設定値を変更する。

ヒント

パラメーターを初期設定に戻したいときは、初期設定値でいったん表示が止まるまで < または > キーを押し続けます。

6 他の音場プログラムのパラメーターを変更する場合は、手順３～５を繰り返す。

■ メモリーバックアップ機能について

本機は電源がスタンバイ時にも、設定などを保存できます。電源コードをACコンセントから抜いたり、電源を１週間以上入れないと、保存された設定などは消去されますのでご注意ください。

パラメーターを初期設定に戻す

セットメニュー「PARAM. INI」で、音場プログラムごとにすべてのパラメーターを初期設定に戻すことができます(☞76 ページ)。

音場プログラムパラメーターガイド

音場プログラムごとにDSP処理の構造が違います。以下のパラメーターはすべての音場プログラムで設定できるわけではありません。

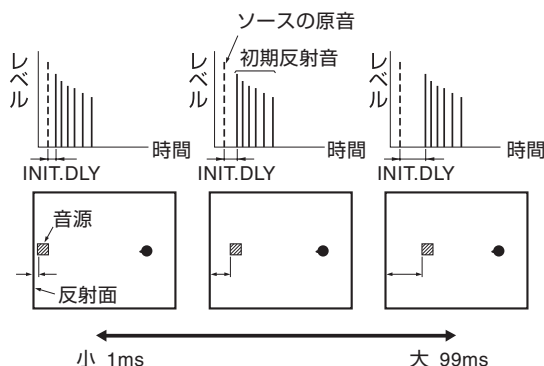
■ DSP LEVEL（エフェクト量の調節）

エフェクト量（音場効果のかかり具合）を微調節するパラメーターです。視聴環境にあわせて、直接音のレベルを確認しながら音場効果のかかり具合を変更できます。

可変範囲： − 6 ～＋ 3dB

■ INIT. DLY（遅延時間の調節）

直接音から初期反射音が始まるまでの時間（遅延時間）を調節するパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。DELAYを調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等が調節できます。通常はリスニングルームの大きさに比例させて設定します。

可変範囲： 1 ～ 99ms

■ DIALG.LIFT（セリフの位置調節）

会話など、中央に定位する音の、定位位置（上下方向）を調節するパラメーターです。値を大きくすると上方に定位します。

可変範囲： 0 ～ 5

ご注意

セットメニュー「PRIORITY」をSBchに設定して、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルで再生しているときは、プレゼンス成分がフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されるため、DIALG. LIFTパラメーターを調節しても効果はありません。

■ DIRECT（2チャンネルソースのデコード設定）

AUTOに設定すると、本機のデコーダーをバイパスして2チャンネルアナログソースが出力されます。
ナイトリスニングモードがOFFの状態で、音色の調節（TONE CONTROL）でBASSおよびTREBLEが0dBに設定されている場合のみ、有効になります

選択項目： AUTO ／ OFF

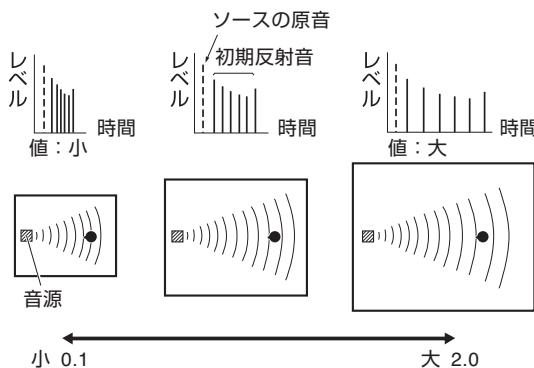
初期設定： AUTO

ご注意

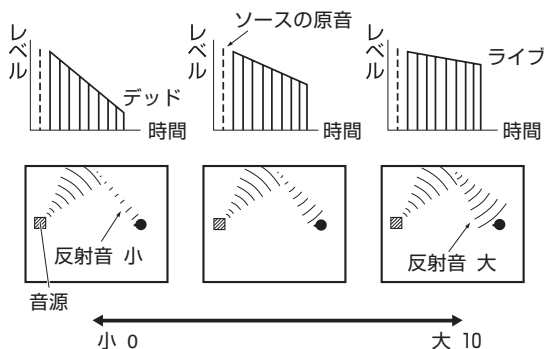
- ドルビーデジタル、DTS、またはAACのマルチチャンネル信号が入力されると2チャンネル（フロントL／Rスピーカー）に振り分けられます。
- 以下の場合はフロントL／Rスピーカーの低音はサブウーファーから出ます。
  - セットメニュー「SPEAKER SETUP」のBASS OUTがBOTHに設定されているとき。
  - セットメニュー「SPEAKER SETUP」のFRONTがSMLに設定されていて、BASS OUTがSWFRに設定されているとき。

■ ROOM SIZE（空間の大きさ調節）

空間の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど広い空間（部屋）になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音同士の時間間隔を調節すれば、広がり感を変えることができるということになります。1.0で実測値そのまま、2. 0にすると、一辺の長さが倍の空間になります。

可変範囲： 0.1 ～ 2.0

■ LIVENESS（反響量の調節）

初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、ライブな（反響が多い）音場になり、値を小さくするほどデッドな（反響が少ない）音場になります。実際のホールでのライブ感／デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。

可変範囲： 0 ～ 10

■ P.INIT.DLY
（プレゼンス音場の遅延時間の調節）

直接音が出てから、プレゼンス音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、プレゼンス音場が遅れて発生します。

可変範囲： 1 ～ 99ms

■ P.ROOM SIZE
（プレゼンス音場の空間の大きさ調節）

プレゼンス音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、プレゼンス反射音同士の時間間隔が長くなり、ソースに含まれる音楽や効果成分に広がり感が出てきます。

可変範囲： 0.1 ～ 2.0

■ S.INIT.DLY
（サラウンド音場の遅延時間の調節）

直接音が出てから、サラウンド音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場が遅れて発生します。

可変範囲： 1 ～ 49ms

■ S.ROOM SIZE
（サラウンド音場の空間の大きさ調節）

サラウンド音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドの音場空間が広がります。

可変範囲： 0.1 ～ 2.0

■ S. LIVENESS
（サラウンド音場の反響量の調節）

サラウンド音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場の響きが強くなります。

可変範囲： 0 ～ 10

■ SB INI.DLY
（サラウンドバック音場の遅延時間の調節）

直接音が出てから、サラウンドバック音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバック音場が遅れて発生します。
6.1 または 7.1 チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲： 1 ～ 49ms

■ SB RM SIZE
（サラウンドバック音場の空間の大きさ調節）

サラウンドバック音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバックの音場空間が広がります。
6.1 または 7.1 チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲： 0.1 ～ 2.0

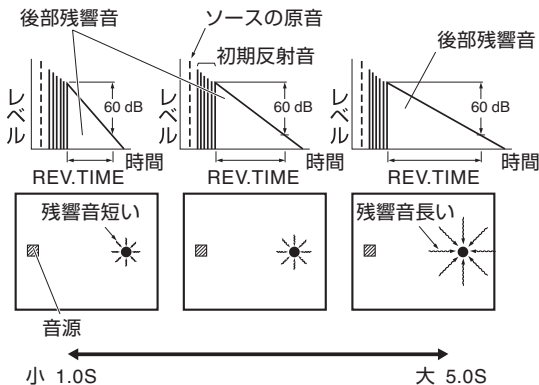
■ SB LIVENES
（サラウンドバック音場の反響量の調節）

サラウンドバック音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバック音場の響きが強くなります。
6.1 または 7.1 チャンネルで再生しているときのみ有効です。

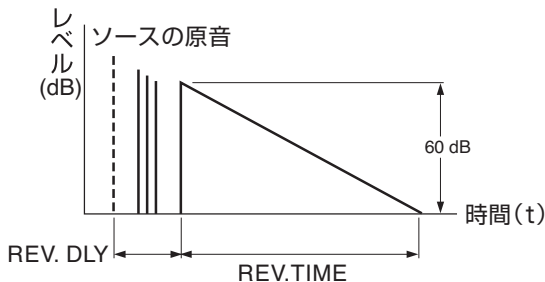
可変範囲： 0 ～ 10

■ REV. TIME（残響時間の調節）

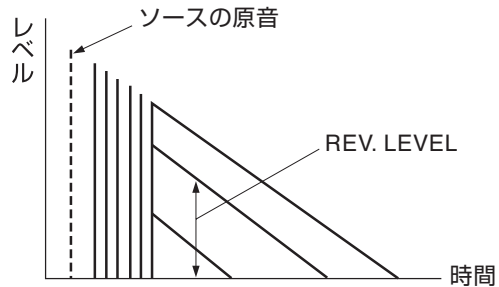
後部残響音が減衰していく時間を調節するパラメーターです。約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。REV. TIMEを調節することにより、反響が少なめのソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆に反響が多めのソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるように調節することができます。

可変範囲：1.0～5.0s

■ REV. DLY（残響音の遅延時間の調節）

残響音が発生し始めるまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、残響音が初期反射音より遅れて発生するようになります。同じREV. TIMEでも、REV. DELAYを長くしていくと大きな空間の残響感になります。

可変範囲： 0～250ms

■ REV. LEVEL（残響音の強さ調節）

後部残響音のレベルを調節するパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。

可変範囲： 0～100%

■ CT LEVEL（センターチャンネルの音量調節）

7ch Stereoプログラムでの、センターチャンネルの音量を調節します。

可変範囲： 0～100%

■ SL LEVEL
（サラウンドLチャンネルの音量調節）

7ch Stereoプログラムでの、サラウンドLチャンネルの音量を調節します。

可変範囲： 0～100%

■ SR LEVEL
（サラウンドRチャンネルの音量調節）

7ch Stereoプログラムでの、サラウンドRチャンネルの音量を調節します。

可変範囲： 0～100%

■ SB LEVEL
（サラウンドバックチャンネルの音量調節）

7ch Stereoプログラムでの、サラウンドバックチャンネルの音量を調節します。

可変範囲： 0～100%

以下のパラメーター（PANORAMA、DIMENSION、CENTER WIDTH、C. IMAGE）は、SUR. STANDARDが音場プログラムに選ばれているときのみ設定することができます。

■ PANORAMA（フロント音場の広がり感の調節）

PRO LOGIC II MusicおよびPRO LOGIC IIx Musicプログラムでの、フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。フロントL／Rの音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。

選択項目： ON ／ OFF

初期設定： OFF

■ DIMENSION（フロント音場とサラウンド音場のレベル差の調節）

PRO LOGIC II MusicおよびPRO LOGIC IIx Musicプログラムでの、フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。−（マイナス）にするとサラウンド側、＋（プラス）にするとフロント側が強くなります。

可変範囲： −３～STD（標準）～＋３

初期設定： STD

■ CENTER WIDTH（センター音声の広がりの調節）

PRO LOGIC II MusicおよびPRO LOGIC IIx Musicプログラムでの、センター音声の左右への広がりを調節するパラメーターです。センターからの音声を、好みに合わせて左右に振り分けることができます。0にするとセンターのみ、7にするとフロントL／Rのみからセンター音声が出力されます。

可変範囲： ０～７

初期設定： ３

■ C. IMAGE（フロント音場の広がり感の調節）

DTS Neo:6 Musicプログラムでの、フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。

可変範囲： 0.0 ～ 1.0

初期設定： 0.3

音場プログラムについて

本機には、音楽に最適なHiFi DSP音場プログラム、映画に最適なCINEMA DSP音場プログラム、元の音を忠実にデコードして再現するストレートデコードプログラムが搭載されています。

音場プログラムによって設定の手順は違います。詳しくは、下記をご参照ください。

−「基本的な再生のしかた」の手順９（☞44 ページ）
−「ドルビーデジタル／DTSソフトを再生する」（☞50 ページ）
−「２チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ」（☞51 ページ）
−「サラウンドL／Rスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ」（☞53 ページ）
−「ステレオ再生する」（☞54 ページ）
−「高音質でステレオ再生する」（☞54 ページ）
−「夜間に小音量で音声を楽しむ」（☞55 ページ）
−「音場効果をかけずに再生する」（☞56 ページ）

ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられる場合がありますが、故障ではありません。
- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

HiFi DSP音場プログラム

CDなどのステレオ音楽の再生に最適なプログラムです。

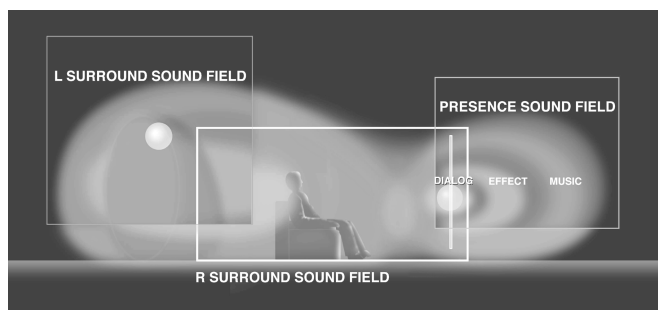
- フロントL／Rスピーカーの他に４本のエフェクトスピーカープレゼンスL／プレゼンスR（サラウンドL／サラウンドR）で音場を再現します。
- 入力信号に応じて各種デコーダーが使用されます。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STEREO 1	ステレオ STEREO	チャンネル ステレオ 7ch Stereo	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴の音場プログラムです。ホームパーティーのBGMに最適です。セットメニューの設定により、最大７つのスピーカーから音が出力されます。
MUSIC 2	ミュージック MUSIC	ホール イン ビエナ Hall in Vienna	1700席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
		ザ ボトム ライン The Buttom Line	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
		ザ ロキシー シアター The Roxy Thtr	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460席程度です。客席中央左寄りの音場です。
ENTERTAIN 3	エンターテイメント ENTERTAINMENT	ディスコ Disco	ディスコミュージックに包まれる、ノリの良い音場空間を演出するプログラムです。

CINEMA DSP音場プログラム

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP音場プログラム」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、またBS／地上波デジタル放送の音声フォーマットであるAACなどの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ（最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス）でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。

CINEMA DSP音場プログラムでは、フロントL／センター／フロントRチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。

- 入力信号に応じて、各デコーダーおよび方向性強調回路が使用されます。
- センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。
- フロントL／Rスピーカーも方向性強調に信号処理された出力になります。
- プレゼンス音場処理によって画面奥行きへの音場表現が得られます。さらに、サラウンド音場処理によってスケールの大きなサラウンド感が得られます。
- 入力モードが「AUTO」に設定されている場合、MOVIE THEATERプログラムとSUR. ENHANCEDプログラムでは、ドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場、DTS再生用音場またはAAC再生用音場に切り替わります。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
MUSIC 2	ミュージック MUSIC	ロック　ポップ Rock ／ Pop	ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。
ENTERTAIN 3	エンターテイメント ENTERTAINMENT	モノ　ムービー Mono Movie	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。
		ゲーム Game	モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。
		スポーツ TV Sports	プレゼンス音場は狭めてありますが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
MOVIE 4	MOVIE THEATER	Spectacle	70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生み出します。70mm映画初期の作品から最新のドルビーデジタルソフトやDTSソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。
		Sci-Fi	最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、サイエンス・フィクションの世界を仮想空間音場で楽しめます。
		Adventure	最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm／ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現するとともに音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデッドにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きとともにアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。
		General	70mm／ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。
STANDARD 5	PRO LOGIC SUR. ENHANCED		ドルビーサラウンド、DTSサラウンドまたはAACサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。35mm映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。
	DOLBY DIGITAL SUR. ENHANCED		
	DOLBY DIGITAL EX: SUR. ENHANCED		
	DTS: SUR. ENHANCED		
	DTS + DOLBY EX: SUR. ENHANCED		
	DTS ES Mtrx 6.1: SUR. ENHANCED		
	DTS ES Disc 6.1: SUR. ENHANCED		
	AAC SUR. ENHANCED		

ストレートデコードプログラム

音場効果をかけずに元の音で再生したい場合は、下記のストレートデコードプログラムを選んでください。

本機には下記のデコーダーが搭載されています。
- マルチチャンネルソース用のドルビーデジタル、DTS、AACデコーダー
- サラウンドバックチャンネル音声再生用のドルビーデジタルEX、ドルビープロロジックIIx、DTS-ESデコーダー
- 96kHz／24bitの高音質再生用のDTS 96／24デコーダー
- ドルビーサラウンドと2チャンネルソース用のドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIx、DTS Neo:6デコーダー

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STANDARD 5	DOLBY DIGITAL SUR. STANDARD		ドルビーデジタル、DTS、AACで処理されたソースの再生用です。セパレーションに優れ、安定したデコードが得られます。
	DTS SUR. STANDARD		
	AAC SUR. STANDARD		
SELECT 6 *	PRO LOGIC SUR. STANDARD		2チャンネル音声をそれぞれの方式でマルチチャンネル化して再生します。
	PLII Movie SUR. STANDARD		
	PLII Music SUR. STANDARD		
	PLII Game SUR. STANDARD		
	PLIIx Movie SUR. STANDARD		
	PLIIx Music SUR. STANDARD		
	PLIIx Game SUR. STANDARD		
	Neo:6 Cinema SUR. STANDARD		
	Neo:6 Music SUR. STANDARD		

* STANDARDキーを押してSUR. STANDARDを選んだあとにSELECTキーを押して、お好みのデコードプログラムを選びます（SELECTキーを押したのみでは切り替わりません）。詳しくは50ページの「ドルビーデジタル／DTSソフトを再生する」、51ページの「2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ」をご覧ください。

入力信号別音場プログラム名一覧

SUR. ENHANCED プログラムおよびストレートデコードプログラムは、本機に入力されている信号の種類と、デコーダーの動作により名前が変わります。

プログラム / 入力信号	ストレートデコードプログラム	SUR. ENHANCED プログラム
アナログ PCM ドルビーデジタル（2ch） DTS（2ch） AAC（2ch）	PRO LOGIC ／ SUR. STANDARD PLII Movie ／ SUR. STANDARD PLII Music ／ SUR. STANDARD PLII Game ／ SUR. STANDARD PLIIx Movie ／ SUR. STANDARD PLIIx Music ／ SUR. STANDARD PLIIx Game ／ SUR. STANDARD Neo:6 Cinema ／ SUR. STANDARD Neo:6 Music ／ SUR. STANDARD	PRO LOGIC ／ SUR. ENHANCED PLII Movie ／ SUR. ENHANCED PLIIx Movie ／ SUR. ENHANCED Neo:6 Cinema ／ SUR. ENHANCED
ドルビーデジタル	DOLBY DIGITAL ／ SUR. STANDARD DD + PLIIx Movie ／ SUR.STANDARD*1 DD + PLIIx Music ／ SUR.STANDARD*2 DOLBY DIGITAL EX／ SUR.STANDARD*3	DOLBY DIGITAL ／ SUR. ENHANCED DD + PLIIx Movie ／ SUR.ENHANCED*1 DD + PLIIx Music ／ SUR.ENHANCED DOLBY EX ／ SUR.ENHANCED
DTS	DTS ／ SUR. STANDARD DTS + PLIIx Movie ／ SUR. STANDARD*1 DTS + PLIIx Music ／ SUR. STANDARD*2 DTS + DOLBY EX ／ SUR. STANDARD*3 DTS ES Mtrx6.1 ／ SUR. STANDARD*4 DTS ES Disc6.1 ／ SUR. STANDARD*5 DTS 96／24 ／ SUR. STANDARD*6	DTS ／ SUR. ENHANCED DTS + PLIIx Movie ／ SUR. ENHANCED*1 DTS + PLIIx Music ／ SUR. ENHANCED*2 DTS + DOLBY EX ／ SUR. ENHANCED*3 DTS ES Mtrx6.1 ／ SUR. ENHANCED*4 DTS ES Disc6.1 ／ SUR. ENHANCED*5
AAC	AAC ／ SUR. STANDARD AAC + PLIIx Movie ／ SUR.STANDARD*1 AAC + PLIIx Music ／ SUR.STANDARD*2 AAC + DOLBY EX ／ SUR.STANDARD*3	AAC ／ SUR.ENHANCED AAC + PLIIx Movie ／ SUR.ENHANCED*1 AAC + PLIIx Music ／ SUR.ENHANCED*2 AAC + DOLBY EX ／ SUR.ENHANCED*3

*1 ドルビープロロジックIIxデコーダー（Movieモード）動作時（DD PLIIx 点灯時）
*2 ドルビープロロジックIIxデコーダー（Musicモード）動作時（DD PLIIx 点灯時）
*3 ドルビーデジタルEXデコーダー動作時（DD EX 点灯時）
*4 DTS-ESマトリクスデコーダー動作時（MATRIXインジケーター点灯時）
*5 DTS-ESディスクリートデコーダー動作時（DISCRETEインジケーター点灯時）
*6 DTS 96／24デコーダー動作時（96/24 点灯時）

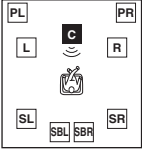
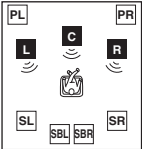
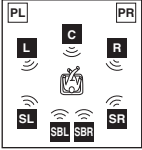
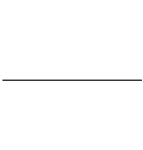
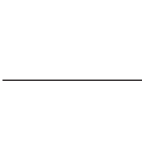
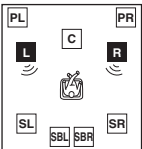
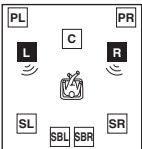
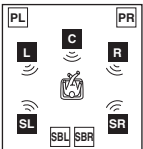
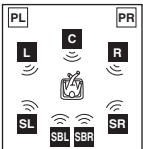
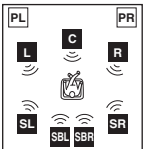
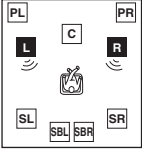
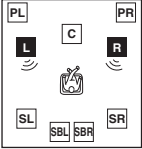
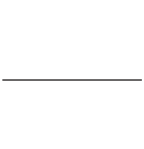
入力信号と再生スピーカー対応表

入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

ご注意

再生するソースによっては、スピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音など、シーンに合わせて部分的にしか使われないチャンネルもあります。

表中のイラストは以下の内容を示しています。

L：　フロントLスピーカー
C：　センタースピーカー
R：　フロントRスピーカー
PL：　プレゼンスLスピーカー
PR：　プレゼンスRスピーカー
SL：　サラウンドLスピーカー
SR：　サラウンドRスピーカー
SBL：　サラウンドバックLスピーカー
SBR：　サラウンドバックRスピーカー

■：　音が出ているスピーカー

□：　音が出ていないスピーカー

音場プログラム	2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1チャンネル音声（DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター消灯時）	5.1/6.1チャンネル音声（DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター点灯時）	
				PR/SB SELECT：PRchに設定	PR/SB SELECT：SBchに設定
STEREO 2ch Stereo					
STEREO 7ch Stereo サラウンドバックスピーカー接続時					
サラウンドバックスピーカー未接続時					
CONCERT HALL JAZZ CLUB ROCK CONCERT ENTERTAINMENT Disco					

音場プログラム	2 チャンネル音声 （モノラル）	2 チャンネル音声 （ステレオ）	5.1/6.1 チャンネル音声 (EX/PLIIx/ES インジケーター消灯時)	5.1/6.1 チャンネル音声 (EX/PLIIx/ES インジケーター点灯時) PR/SB SELECT： PRch に設定	PR/SB SELECT： SBch に設定
ENTERTAINMENT Game MUSIC VIDEO TV THEATER MOVIE THEATER					
SUR. STANDARD DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	PRO LOGIC	PRO LOGIC			
SUR. ENHANCED DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	PRO LOGIC	PRO LOGIC			
PRO LOGIC IIx PLIIx Movie PLIIx Music PLIIx Game	Movie/Game Music	Movie/Music/Game	―	―	―
PRO LOGIC II PLII Movie PLII Music PLII Game	Movie/Game Music	Movie/Music/Game	―	―	―

音場プログラム	2 チャンネル音声（モノラル）	2 チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1 チャンネル音声（DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター消灯時）	5.1/6.1 チャンネル音声（DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター点灯時）PR/SB SELECT：PRch に設定	PR/SB SELECT：SBch に設定
DTS Neo:6 Movie Neo:6 Music Neo:6 Game	Cinema Music	Cinema/Music	—	—	—
STRAIGHT	モノラル再生				
PURE DIRECT	モノラル再生		—	—	—

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグを抜いて、お買上店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう、またはSTANDBY/ONスイッチ（またはSYSTEM POWERキー）を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントにしっかりと差し込んでください。	34
	スピーカーコードがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	18
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	–
使用中に突然電源が切れる	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。	–
	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って（約1時間程度）、電源を入れなおしてください。	–
オンスクリーン表示が出ない	オンスクリーン表示の設定が「OFF」になっている。	フル表示またはショート表示に設定してください。	35
	セットメニュー「DISPLAY SET」の「GRAY BACK」がOFFに設定されている。	映像信号が入力されていないときは、表示されません。常に表示させる場合は、AUTOに設定してください。	74
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	21 ～ 31
	（ドルビーデジタルまたはAACの音声が出ない場合）入力モードがDTSまたはANALOGに設定されている。	入力モードをAUTOに設定してください。	88
	再生したい入力ソースが正しく選ばれていない。	本体のINPUTセレクターやリモコンの入力選択キー、本体のMULTI CH INPUTキー（またはリモコンのMULTI CH INキー）で、再生したい入力ソースを正しく選んでください。	49
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	18
	音を出すフロントスピーカーが、正しく選ばれていない。	SPEAKERS A／Bスイッチで、フロントスピーカーを正しく選んでください。	43
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	49
	消音されている。	リモコンのMUTEキーを押して（または本体のVOLUMEコントローラーを回して）消音を解除し、音量を調節してください。	49
	DTS信号でコード化されたソースを再生しているのに、入力モードがANALOGに設定されている。	入力モードをAUTOかDTSに設定してください。	88
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	–
画像が出ない	本機と接続している外部機器が同じ種類のビデオ端子で接続されていない。	ビデオコンバージョン機能をオンにしてください。	74

症状	原因	対策	参照ページ
音声が突然出なくなる	ショートが起きたなどで、保護回路が機能した。	スピーカーケーブルの接続を確認して、電源を入れ直してください。	18
	スリープタイマーが機能した。	電源を入れて、ソースを再生し直してください。	–
	消音された。	リモコンのMUTEキーを押して（または本体のVOLUMEコントローラーを回して）消音を解除し、音量を調節してください。	49
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	17～31
	セットメニューのスピーカーの音量のバランスが適切に設定されていない。	セットメニュー「SPEAKER LEVEL」で音量のバランスを設定し直してください。	67
音がセンタースピーカーのみから出る	シネマDSPプログラムでモノラル音声を再生すると、音の信号はすべてセンタースピーカーへ送られるため、フロントスピーカーやサラウンドスピーカーから音はでません。		–
エフェクトスピーカー（センター、サラウンドL／R、サラウンドバックL／R）から音声が出ない	音場効果をかけずに再生している。	STRAIGHT／EFFECTキーを押して、音場効果をかけて再生してください。	56
	再生するソースと音場プログラムの組み合わせによっては、音が出ないチャンネルがあります。	他の音場プログラムをお試しください。	99～106
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーの音量が小さい。	センタースピーカーの音量を調節してください。	67
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「CENTER SP」をNONEに設定している。	お使いのセンタースピーカーに合わせて、LRGまたはSMLに設定してください。	64
	HiFi DSP音場プログラム（7ch Stereo以外）を選んでいる。	他の音場プログラムをお試しください。	99～106
サラウンドL／Rスピーカーから音声が出ない	サラウンドL／Rスピーカーの音量が小さい。	サラウンドL／Rスピーカーの音量を調節してください。	67
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」をNONEに設定している。	お使いのサラウンドL／Rスピーカーに合わせて、LRGまたはSMLに設定してください。	64
	ストレートデコードモードでモノラルソースを再生している。	STRAIGHT／EFFECTキーを押して、音場効果をかけて再生してください。	56
サラウンドバックスピーカーから音声が出ない	サラウンドバックスピーカーの音量が小さい。	サラウンドバックスピーカーの音量を調節してください。	67
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」をNONEに設定している。	「SUR. L/R SP」をNONEに設定すると、自動的に「SUR. B」もNONEに設定されます。「SUR. L/R SP」をLRGまたはSMLに設定してください。	64
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. B L/R SP」をNONEに設定している。	お使いのサラウンドバックスピーカーに合わせて、LRGまたはSMLに設定してください。	65
サブウーファーから音声が出ない	セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」をFRONTに設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	SWFRまたはBOTHに設定してください。	65
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」をSWFRまたはFRONTに設定したまま、2チャンネル信号を再生している。	BOTHに設定してください。	65
	再生しているソースにLFEや低音信号が含まれていない。		–

症状	原因	対策	参照ページ
ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない（本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSインジケーターが点灯しない）	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」および「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	―
	入力モードをANALOGに設定している。	入力モードをAUTOまたはDTSに設定してください。	88
低音の再生不良	セットメニュー「SPEAKER SET」の「CROSS OVER」が正しく設定されていない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、正しく設定してください。	66
	セットメニュー「SPEAKER SET」の設定が実際のスピーカーシステムの構成と一致していない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、各スピーカーを正しく設定してください。	64 ～ 66
ハム音が出る	ケーブルがしっかり接続されていない。	ケーブルをしっかり差し込んでください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	21 ～ 31
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機の出力端子に接続された機器の電源が入っていない。	AVアンプという製品ジャンルの特性上、出力端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	―
有線放送などでエフェクトチャンネル（センター、サラウンドL／R）の音がノイズになる。	あらかじめソースにサラウンド効果がかかっている。	本機でサラウンド効果をかけないで再生してください。	―
サラウンドと音場効果をかけた音を録音できない	サラウンドと音場効果をかけた音は録音できません。		―
本機のデジタル出力端子に接続した録音機器で録音ができない	再生機器が本機のデジタル入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のデジタル入力端子に接続してください。	21 ～ 31
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTSおよびAACなどのデジタルデータを録音できません。		―
本機のアナログ音声出力端子に接続した録音機器で録音できない	再生機器が本機のアナログ入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のアナログ入力端子に接続してください。	21 ～ 31
音場プログラムパラメーターやセットメニューの設定値を変更できない	セットメニュー「MEMORY GUARD」をONに設定している。	OFFに設定してください。	75
セットメニューなどの設定内容が消えている	1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっている。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度設定しなおしてください。	―
本機が正常に動作しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	―
本体ディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示される	スピーカーケーブルがショートを起こしている。	すべてのスピーカーコードが正しく接続されているか確認してください。	18
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴くと、音が歪む	本機の電源がスタンバイ状態になっている。	本機の電源を入れてください。	34
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	―

症状	原因	対策	参照ページ
画像が乱れる	再生している映像ソフトにコピー防止機能がついている。		–
本機の電源が突然スタンバイ状態になる	本機内部が高温になったため、加熱防止回路が機能した。	本機の電源がスタンバイ状態のまま約１時間置いて、温度が低くなってから電源を入れ直してお使いください。	34

FM ／ AM 放送の受信

症状		原因	対策	参照ページ
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	33
			屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	–
			マニュアル選局をしてください。	46
	FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	33
	オート選局ができない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてみてください。	–
			マニュアル選局をしてください。	46
	プリセット選局ができない	プリセット（メモリー）が消えている。	1 週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度プリセットしてください。	57 ～ 59
AM	オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AM ループアンテナの方向を変えてください。	33
			マニュアル選局をしてください。	46
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM 屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	–
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	–

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から 6m 以内、30°以内の範囲で操作してください。	16
	本機のライブラリーコードとリモコン ID が一致していない。	ライブラリーコードまたはリモコン ID の設定を変えてください。	83、113
	受光窓に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	–
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	16
外部機器がリモコンで操作できない	操作する機器が選ばれていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選んでください。	49
	メーカーコードが正しく設定されていない。	メーカーコードを設定し直すか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	78
	メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	メーカーコードを設定しても操作できない機器は、その機器に付属のリモコンをお使いください。	–

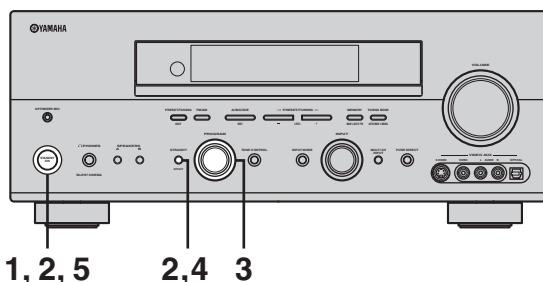
本機の設定を変更する（ADVANCED SETUP）

ADVANCED SETUPにより、本機の設定を初期設定にもどしたり、リモコンIDを変更することができます。

ご注意

- ADVANCED SETUPの操作をしているあいだは、本機から音が出なくなります。
- ADVANCED SETUPの操作をはじめると、本体のSTANDBY/ONスイッチ、STRAIGHT／EFFECTキー、PROGRAM ⊲／⊳キー以外は機能しません。

ADVANCED SETUPの操作手順

本体フロントパネルで操作します。

1 本機の電源をスタンバイ状態にする。

2 STRAIGHT／EFFECTキーを押しながら、STANDBY/ONスイッチを押す。

本機の電源がオンになり、本体ディスプレイにADVANCED SETUPのメニューが表示されます。

を押しながら

3 PROGRAM セレクターを回して設定したいメニュー（PRESETまたはREMOTE）を選ぶ。

詳しくは右記の「ADVANCED SETUPの メニューと項目」をご覧ください。

4 STRAIGHT／EFFECTキーを繰り返し押して設定したい項目を選ぶ。

5 STANDBY/ONスイッチを押して決定する。

手順5を行うと、ADVANCED SETUPの手順は終了します。
電源をオンにすると、選んだ設定が有効になります。

ADVANCED SETUPのメニューと項目

必要に応じて初期設定を変更してください。

■ PRESET（初期設定にもどす）

変更したセットメニューの設定や音場プログラムパラメーター、登録（プリセット）されたFM／AM放送局などをすべて初期設定に戻すことができます。

選択項目： CANCEL、RESET
初期設定： CANCEL

CANCEL：本機のすべての設定を初期設定に戻しません。

RESET：本機のすべての設定を初期設定に戻します。

ご注意

RESETを選んでも、REMOTE（リモコンID）の設定は初期設定に戻りません。

■ REMOTE（リモコン ID）

本機のリモコン ID を切り替えます。

選択項目： ID1、ID2
初期設定： ID1

ID1：通常のライブラリーコードを使って本機を操作するときに選びます。

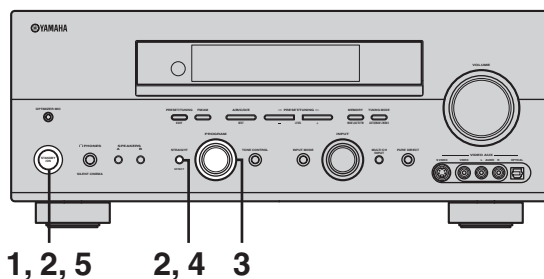
ID2：別系統のライブラリーコードを使って本機を操作するときに選びます。

ご注意

リモコンのライブラリーコードの設定もあわせてご確認ください。詳しくは、83 ページの「本機のライブラリーコードを変更する」をご覧ください。

全ての設定を初期設定に戻す

変更したセットメニューの設定や音場プログラムパラメーター、登録（プリセット）された FM ／ AM 放送局などをすべて初期設定に戻すことができます。

本体フロントパネルで操作します。

1 本機の電源をスタンバイにする。

2 STRAIGHT ／ EFFECT キーを押しながら、STANDBY/ON スイッチを押す。

ADVANCED SETUP メニューが本体ディスプレイに表示されます。

を押しながら

ヒント

初期設定に戻すのをやめる場合は、STANDBY/ON スイッチを押してください。

3 PROGRAM セレクターを回して、PRESET を選ぶ。

4 STRAIGHT ／ EFFECT キーを押して、PRESET -RESET または PRESET -CANCEL を選ぶ。

RESET：全ての設定を初期設定に戻します。
CANCEL：初期設定に戻しません。

5 STANDBY/ON スイッチを押す。

「RESET」を選んだ場合は、全ての設定が初期設定に戻り、本機の電源は再びスタンバイ状態になります。
「CANCEL」を選んだ場合は初期設定に戻らずに、本機はそのままスタンバイ状態になります。

音声フォーマット編

■ ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロントL／Rチャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

■ ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3チャンネル（フロントL／R、センター）と、サラウンド2チャンネル（サラウンドL／R）、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド2チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から5.1チャンネルスピーカーシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

■ ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、ドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています（サラウンドバックチャンネルはサラウンドLとサラウンドRチャンネルから作られます）。
ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

■ ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIはドルビープロロジックを改良した方式で、ドルビーサラウンド方式のソフトに多く採用されています。2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の2チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■ ドルビープロロジックIIx

ドルビープロロジックの最新技術です。2チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な6.1チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用のMovieモード（2チャンネル信号入力時のみ）、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。

■ AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2オーディオ規格の1つで、BS／地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS／地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

■ DTS（デジタル・シアター・システムズ）デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル（フロントL／R、センター、サラウンドL／Rチャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル）で構成されています。

■ DTS-ES

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、DTS-ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたサラウンドバックチャンネル信号を再生する、ディスクリート方式と、サラウンドL／Rチャンネル信号からサラウンドバックチャンネル信号を生成して再生する、マトリクス方式の2つの方式に対応しています。
DTS-ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

■ DTS Neo:6

2チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた6チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

■ DTS 96／24

DTS 96／24はDVDビデオのマルチチャンネルサウンドを高音質で再生します。従来のDTSデコーダーとも互換性があるため、DTS96／24に対応していない機器では、通常のDTSサラウンドとして楽しむことができます。「96」はサンプリング周波数の96kHz（従来の48kHzから倍増）、「24」は量子化ビット数24ビットを示します。広い周波数帯域、ダイナミックレンジで、DVDビデオの音楽や映画音声を5.1チャンネルで楽しむことができます。

音場プログラム編

■ サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。
音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

■ シネマDSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

■ バーチャルシネマDSP

サラウンドL／Rスピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンドL／Rスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロントL／Rスピーカーだけで、バーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

音声編

■ サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

■ 量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。
音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

■ ITU-R

電気通信分野における国際連合の専門機関である国際電気通信連合（ITU=International Telecommunication Union）の無線通信部門（ITU-Radiocommunication Sector）で、無線通信に関する国際規格を広く策定している国際機関です。リスニングルームにおけるスピーカーの配置についてもITU-Rによって勧告されています。

■ LFE（低域効果音）0.1 チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。
ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

■ PCM（リニアPCM）

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDや、DVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

映像編

■ コンポジットビデオ信号

輝度を表すY信号と、色を表すC信号をひとつの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

■ コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すPB／CB信号（青色差信号）およびPR／CR信号（赤色差信号）の3系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表わす信号から輝度を表わす信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、コンポーネントビデオ入力端子のあるモニター（テレビ）を本機に接続してください。

■ D端子

最新のAV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース／プログレッシブの情報）を、1本の専用ケーブルで接続できます。
その性能に応じてランクがD1からD5に分けられています。本機にはD4ビデオ端子が装備されており、D1からD4の規格に対応しています。

■ Sビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すC信号に分けて伝送する方式です。Sビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画／再生をお楽しみいただけます。

主な仕様

オーディオ部

定格出力（6Ω、20Hz 〜 20kHz、0.09% THD）
　フロント、センター、サラウンド、
　サラウンドバック...................................... 100W
実用最大出力（EIAJ、6Ω、1kHz、10% THD）
　フロント、センター、サラウンド、
　サラウンドバック...................................... 140W
ダイナミックパワー（IHF）
　6/4/2Ω 140/170/215W
ダンピングファクター（8Ω、20Hz 〜 20kHz）
　フロント L/R.. 120 以上
入力感度 / インピーダンス
　PHONO（MM）.......................... 2.5mV/47kΩ
　CD 他..200mV/47kΩ
　MULTI CH INPUT 200mV/47kΩ
出力電圧 / インピーダンス
　REC OUT.................................200mV/1.2kΩ
　PREOUT 2.0V/1.2kΩ
　SUBWOOFER 4.0V/1.7kΩ
ヘッドホン出力 / インピーダンス
　...150mV/100Ω
周波数特性
　CD 他－フロント L/R
　............................. 10Hz 〜 100kHz、－ 3.0dB
全高調波歪率（20Hz 〜 20kHz）
　PHONO（MM）－ REC OUT ...... 0.02% 以下
　CD 他－フロント SP OUT（50W、8Ω）
　.. 0.06% 以下
S/N 比（IHF-A ネットワーク、入力ショート）
　PHONO（MM）－ REC OUT ....80dB 以上
　CD 他（250mV 入力）－ SP OUT
　.. 100dB 以上
残留ノイズ（IHF-A ネットワーク）
　フロント SP OUT......................... 150μV 以下
チャンネルセパレーション
（5.1kΩ ターミネート、1kHz/10kHz）
　CD 他.............................60dB 以上 /45dB 以上
トーンコントロール
　BASS..± 6dB/50Hz
　TREBLE ....± 6dB/20kHz

ビデオ部

ビデオ信号方式 .... NTSC
S/N 比 .... 50dB 以上
周波数帯域（MONITOR OUT）
　VIDEO、S VIDEO
　.....................................5Hz 〜 10MHz、－ 3dB
　D4 VIDEO
　.....................................5Hz 〜 60MHz、－ 3dB

FM チューナー部

受信周波数.........................76.0MHz 〜 90.0MHz
実用感度（IHF）...................... 1.0μV（11.2dBf）
S/N 比（IHF）
　モノ / ステレオ 76dB/70dB
歪率（1kHz）
　モノ / ステレオ 0.2%/0.3%
ステレオセパレーション（1kHz）.................42dB
周波数特性.......20Hz 〜 15kHz、＋ 0.5/ － 2dB

AM チューナー部

受信周波数........................... 531kHz 〜 1611kHz
実用感度...300μV/m

総合

電源電圧...............................AC100V、50/60Hz
消費電力... 300W
待機時消費電力.. 0.1W
AC アウトレット（電源スイッチ連動× 2）
　...合計 100W
寸法（幅×高さ×奥行き）
　..435 × 171 × 420mm
質量 12.5kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

索引

あ行
アンテナ端子　33
オートプリセット　57
オート選局　46
音場プラグラム　99 ～ 106
音場プログラムパラメーター　94 ～ 98

か行
グラフィックイコライザー　69
後部残響音　93
コンポーネントビデオ信号　116
コンポジットビデオ信号　116

さ行
サイレントシネマ　115
サンプリング周波数　91、116
初期反射音　93
ストレートデコード　56、102
スピーカー端子　19
スリープタイマー　90
セットメニュー　62 ～ 76

た行
ダイナミックレンジ　70
ダイレクトステレオ　54
ディスプレイ　14 ～ 15
ドルビーデジタル　50、114
ドルビーデジタル EX　50、114
ドルビープロロジック　51、114
ドルビープロロジック II　50、51、114
ドルビープロロジック IIx　51、114

な行
ナイトリスニングモード　55

は行
バーチャルシネマ DSP　53、115
バックグラウンドビデオ機能　56
光デジタル端子　21
ビットレート　91
ビデオコンバージョン機能　23
フラグ　91
プリセット選局　59

ま行
マニュアルプリセット　58
マニュアル選局　46
メーカーコード　78 ～ 79

ら行
量子化ビット数　116

A-Z
AAC　50、114
AM ループアンテナ　33
CINEMA DSP 音場プログラム　100 ～ 101
DTS　50
DTS Neo：6　51、115
DTS 96 ／ 24　115
DTS-ES　50、115
DTS（デジタル・シアター・システムズ）　114
D4 ビデオ端子　22
D 端子　116
FM 簡易アンテナ　33
HiFi DSP 音場プログラム　99
LFE（低域効果音）　116
PCM（リニア PCM）　116
S ビデオ信号　116
S ビデオ端子　22

数字
2ch ステレオ　54

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● ヤマハ電気音響製品サービス拠点

北海道　〒064-8543　札幌市中央区南十条西 1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙　台　〒984-0015　仙台市若林区卸町 5-7
仙台卸商共同配送センター 3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏　〒143-0006　東京都大田区平和島 2 丁目 1 番 1 号
京浜トラックターミナル内 14 号棟 A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜　松　〒435-0016　浜松市和田町 200 ヤマハ（株）和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋　〒454-0058　名古屋市中川区玉川町 2-1-2
ヤマハ (株) 名古屋流通センター 3F
TEL (052) 652 - 2230

大　阪　〒565-0803　吹田市新芦屋下 1-16 ヤマハ（株）千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

四　国　〒760-0029　高松市丸亀町 8-7
（株）ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九　州　〒812-8508　福岡市博多区博多駅前 2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用の製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

● 保証期間
お買い上げ日より 1 年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

- **◆ 技術料**　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- **◆ 部品代**　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- **◆ 出張料**　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後８年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 持ち込み修理のお願い
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品（下記参照）が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくために AV 製品全般について記載しております。

製品の機能や取扱いに関するお問い合わせは、お客様ご相談センターにご連絡ください。

お客様ご相談センター

TEL　(0570) 01 - 1808（ナビダイヤル）
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話、PHS からは下記番号におかけください。
TEL（053）460 - 3409
FAX　(053) 460 - 3459
住所　〒430-8650 静岡県浜松市中沢町 10-1
ご相談受付時間　10:00～12:00、13:00～18:00
（日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。）

製品の機能や取扱いに関する情報は、下記のホームページからも入手することができます。

ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ
http://www.yamaha.co.jp/audio/

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

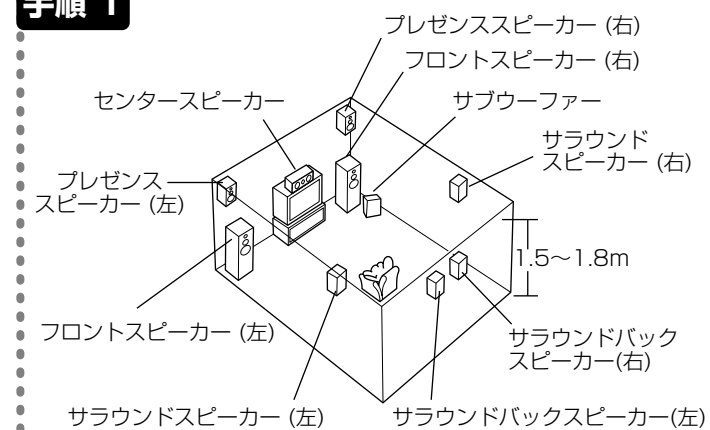
ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町 10-1

YAMAHA

DSP-AX757

簡易接続ガイド

DVD プレーヤーを接続する

DVDプレーヤーを接続して、デジタルソースを楽しむための基本的な接続のしかたを説明します。

本機および接続するすべての機器の電源コードがACコンセントに接続されていないことを確認してください。

手順 1

DVDプレーヤー

光デジタル出力 / アナログ音声出力 R L / ビデオ出力 / Sビデオ出力 / D1/D2/D3/D4出力 / コンポーネントビデオ出力 PR PB Y

手順 3 手順 4 ③ ② ①

プレゼンススピーカー (右) (左)　サブウーファー

手順 2

AC100V コンセントへ

防塵キャップをはずします。はずしたキャップは大切に保管してください。

手順 4 ③ ② ①

テレビ

ビデオ入力 / Sビデオ入力 / D1/D2/D3/D4入力 / コンポーネントビデオ入力 PR PB Y

手順 2

フロントスピーカー (右) (左)　センタースピーカー　サラウンドバックスピーカー (右) (左)　サラウンドスピーカー (右) (左)

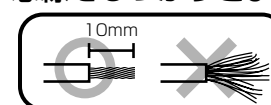
お手持ちのDVDプレーヤーまたはテレビにコンポーネントビデオ端子がある場合は、本機のコンポーネントビデオ端子に接続することもできます。

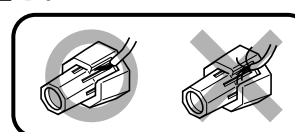
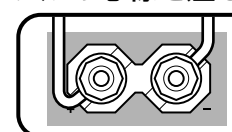
スピーカーケーブルを接続する際は、プラス(+)とマイナス(−)、(L)と(R)を間違えないように注意してください。

手順 1 スピーカーの設置場所を決める

※ 取扱説明書の17ページをご覧ください。

手順 2 スピーカーケーブルを接続する

1. スピーカーケーブル先端部の絶縁部を10mmくらいはがす。
2. 芯線をしっかりとよじる。

芯線をしっかりとよじらないとショート（短絡）の原因になります。

3. スピーカー端子を左に回してゆるめる。
4. スピーカー端子のわきの穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。

スピーカーケーブルは端子の穴に、しっかりと差し込みます。プラス(+)とマイナス(−)がショート(短絡)していたり、絶縁部分(ビニール)まで差し込むと、故障や音が出ない等の原因になります。

5. スピーカー端子を右に回して、締め付ける。
6. サブウーファーはサブウーファー用ピンケーブルで本機と接続する。

手順 3 音声ケーブルを接続する

DVDプレーヤーの光デジタル出力端子を光ファイバーケーブルで本機の光デジタル入力(DVD)端子に接続する。

※ DVDプレーヤーのデジタル音声出力端子が同軸デジタル端子の場合は、同軸デジタル入力(DVD)端子に接続してください。詳しくは取扱説明書の23、24ページをご覧ください。

手順 4 映像ケーブルを接続する

映像端子は、図にあるすべての端子を接続する必要はありません。お使いになるDVDプレーヤーとテレビの端子をご確認のうえ、両方に共通する端子を使って接続してください。

※ 最良の画質でお楽しみいただくためにも、なるべく高品位な端子を使って接続してください。端子による画質の違いについては、下記の「映像端子による画質の違い」をご覧ください。

※ テレビに複数の端子を使って接続した場合には、テレビ側で入力の選択を行ってください。

※ ビデオコンバージョン機能により、DVDプレーヤーとテレビの端子が違う場合でも、映像をお楽しみいただけます。詳しくは裏面の「ビデオ信号の変換について」をご覧ください。

映像端子による画質の違い

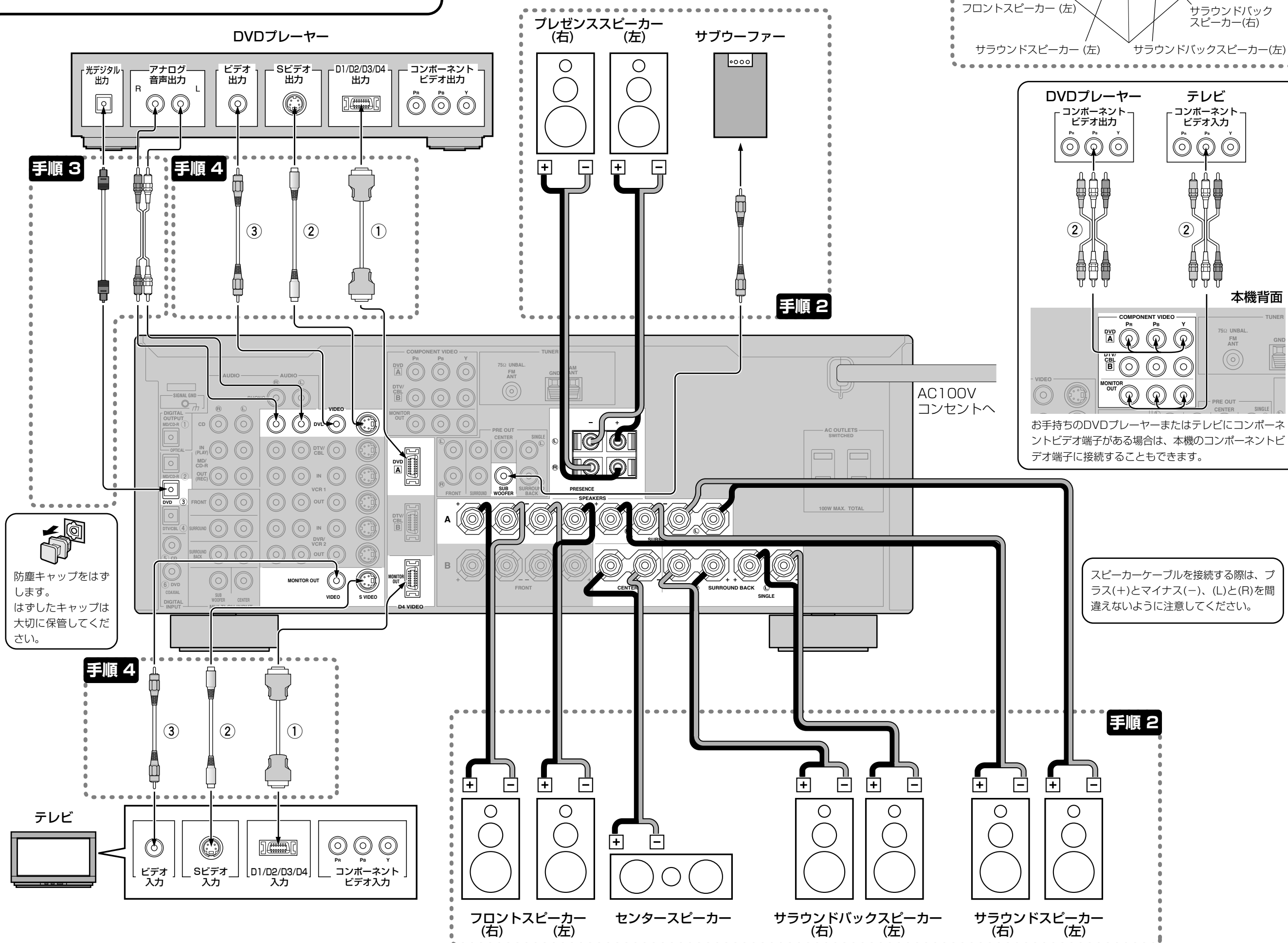
接続する端子によって画像の質が異なります。
できるだけ画質の良い端子を使って接続することをおすすめします。

<画質>	<端子の種類>
① 最良	D 端子
② 最良	コンポーネントビデオ端子
③ 良い	S ビデオ端子
④ 通常	ビデオ端子

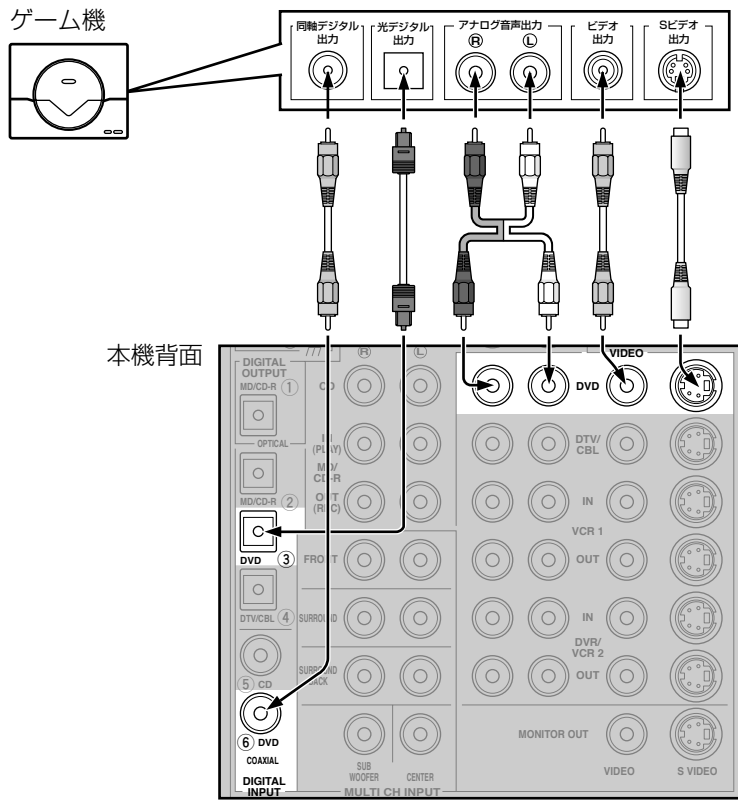
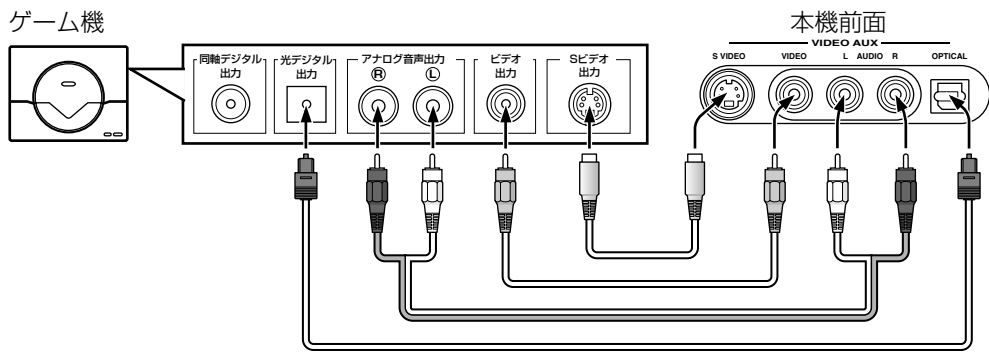
手順 5 DVD を再生する

※ 取扱説明書の42～44ページをご覧ください。DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

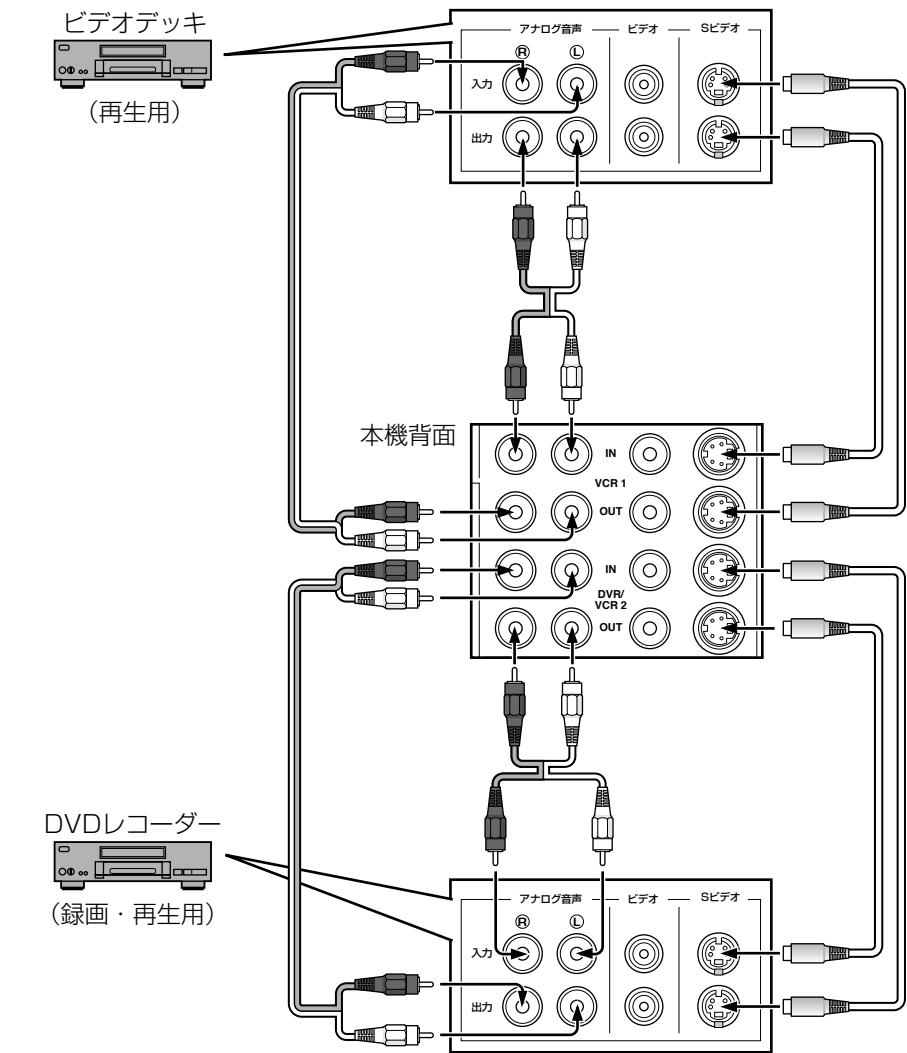
Printed in Malaysia WE59980

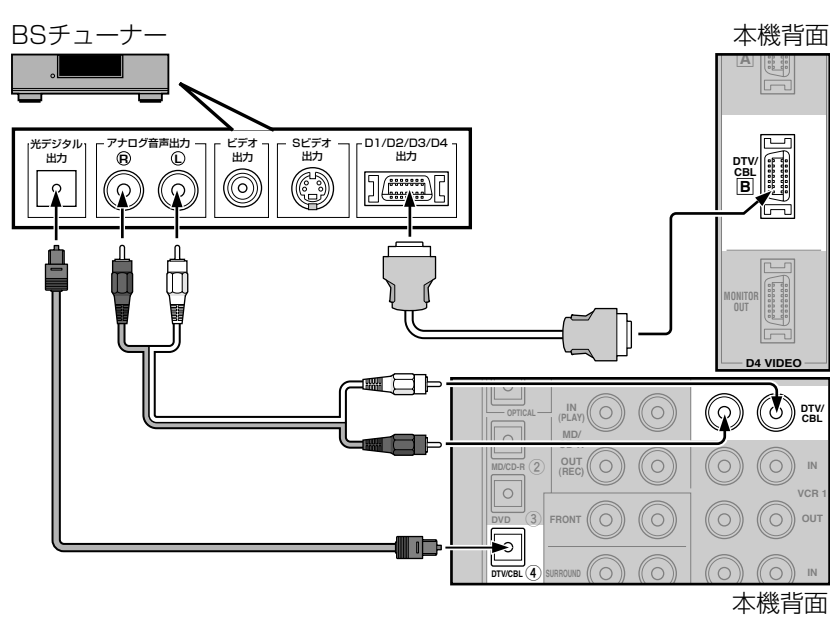
©2005 YAMAHA CORPORATION All rights reserved.

さまざまな機器を接続する

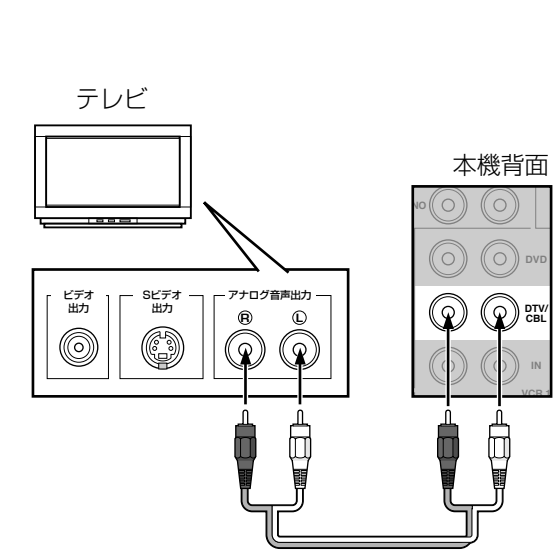
DVDプレーヤー機能つきのゲーム機の接続

本機の DVD の端子に接続することができます。

本機前面からの接続

※ テレビにSビデオ端子がある場合には、Sビデオケーブルで接続するとビデオ端子よりも高画質な映像を再生できます。

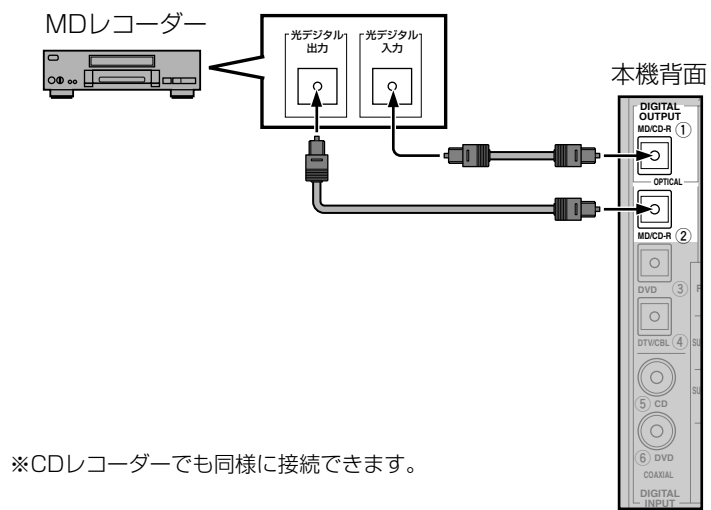
録画機器／再生機器の接続

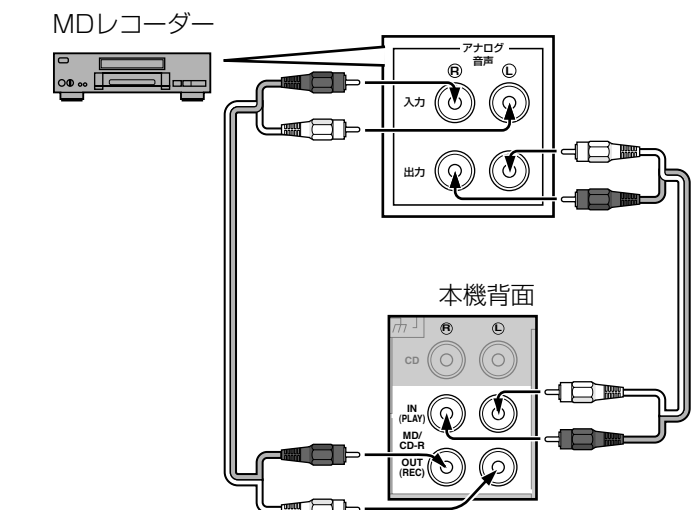
DVD レコーダーは VCR2/DVR 端子に接続します。
ビデオデッキは VCR 1 端子に接続します。

※ DVDレコーダーの音声・映像を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「DVR/VCR2」を選択します。ビデオデッキの音声・映像を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「VCR 1」を選択します。
※ DVDレコーダー（録画・再生用）のかわりにビデオデッキを接続できます。
※ 録画する場合は、同じ種類のビデオ接続（Sビデオなど）を行なってください。
※ テレビ、DVDレコーダー、ビデオデッキにSビデオ端子がない場合は、ビデオ端子で接続してください。
※ DVDレコーダーの音声をデジタルで楽しみたいときは、DVDレコーダーを光ファイバーケーブルで接続します。詳しくは取扱説明書の27ページをご覧ください。

BSチューナー、ケーブルテレビの接続

※ BSチューナー、ケーブルテレビの音声・映像を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「DTV/CBL」を選択します。
※ テレビにD端子がない場合は、Sビデオ端子またはビデオ端子で接続してください。

テレビの音声の接続

※ テレビの音声を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「DTV/CBL」を選択します。

MDレコーダーの接続

デジタル音声の録音 / 再生

アナログ音声の録音 / 再生

※CDレコーダーでも同様に接続できます。

ビデオ信号の変換について

入力されたSビデオ信号は、ビデオ信号またはコンポーネントビデオ信号に変換され、ビデオ（MONITOR OUT）端子、コンポーネントビデオ（MONITOR OUT）端子、およびD4ビデオ（MONITOR OUT）端子にも出力されます。
本機のD4端子とコンポーネントビデオ端子の入力は同時に使用しないでください。（出力端子は可）。

⇒……… セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」がONのときのみ変換されます。
※取扱説明書の74ページをご覧ください。